

学术交流レポート

—2012—

桐蔭横浜大学

学長挨拶

桐蔭横浜大学

学長 小島 武司

「学術交流レポート2012」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、大変有意義と思います。

このレポート刊行の意義はいよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献が可能になるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学の存在感は一段と大きいものとなっているといえます。

何年か前のことですが、私はイタリアのボローニア大学(世界最古の大学)創立900年記念シンポジウムに参加し、学術報告を行ったことがあります。世界最古の大学の足跡を追いながら、教育と研究のコラボレーションの中に宿る可能性の偉大さを感じることに一入でした。

「学術交流レポート2012」は、両年度にわたる専任教員の学術研究活動をまとめたものです。本学は、2008年度よりスポーツ健康政策学部が発足したことから、法学、医用工学を併せて3つの方向に展開を進め、また、2つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、本格的な高等教育機関として総合的体制が固まりつつあるのではないかと自負しております。そこから生まれるところの学術研究活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、幅広い知的交流の機会が促進され、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわば世界のハブ組織の一つとして、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学が一段と高い役割を果たしていくスプリングボードとなるものと確信しています。

学術交流レポート2012 目次

■ 学長挨拶	1	
■ 建学の精神	3	
■ 大学組織図	4	
■ 学長	5	～ 6
■ 法学部			
法律学科	7	～ 43
■ 医用工学部			
生命医工学科	44	～ 64
臨床工学科	65	～ 91
■ スポーツ健康政策学部			
スポーツ教育学科	92	～ 118
スポーツテクノロジー学科	119	～ 136
スポーツ健康政策学科	137	～ 150
■ 工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	151	～ 168
■ 法務研究科 法務専攻	169	～ 194
■ 先端医用工学センター	195	～ 197
■ 2012年度退職教員	198	～ 208
■ 公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	209	～ 221

建学の精神

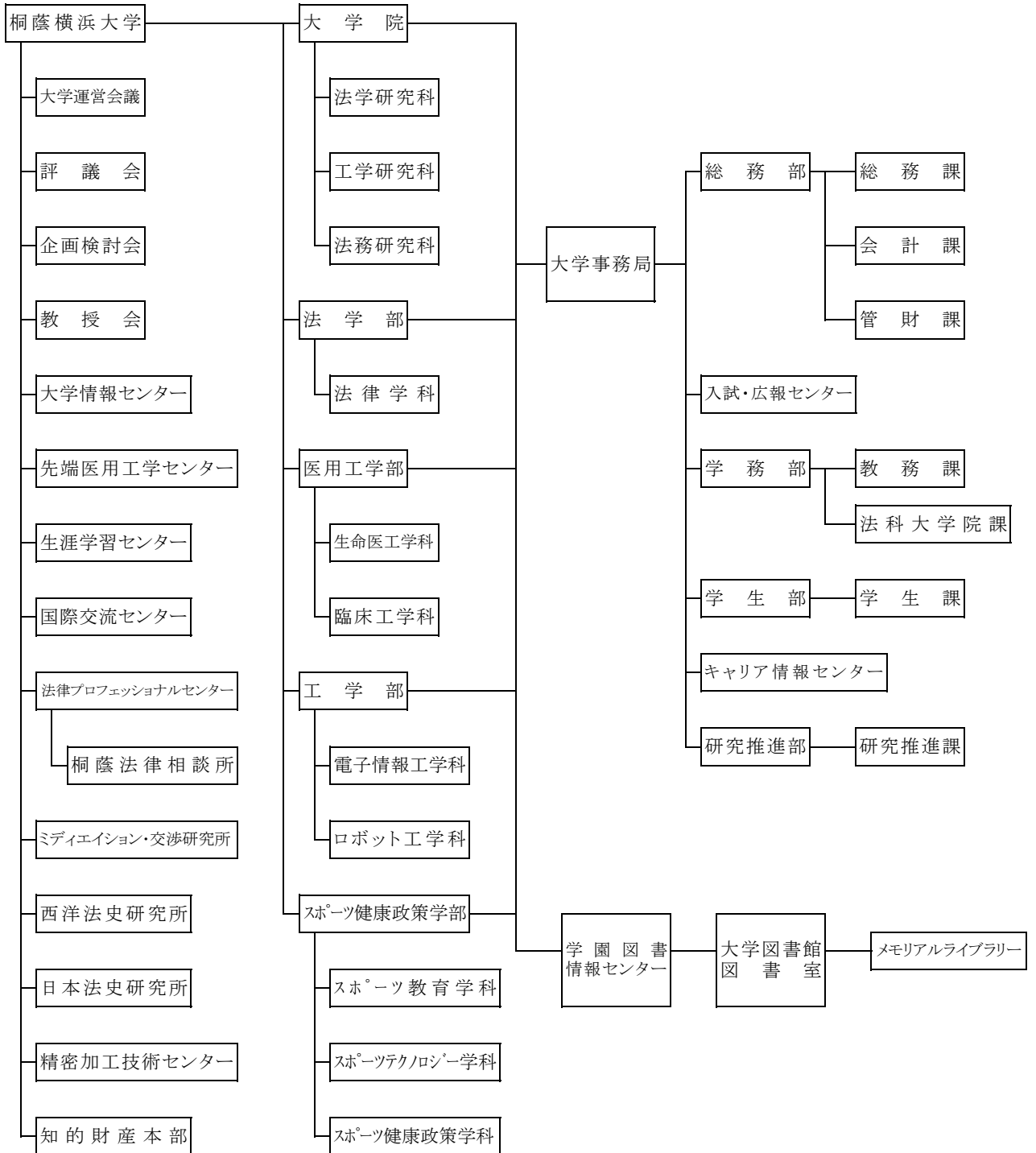
社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

大学組織 2013.4.1現在



小島 武司 (こじま たけし) 学長



出生年：1936(昭和11)年
 在籍：2006(平成18)年9月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科
 学位：法学博士(中央大学)
 学位論文：訴訟制度改革の理論等
 専門分野：民事訴訟法、仲裁法、弁護士法
 前職：中央大学法学部教授、中央大学法科大学院教授
 学内役職等：学長
 留学：ミシガン大学ロースクール(アメリカ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ケルン大学(ドイツ)
 客員教授：フランクフルト大学客員教授(ドイツ)、エクスマルセイユ大学客員教授(フランス)、コロンビア大学ロースクール(アメリカ)・ADRセミナー担当、南京大学客員教授(中国)
 資格：法曹資格
 司法試験合格(1958年)、その後司法修習(最高裁判所司法研修所)

I 教育活動

○2012年度の教育活動概略
<p>高等教育は、ユニバーサル化の段階に達し、その社会的位相は、エリート養成という役割から離れ、現代社会各層の需要に応える多彩にして力量ある人材を供給するものとして再設定されなければならない。社会はいかにしてそのエデュケイショナル・インパクトを最大化するかを注視しており、パラダイムシフトの必要は共通の認識となっている。知識再生産型の教育手法では、大学の使命は果たせないことは自明であり、双方向的かつ多方向的な対話を通じて、現実を把握し現状打開策を探究する能力を育むことができるか否かが切実に問われている。ハーバード大学などが始めた「ソクラテス・メソッド」はロースクールのケースメソッドやビジネススクールの事例研究などから発して高い水準に達しつつあり、わが国においても、今や学部レベルを含めた教育研究の手法として受容され(中央教育審議会など)、その実践面での工夫が各組織において蓄積されている。本学の教育においても、入学時はおくとして、「卒業の時点ではその目指す領域ないし課題でトップクラス」ということを確乎たる目標に据え、小規模大学独自の真価を発揮するための「成長本位制」ともいべき手法を開発していこうとしている。このためには、偏差値の壁を突破して新しい天地に通じ合う二本の支柱をスポーツと学術のそれぞれに築き上げることにしている。このような複数能力説的な観点から総合的な改革に踏み出し、とりわけ主体的学習の場としての図書館には居心地の良い学習空間として多角的機能を発揮させたい。</p> <p>今後は、桐蔭横浜大学はトップアスリートの養成による知名度の上昇を図り、各分野に特化した専門能力を修得させ、社会の要請に適した人材を世に送り出すとともに、学術活動についても、各学部で具体策を考え実践する教育研究のシステムを立ち上げ、人材養成の手法を創案していくことに努めたい。</p> <p>いまや国際化ということばが哀しく響くほどにグローバリゼーションの進行は急であり、本学でも海外研修と鋭意推進するとともに、英語によるコミュニケーションの日常化を図るとい見地から「英語村」の導入などに取り組んでいる。</p>

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略																		
<p>日本の司法制度をベースにアメリカ、イタリア、ドイツ、フランスなどにおいて行った比較法的研究を踏まえて、これまで著書、論文を(英文を含め)発表してきたが、このところ、わたくし自身の実感としては、欧米との国際的交流に代わり、中国や韓国での研究発表や講演の機会がその比重を高めている。その背景には、これまでのわたくしの研究活動と深くかかわる事項がアジア諸国における立法課題として取り上げられ、また、最先端の理論的課題となっているという事情がある。学問的営為の重点が移行し、日本の理論と経験が学術的論議の深まりに寄与するような役割を担うに至っていることは、感慨深い。</p> <p>これまでの状況の延長線において、昨年度は、裁判運営および民事調停のありかたをめぐる開催された二つの国際シンポジウムに引き続き、次年度も国際シンポジウムにおける報告等を予定している。更に、半世紀の民事訴訟法等の解釈理論を集大成した形で、民事訴訟法の体系書(全体1000頁余)を刊行した。また、仲裁法に関する体系書(共著)の執筆作業もほぼ最終段階にある。</p>																		
○著書・論文等																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>著書・論文等の名称</th> <th>単著・共著の別</th> <th>発行または発表の年月日(西暦)</th> <th>発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称</th> <th>編者・共著者名</th> <th>該当頁</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(著書)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>「民事訴訟法」</td> <td>単著</td> <td>2013年3月25日</td> <td>有斐閣</td> <td>-</td> <td>969頁</td> </tr> </tbody> </table>	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁	(著書)						「民事訴訟法」	単著	2013年3月25日	有斐閣	-	969頁
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁													
(著書)																		
「民事訴訟法」	単著	2013年3月25日	有斐閣	-	969頁													

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

○2012年度の学会活動概略

民事裁判の分野の全研究者が属する日本民事訴訟法学会を中心に、今年も研究を続けているが、同学会の理事長としての任期を終え、その展開分野に焦点を絞った「仲裁ADR法学会」(創設時の理事長)を創設し、現在は「日本司法アクセス学会」の会長として民事裁判制度と憲法にかかわる基本問題である、紛争解決の制度的最前線にある司法アクセス問題に焦点を合わせた研究活動を推進している。個人的な著作執筆活動である『民事訴訟法』および『仲裁法』の体系書もこれらの活動にかかわるものである。国際的な研究である国際民事訴訟手続の共通化の作業(ユニドロア、アメリカ法律協会)は、体系書のベースとなっている。更には世界民事訴訟法学会、そして日中韓の東北アジア民事訴訟法学会、日本交渉学会(理事)などにかかわっている。なお、過去には日本私法学会(理事)参加。

民事訴訟法を中心とする手続法学会にとって、裁判官、弁護士等によるプラクティスも重要な意味をもつ。この視点から日本仲裁人協会(理事)、仲裁ADR法協会(評議員)、自動車製造物責任相談センター理事、消費生活用製品PLセンター(審査委員会委員長、元理事)、日本司法支援センター(審査委員会委員長)、財団法人国際民商事法センター(学術評議員)などを務めている。過去のものとして、日本弁護士連合会懲戒委員、法律扶助協会理事など。なお、学術一般に関するものとしては、日本学術会議会員(第19期)を務めた。

また、立法や行政との関わりで行ってきた活動としては、法制審議会民事訴訟法部会専門委員、公証人審査会委員、司法試験第二次考査委員(以上いずれも法務省)、中央建設工事紛争審査会特別委員(建設省、現・国土交通省)、産業構造審議会総合製品安全部会臨時委員(通産省、現・経産省)、建設調達審査委員会委員(総理府)、視学委員、大学設置・学校法人審議会専門委員、法科大学院(仮称)構想に関する検討会議座長、中央教育審議会大学分科会法科大学院部会専門委員(以上いずれも文部省、現・文科省)、外国弁護士問題研究会座長(法務省)、オムブズマン制度研究会委員(行政管理庁、現・総務庁)などがある。

○2012年度の社会活動概略

日本法律家協会会員(理事)、第二東京弁護士会会員、日米協会会員、東京フルブライト・アソシエーション会員、日本倶楽部会員、中央大学法科大学院フェロー、中央大学南甲クラブ会員、中央大学眞法会会員(会長)などがある。

所属学会・機関・団体等の名称

民事訴訟法学会(元理事長)、仲裁ADR法学会(前理事長)、司法アクセス学会(会長)

任期、活動期間等

学会・機関・団体等における役職等

2000年～現在

日本交渉学会理事

～現在

日本法律家協会理事

法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期
学位：法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
学位論文：勸告的意見の機能について
専門分野：国際法
前職：日本学術振興会特別研究員
学内役職等：法律学専攻長 (2012～)
留学：New York University, School of Law
非常勤講師：中央大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の知的関心を高める工夫	2005年4月-2013年3月	・講義の最初にその日の授業内容の概要を板書する。これにより、授業開始時に落ち着かなかった学生達がノートを取る作業に集中し、教室が静まっていく。また、その日に何を学習するのかの目的意識を明確にさせる。音だけでは理解できない単語をあらかじめ確認することができるなどのメリットがある。 ・映像教材を随時用いること(1セミスターに3回程度)により、具体的なイメージを喚起し、抽象的あるいは一般的な議論を身近に体感させる手助けとなる。 ・印刷物やレジュメなどはできるだけ配布せず、学生に手書きでノートを取らせることで、学生を「聞くだけ」の作業から「書き取り、自分の字を見て再認識する」という複合的な作業に移行させ、集中力および記憶力を強化することができる。
(2)法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実には生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
国際司法裁判所の争訟事件における証拠法の研究を継続。国際裁判論における証拠法の未発達は、ある程度まで国内の民事訴訟法における挙証責任の法理の類推によって補充できる可能性がある。しかし、国内法社会と異なり、証拠の収集に関する手段が著しく不足している国際法社会においては、挙証責任の単なる類推では、具体的正義にもとる結果を引き起こす危険性が高い。国際組織による中立的な証拠収集が可能となるような例外的場合を除けば、物理的な調査能力の低い国家が裁判に負けるという結果を生じかねない。国際裁判所による証拠提出命令や、あるいは、裁判所自身の職権による調査が必要となつてこよう。裁判所による十分な事実確認が可能となるような制度設計を考えていかねばならない。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿 児 嶋 繁 雄 (かごしま しげお) 教授



出 生 年 : 1950(昭和25)年
 在 籍 : 1993(平成5)年4月～
 最 終 学 歴 : 立教大学大学院文学研究科
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : ゴート語の現在分詞について
 専 門 分 野 : ゲルマン語学
 前 職 : 成蹊大学工学部非常勤講師
 非 常 勤 講 師 : 中央大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
筆ペンで漢字を書きとらせ、その後その漢字を書かせる。それに続いて国語辞書を使い覚えた漢字の意味を調べさせる。	2010年4月～2012年8月	
2.作成した教科書、教材、参考書		
『東電OL殺人事件』『唯幻論物語』を素材に、今の社会の現状について考えると同時に、漢字と意味を覚えさせました。	2010年4月～2012年8月	佐野眞一:冤罪事件発生の仕組みを具体的な事件を通して解明。岸田秀:唯幻論を生み出す過程を著者の幼少期の体験から解説。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ゲルマン語における話法の助動詞について	単著	2012年12月	「桐蔭論叢」第27号	-	53-57頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本独文学会

笠原 毅彦 (かさはら たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)

非常勤講師：国士舘大学総合知的財産法学科, 大東文化大学法務研究科, 明治学院大学法務研究科, 早稲田大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間, 学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/f01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開, 教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/f01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材及び講義資料をダウンロードサイト。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大学教育への提言 ー 未知の時代を切り拓く教育とICT活用2012年版	2012年12月	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究会でまとめた「学士力実現のための理想の講義形態」を元に, 提言として冊子化し全国の大学に配布。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
1.法情報学: 「インターネットの法律問題」改訂版18章「法情報学」の章を担当し, 法情報学全般に関してまとめる機会を得た。並行して「デジタル・フォレンジック事典」二項目を執筆中。サーバの移転等で遅れている電子出版(サイバーコート・サイバーキャンパス)を, 2013年度中に終わらせる予定。			
2.サイバーコート研究: 相変わらず理系の学会からの報告依頼が多い。東工大で講演し, 国立情報研究所の法情報学プロジェクト共同研究員, 人工知能学会国際ワークショッププログラム委員に就任した。法曹実務家にも重要性が認知され, 「裁判官ネットワーク」のシンポジウムに招かれ講演し, パネリストとして議論した。			
3.サイバーキャンパス: 私立大学情報教育協会で「大学教育への提言 ー 未知の時代を切り拓く教育とICT活用2012年版」をまとめ, 2013年9月に現在の試みを, 私立大学情報教育協会教育改革ICT戦略大会で発表予定。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
サイバーコート (講演)	2012年6月	国立情報学研究所 人工知能学会法情報学研究会	
地域司法とIT裁判所 (シンポジウム講演・パネリスト)	2013年2月	裁判官ネットワークシンポジウム「地域司法とIT裁判所」	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
サイバーコート (招待講演)	2013年1月	東京工業大学新田研究室	東京工業大学新田研究室
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
国立情報学研究所共同研究経費	2013年2月～現在	国立情報学研究所	
(その他特記事項)			
大学院生論文審査			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2003年 3月～現在	司法制度改革と先端テクノロジー研究会設立発起人・研究委員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員

加藤幸嗣 (かとう こうじ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2004(平成16)年10月～
最終学歴：東京大学法学部
学位：法学士
専門分野：行政法、地方自治法、環境法
前職：参議院法制局参事、山口大学助教授、国土館大学教授等

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：法学部長、法学研究科長(2012～)
 留学：パリ第2大学博士課程
 非常勤講師：一橋大学法学部・法科大学院
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「日本における強盗防犯の成功」	単著	2012年4月1日	青少年問題 第646号	-	14-19頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
「振り込め詐欺の社会的分析」	2012年6月2日	日本被害者学会第23回学術大会 女性就業支援センター	-		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する刑事政策における日本の伝統的手法」	2012年5月29日	特別捜査幹部研修所第90期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所		
「暴力団排除と表現規制」	2012年5月24日	自由人権協会JCLU マス・メディア小委員会主催	JCLU会議室		
「犯罪・治安対策」	2012年5月21日 (～25日)	人事院公務員研修所平成24年度 初任行政研修 政策課題研究:基調講演・全体討議(犯罪・治安対策)	人事院公務員研修所		
「非行少年の環境変化は実像を変えたか」	2012年9月20日	平成24年度少年実務研究会	最高裁判所司法研修所		
「木嶋佳苗の研究」	2012年9月22日	桐蔭横浜大学法学部企画 裁判傍聴記『毒婦』著者、北原みのり氏と犯罪学者、河合幹雄(桐蔭横浜大学法学部学部長)が語る	桐蔭学園メモリアルアカデミウム		
「刑事政策」	2013年1月22日	特別捜査幹部研修所第91期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所		
「非行少年の現状と取り巻く環境」	2013年2月12日	東京家庭裁判所少年部家庭裁判所調査官研修			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2010年4月～2015年3月	新学術領域 刑罰と犯罪防止 研究代表者
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ①ー反原発デモと、暴力措置を失った警察機構の“悲劇”」	2012年10月1日	サイゾー・1012年10月号 118-119頁
「春秋」	2012年11月1日	日本経済新聞
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ②ー“役に立たない”監視カメラをそれでも警察が推進したいワケ」	2012年11月1日	サイゾー・1012年11月号 120-121頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ③ー警察・検察を押さえてこそ政権は真に奪取される」	2012年12月1日	サイゾー・1012年12月号 118-119頁
「市民が危険に遭わない対策徹底を一きょう 特定暴力団指定」	2012年12月27日	毎日新聞
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ④ー官僚機構にはびこる血縁・姻戚ネットワークの謎」	2013年1月1日	サイゾー・1013年1月号 116-117頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑤ー尼崎事件に見る普遍性と現代性」	2013年2月1日	サイゾー・2013年2月号 104-105頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑥ー児ポ法の悪法たるゆえんを河西智美「手 ブラ騒動」に見る」	2013年3月1日	サイゾー・2013年3月号 116-117頁
(その他特記事項)		
「光市事件。少年への死刑判決はなぜ? まなぶ NO.658」(2012年4月1日)		
「NHK クローズアップ現代【転機の捜査】出演」(2013年3月4日)		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会、比較法史学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2005年10月～現在	日本犯罪社会学会常任理事	
2006年4月3日～現在	警察大学校嘱託教員	
2008年3月～現在	特定非営利法人文化創造理事長(内閣府認証)	
2009年4月1日～現在	日本学術会議連携委員	
2010年7月7日～現在	EMA(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—
 専門分野：民事手続法学
 学内役職等：学務部副部長(2013年4月～2014年3月)
 非常勤講師：亜細亜大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) SyllabusNetによるレジュメの公開	2012年度～2013年度	法学部科目の「民法Ⅲ(不法行為法)」および「民法Ⅴ(債権法)」に関して、レジュメをSyllabusNet上にアップロードした。なお、2013年度は、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するようにした。
(3) SyllabusNetによるレジュメの公開と課題出題	2012年度～2013年度	法科大学院科目の「民事法総合演習3」のレジュメ(課題含む)をSyllabusNet上にアップロードしたうえ、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するよう指示した。なお、2013年度は、法科大学院科目の「民事訴訟法」についても同様の方法によった。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
民事訴訟法の研究とメディアエーションを契機とする交渉理論やコミュニケーション・スキルの研究(ファシリテーション、ブレインストーミングなど)との統合がここ数年の課題であったが、2012年度において、民事訴訟の判決手続を準備(弁論準備手続など)および本番(集中審理)の二段階構造と捉えて、当事者間のコミュニケーションを前者では「協調的対話」および後者では「競争的対論」よりなるものとして理論的一新を試みる「複合対話型審理モデル」を構築するに至った。まず、エッセイとして構想の概要を予告的に発表した後(拙稿『「複合対話型審理モデル」試論—民事訴訟における競争的アプローチと協調的アプローチ—』白門64巻8号(2012年8月)56頁以下)、詳細な報告を、拙稿「複合対話型審理モデル—民事訴訟における協調的対話と競争的対論—」桐蔭法学19巻2号(2013年3月)47頁以下に掲載した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
『「複合対話型審理モデル」試論』	単著	2012年8月1日	白門64巻8号	—	56-69頁
「民事訴訟における争点整理テンプレートの作成に向けて」	単著	2013年7月1日	白門65巻7号	—	56-74頁
(学術論文)					
「複合対話型審理モデル—民事訴訟における協調的対話と競争的対論—」	単著	2013年3月25日	桐蔭法学19巻2号(38)	—	47-120頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本私法学会、情報ネットワーク法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～現在	司法アクセス学会事務局

鈴木直志(すずき ただし) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：1997(平成9)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院文学研究科博士後期課程
 学位：博士(史学)
 学位論文：近世ドイツにおける軍隊・国家・社会とその変容
 専門分野：ドイツ近世史、ヨーロッパ軍事史
 前職：大妻女子大学社会情報学部非常勤講師
 学内役職等：学生部副部長(2012～)
 留学：ドイツ連邦共和国ヴュルツブルク大学
 非常勤講師：中央大学文学部、東京大学教養学部
 受賞・表彰：戦略研究学会研究奨励賞(小野賞)受賞(2006年)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年度は、もっぱら博士学位申請論文「近世ドイツにおける軍隊・国家・社会とその変容―「広義の軍事史」の射程と可能性」の作成に費やした。その結果、年度末の3月に中央大学より博士(史学)の学位を取得することができた。学会報告としては、戦争社会学研究会第4回研究大会にて「広義の軍事史が戦争社会学に出会う時」と題する報告を行い、軍事・戦争をテーマとする歴史学と社会学との交わりについて意見を述べた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「近世ドイツにおける軍隊・国家・社会とその変容―「広義の軍事史」の射程と可能性」	単著	2013年3月24日(博士学位取得日)	博士学位論文		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「広義の軍事史が戦争社会学に出会う時」	2013年3月9日	戦争社会学研究会第4回研究大会(明治学院大学)			
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「さすが、職人の国 ドイツ」	2013年2月	『図書』第768号			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本西洋史学会、法文化学会、戦略研究学会、Arbeitskreis Militär und Gesellschaft in der Frühen Neuzeit	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年4月～現在	戦略研究学会編集委員

竹内明世 (たけうち あきよ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：1998(平成10)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
 専門分野：商法、銀行取引法、民法
 非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の知的関心を高める工夫 課外での模擬裁判劇指導 【模擬裁判劇】	2012年5月19日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件」 (「今森光彦 写真展～昆虫たちへのまなざし」に因んで)
	2012年6月16日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「桐蔭(きりかげ) 駅ホーム転落死事件」
	2012年7月7日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「七夕☆離婚訴訟」
	2012年9月29日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「食糧管理法違反事件」 (「伝えておきたい戦争体験 わたしの八月十五日展」に因んで)
	2012年10月27日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「スノーボード衝突事故損害賠償請求事件」
	2012年12月8日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「交通事故損害賠償請求事件」 (「小松崎茂展 子どもたちの夢を描き続けたアーティスト」に因んで)
	2013年1月26日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「美術品窃盗等被告事件」 (「TOIN ART COLLECTION 2013 -桐蔭生作品展-」に因んで)
	2013年2月9日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「美術品窃盗等被告事件②」
2013年3月9日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「所有権移転登記手続請求事件」	

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
1.『法哲学(正義と公正)』の一環として、法哲学の正義と公正という視点から商法の意義を見直す研究。 2.課外での模擬裁判劇の実績をまとめ、教育上の効果等を分析する研究。 3.宗教法人と檀徒との法律関係の研究。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「リーガルシミュレーションゲームに関する一考察～学生の学習意欲に与える影響を中心として～」	単著	2012年6月	桐蔭論叢 第26号	-	101-107頁

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
フロンティアセミナー 講演 「『企業』の意義と社会的役割に関する一考察」	2012年9月22日	桐蔭学園高等学校・中等教育学校	桐蔭学園高等学校進学棟
○その他			
(その他特記事項)			
桐蔭横浜大学第14回おもしろ理科教室に「なりきり裁判官」「車椅子ダンス&社交ダンス」「礼儀作法」を出展し、地域の子供たちと保護者の皆さんに、①裁判を身近に感じてもらうこと、②健常者と身体障害者および高齢者との共生社会のあり方を考えてもらうこと、③お箸の使い方から日本の食文化(特に会食)を見つめ直してもらうこと等を目指した。(2012年8月22日)			
県立湘南台高等学校とのシチズンシップ教育に関する協定に基づく模擬裁判の評議指導に参加した。(2012年11月)			
大学院生修士論文「自己株式の取得と自己株式の法的地位 ～計算上の処理に関する問題を中心として～」を指導および審査した。(審査2013年1月)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みなと総合高等学校における模擬授業「法律に関する仕事」(進路ガイダンス)	2012年9月6日	横浜市立みなと総合高等学校

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2010・2011・2012)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマETHODを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2) 授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	2005年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所。美祢社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監)。
(3) ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
・複雑系犯罪学 ・ポストモダン犯罪学 ・刑事科学に関するエピステモロジーとパラダイム ・犯罪・刑罰と社会構造の関係 ・社会統制の形態・位相転化 ・国際(組織)犯罪 ・エコ犯罪とグリーン犯罪学					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
“Climate Change from a Criminological Perspective”	共著	2012年7月	Springer	Rob White et al.	pp.185-203
(学術論文)					
“Floating Space Debris contaminating the Beach of Earth: Toward the time/space theory for complexity green criminology”	単著	2012年12月15日	桐蔭論叢 第27号	-	pp.59-64
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Time-and-Space Theory for Complexity Green Criminology”	Sept. 12-15, 2012	12th Annual Conference of European Society of Criminology, Bilbao, Spain			
“Environmental Damage and Crime: Past, Present and Future”	Nov. 14-17, 2012	68th Annual Meeting of American Society of Criminology, Chicago, IL, U.S.A.			

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
第12回ヨーロッパ犯罪学会参加・研究発表、アイスランドにおける環境破壊・保護に関する調査研究、環境犯罪に関する調査研究	2012年9月	ビルバオ大学(スペイン)、アイスランド国立博物館ほか(アイスランド)、テュービンゲン大学犯罪学研究所(ドイツ)
第64回アメリカ犯罪学会参加・研究発表、共同研究の打ち合わせ	2012年11月	シカゴ・パーマーハウスヒルトン・ホテル(アメリカ合衆国)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 専門分野：政治思想史
 前職：長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等：学務部副部長(2012～)・入試広報センター副センター長(2013～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
引き続きシェルドン・ウォリン著の浩瀚なトクヴィル論 Toqueville Between Two World の翻訳(武蔵野大学出版部より刊行予定。)
○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

原 口 伸 夫 (はらぐち のぶお) 教授



出生年：1968(昭和43)年
在籍：2002(平成14)年9月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：不能未遂に関する一考察——危険性は未遂犯のメルクマールたり得るのか?——
専門分野：刑法
前職：中央大学法学部兼任講師、駒澤大学法学部非常勤講師
学内役職等：学生部副部長(2012～)、キャリア情報センター長(2013～)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
刑法解釈論の研究、とくに業務妨害罪(刑法233条、234条)に関する研究に取り組んだ。公務を暴行に至らない傷害・威力を用いて妨害した場合に、業務妨害罪が成立するの否かは、公務執行妨害罪(刑法95条1項)との関係で古くから議論があり、判例も変遷してきた。判例は、強制力を行使する権力的公務以外の公務については、(公務執行妨害罪と共に)業務妨害罪の保護の対象となす立場で固まってきたが、さらに、一般的にみればその強制力を行使する権力的公務といえる警察の活動を、インターネット上に虚構の犯行予告をするなどして妨害した場合に業務妨害罪が成立するの否かという問題が生じてきた。この問題の検討につき2014年度には公刊物に発表できる予定である。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
「虚構の犯行予告と偽計威力業務妨害罪の成否」	2012年7月21日	第309回中央大学刑事判例研究会	-

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

ペマ・ギャルポ (ペマ・ぎやるぽ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：モンゴル国立大学
 学位：政治学博士
 学位論文：中国とチベットの国際関係
 専門分野：国際政治
 前職：ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表(1980～1990)
 岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)
 岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)
 拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)
 拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)

学内役職等：国際交流センター長(2012～)
 受賞・表彰：1995年11月 第32回翻訳出版文化賞
 1998年2月 ベストテューター賞
 2009年7月 モンゴル国友好勲章受章

その他：チベット文化研究所名誉所長
 岐阜女子大学名誉教授

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
中央及び南アジアの民主化の現状と展望について、沢山の講演会と雑誌などへの執筆のほか『最終目標は天皇の処刑 中国「日本解放工作」の恐るべき全貌』飛鳥新社、「ワンチュク国王から教わったこと」PHP研究所の著書などを発行することだけでなく、継続的にインド、モンゴル、ブータン、ネパールなどの現地調査を重ね情報交換と収集に努め研究している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ワンチュク国王から教わったこと」	単著	2012年5月2日	PHP研究所	-	全110頁
「日本再生を目指す、飛躍のつどい」基調講演DVD		2012年11月	霊友会第八支部事務局	安倍晋三、平沼赳夫、ペマギャルポ	2時間21分
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「中国の日本への工作とチベット問題」	2012年4月14日	大阪市民大学	大阪市民大学		
「中国の脅威」	2012年5月3日	日本会議福岡支部	日本会議福岡支部会議室		
「日中関係の40年を振り返る」	2012年5月9日	ロータリークラブ	新宿ヒルトンホテル		
「わが祖国チベットと沖縄」	2012年5月11日	沖縄県祖国復帰40周年記念大会	宜野湾市民会館		
「アジアの動向について」	2012年5月18日	アジア問題研究会	ニューオータニ		
「中国について」	2012年5月19日	幸福実現党シンポジウム	徳島		
「中国とチベットの現状」	2012年5月21日	富士教育センター	東京グランドホテル		
「日印中の関係とアジアの行方」	2012年5月21日	名古屋市民大学	名古屋市民大学		
「世界に発信しよう『おかげさま』のこころ」	2012年6月21日	土岐市学校保健会	セラトピア土岐 大会議室		

「アジア情勢と中国・日本」	2012年7月6日	JAFT GROUP	神戸市産業振興センター
「中国とチベットの現状」チベットの現状について	2012年8月7日	世界政経調査会	北大路
「チベット人の親子の絆」	2012年9月5日	新しい道東京本部	武蔵野公会堂
「ビルマについて」	2012年9月23日	アジア自由民主連帯協議会	代々木貸し会議室
「ブータンと、南アジア」	2012年9月24日	トランスポーターションクラブ	新橋亭
「東北の震災とアジア」	2012年9月25日	OISCA浜松高校	OISCA浜松高校体育館
「ブータンについて」	2012年10月5日	経済同友会・同友クラブ	パレスビル会議室
「ブータンについて その1」	2012年10月6日	桐蔭横浜大学・カリタス短大 合同生涯学習講座	カリタス短大
「暴走する中国に日本はどう対応するか」	2012年10月7日	日本再生の会	霊友会第八支部 羽曳野講堂
「ブータンについて」	2012年10月13日	桐蔭横浜大学・カリタス短大 合同生涯学習講座	カリタス短大
「日中関係と日本の未来」	2012年10月17日	龍馬プロジェクト	名古屋 つちやホテル
「暴走する中国と迷走する日本外交」	2012年10月27日	大和市正論の会	大和市民センター
「暴走する中国に日本はどう対応するか」	2012年10月28日	日本再生の会	沖縄
「日中関係とアジアのゆくえ」	2012年11月9日	大阪市民大学	
「中国の宗教政策について」	2012年11月12日	宗教新聞社	アルカディア市谷
「中国覇権主義の本質」	2012年11月16日	アジア文化と経済を考える会	ホテルニューオータニ
「神秘ブータン王国の魅力及び商品造成と手配方法」セミナー講師	2012年11月13日	一般社団法人日本旅行業協会	JATA研修室
「インドの地政学」	2012年11月19日	防衛賞	防衛賞
「中国の狙いは何か」	2012年11月24日	アジア太平洋学会	東大山上会館
「中国問題について」	2012年11月26日	拓殖大学国際理解のための 講座	拓殖大学
「中国共産党第18大会から学ぶこと」	2012年11月29日	政経調査会	北大路
「ブータンのGNH」	2012年12月4日	東京北ロータリークラブ	帝国ホテル
「アジアの人権と領土・領海問題」	2012年12月6日	アジアの民主化を促進する東京集会	文京シビックセンター
「アジアの中の日本の役割」	2012年12月17日	中部国際自動車大学校	同校講堂
「過去から学ぶ中国」	2012年12月19日	世日クラブ	文京シビックセンター
「日本の安全保障について」	2013年3月2日	京都防衛協会	本部会議室

「ブータンのGNH」の現状	2013年3月18日	上尾市職員教養セミナー	上尾市青少年センター
「アジアの中の日本」	2013年3月21日	都市政策研究会	本社会議室
「尖閣問題に見る中国覇権主義の本質」	2013年3月21日	ハーバークラブ	横浜情報文化センター
「日本はどうやって中国と向かうべきか」	2013年3月26日	国歌ビジョン研究会	議員会館
「日本の背印略的外交と教育改革について」	2013年3月27日	志学塾	神奈川県民センター
「アジアの中の日本」	2013年3月28日	首都圏政策研究所	森ビルアカデミアホール
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
日本モンゴル国交樹立40周年特別随員として訪問団に同行期間中大統領はじめ要人との歓談	2012年9月12日～22日	モンゴル	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「政治家の質を上げる改革を」	2012年2月1日	世界日報 ビューポイント	
「チベット焼身の叫びよ轟け」	2012年3月27日	世界日報 ビューポイント	
「中共内抗争表面化の薄事件」	2012年4月25日	世界日報 ビューポイント	
「有言実行の野田首相を望む」	2012年5月29日	世界日報 ビューポイント	
「揺らぐ政治を正す総選挙を」	2012年6月27日	世界日報 ビューポイント	
「領土問題に声が小さい日本」	2012年9月13日	世界日報 ビューポイント	
「言論・表現の自由と公益性」	2012年10月31日	世界日報 ビューポイント	
「中国は不変の軍国一党独裁」	2012年11月29日	世界日報 ビューポイント	
「指導力を発揮する安倍政権」	2013年1月28日	世界日報 ビューポイント	
「インドと経済を発展させよ」	2013年3月26日	世界日報 ビューポイント	
「日本をチベットのようにはならない(前編)」	2012年4月30日	「Are You Happy」6月号 幸福の科学出版 84-87頁	
「護国なくして復興なし」	2012年5月	「月刊 致知」6月号 致知出版社 60-69頁	
「日本人の国際感覚とグローバル化時代におけるお蔭様イズム」	2012年8月1日	月刊「技術と経済」546号(社)P36～45 科学技術と経済の会	
「日本は中国の野望を挫くアジアの勇士たれ」	2012年10月7日	月刊「時局」10月号 時局社 P12～17	
「中国の侵略主義に対抗する政策」	2012年10月15日	「教育再生」10月号 一般社団法人 日本再生教育機構 P3	
(その他特記事項)			
2012年4月5日 PHP出版取材(外国人特派員協会)			
2012年4月12日 南アジア研究会(国際文化会館)			
2012年4月13日 PHP出版(帝国ホテル)			
2012年4月13日 シュリシュリラビジャンカール歓迎会(霞ヶ関ビル)			
2012年4月20日 科学と技術シンポジウム スピーチ(グランドパレス)			
2012年4月22日 アジア自由人権学習会(飯田橋)			

2012年4月26日	Voice OF America 取材
2012年4月28日	日本青年商工会議所 打ち合わせ
2012年5月13日	インド公使送別パーティー 公邸
2012年5月20日	渋谷ヒカリエ オープニングレセプション ブータン王国王女随員
2012年5月22日	ブータン王国 王女 見送り
2012年5月23日	日本インド経済サミット(ホテルニューオータニ)
2012年5月25日	天草市GNHシンポジウム(天草市民ホール)
2012年8月9日	桜チャンネル収録、タシ塾
2012年8月13日	自由アジア連帯協議会シンポジウム打ち合わせ
2012年9月6日	民間外交推進協会モンゴル委員会 (FEC会議室)
2012年9月8日	チベット文化研究所 (研究所瞑想室)
2012年9月27日	タシ塾 (㈱キャリアコンサルタント会議室)
2012年9月30日	アジアの自由を守る東京大会(パネラーとして出席:青陵会館)
2012年9月30日	志学塾国護り決起会 (椿山荘)
2012年10月3日	サンデーモーニング25周年記念パーティー ホテルオークラ
2012年10月12日	IMF・WB会議レセプション 出席 ロイヤルパークホテル
2012年10月16日	国家ビジョン研究会 会食 自由が丘
2012年10月18日	「船田 元君の再起を期待し激励する会」 出席 東京プリンスホテル
2012年11月10日	「キーバインド創立10周年祝賀会」 出席、挨拶 品川プリンスホテル
2012年11月25日	「収穫感謝と食のつどい」 出席 明治神宮
2012年11月30日	「インド大使講演会」 出席 帝国ホテル
2012年12月6日	桜チャンネル収録
2012年12月9日	写真家藤田弘基を偲ぶ会 出席 アルカディア市谷
2012年12月14日	図書出版記念式典 出席 インド大使館
2012年12月20日	タシ塾 キャリアコンサルティング株式会社社会議室
2012年12月21日	FECモンゴル委員会勉強会 出席 FEC会議室
2012年12月22日	JIDFブータンフォーラム パネラーとして出席 外国人記者クラブ
2012年12月26日	ビルマ大使館 大使表敬訪問
2013年3月3日～15日	インド出張 日本の経済ミッションアドバイザーとして随員 面会実績→文部大臣、商業大臣、保健大臣、首相国家安全保障担当補佐官、ビルマ財閥幹部、鉄道省幹部、グジャラート州首相
2013年3月20日	タシ塾 キャリアコンサルタンと本社会議室
2013年3月25日	松尾源太郎会長を偲ぶ会・新春のつどい 挨拶 ホテルニューオータニ

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年1月～	NPO法人チベット教育福祉基金理事長
1999年4月～	(社)国際青年文化交流協会 理事
2005年5月～	(財)OISCA評議員
1994年～	NPO法人日印親善協会(JIGA)理事 Japan India Goodwill Association

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1997(平成9)年4月～
最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学位：法学博士
学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
専門分野：欧州政治思想史
前職：立教大学文学部非常勤講師
学内役職等：学科長、学務部副部長 (2012～)
留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
1. 高等教育と職業教育の関連性について、アメリカのビジネススクールと経営理論の歴史を素材にした思想史的探求 2. 19世紀イギリスを中心とした、scienceとartとの概念史 これらについては、『桐蔭法学』第19巻1号に途中的な成果をまとめた。尚、研究を継続してゆく過程で、ドイツの商業大学の生成、及びドイツ経営学説史との展開と、アメリカでのビジネススクール、経営学説の展開を比較することが重要であると思いついた。一つには市場社会の生成と商業高等教育の展開の関係が、ドイツの場合、アメリカのように比較的単線的には経過せず、このことが、市場社会とプロフェッション/高等教育の展開について、重要な示唆を与えてくれると思われるからである。また技術と学問との関係についても、ドイツの経営学説史を参照することは、例えばシュマーレンバッハに典型的にみられるように興味深い。これらについては2013年に中間的な報告を整理したい。					
○著書・論文等					
(学術論文)					
「Science, Art, Craft -経営学説史、ビジネス教育史を素材とした思想史的考察-」	単著	2012年9月30日	桐蔭法学 第19巻1号	-	78-98頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手,国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員,国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習センター長 (2012～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1) 健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。

(2)健康科学 (改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (3)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的实践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
<ul style="list-style-type: none"> ・健康・生活に関する調査研究(肥満・ダイエット・メタボリックシンドローム) ・体温調節に関する研究(特に発育発達・老化に伴う抹消部体温調節反応の変化) ・青年期(大学生)における運動と行動変容に関する研究 ・高齢者における精神健康に関する調査研究 ・気功などの呼吸法に関する生理学的研究 					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「一般体育実技に対する学生の意識について(2)-前期授業と後期授業でのアンケート結果の比較-」	共著	2012年6月	桐蔭論叢 第26号	村上秀明、賤機徳彦、高野千春、小林有子、入江史郎	85-96頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Effect of the Long Breathing Exercise on the Physical and Mental Conditionings in the elders”	2012年8月8日	The 17th EASESS Annual Congress、(Fukuoka University, Japan	Hideaki Murakami, MiyukiNishioka, Shinji Ishihama, Masato Iwami, Testuji Mukaimoto and Yukio Tanaka		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科研費「小規模・高齢コミュニティが持つ「とらわれ」:健康行動を獲得するための「しかけ」」	2011年4月～2014年3月	科研費基盤研究(C)研究			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ゴルフ部監督)平成24年度会長杯関東学生ゴルフ連盟男子6月月例会	2012年6月28日	一の宮カントリークラブ	仲佐翔悟 23位
(ゴルフ部監督)第60回関東学生ゴルフ選手権予選会	2012年7月11・12日	房総カントリークラブ	友定智 予選落ち(個人)

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法－英米法を中心とする学際的研究－
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 非常勤講師：国立音楽大学音楽学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
2011年度に行った芸術法学領域の教科書改訂作業を基にして、新たな著作である『芸術法の基礎』として完成させるために原稿作成を行い、さらに実際の授業の中で原稿内容の確認作業を実施した。英米契約法に関しては、日本民法との比較を行うための基礎作業を進めた。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「アート、法、そして創造性」(口頭発表)	2012年11月12日	シンポジウム「芸術の自由と法」(武蔵野美術大学共同研究「美術教育と法知識の連携」/武蔵野美術大学造形研究センター共同企画)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

山城 崇夫 (やましろう たかお) 教授



出生年：1951(昭和26)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程退学
学位：法学修士
学位論文：アメリカ合衆国の民事訴訟における除斥・忌避制度の展開
専門分野：民事訴訟法、裁判法、民事紛争処理法
前職：山口大学経済学部経済法学科教授
学内役職等：副学長、法律プロフェッショナルセンター長 (2012～)
資格：弁護士

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)私立大学協会教育充実協議会委員	2005年4月～現在	毎年、春と秋の協議会に参加。大学を取り巻く教育環境の動向について研修。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
1. 遺言無効確認の訴えの判例と学説について、修士課程の学生と共同研究した。なお、学生の修士論文に成果。 2. 中国の司法解釈や訴訟難について、博士課程の学生と共同研究中。その紹介文を検討中。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
民事訴訟法学会、日本交渉学会、仲裁ADR学会、司法アクセス学会 日本法律家協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	日本交渉学会理事
2006年～現在	司法アクセス学会理事

秋田 知子 (あきた ともこ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野：民事法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(2)民事紛争処理法	2007年4月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)英語A-1、A-2で使用した教材	2009年4月1日～	初歩的な英文法テキストを大学生向けに作成した。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
<p>桐蔭法学研究会において、「アメリカの家事事件における弁護士の役割と倫理」をテーマに報告した。既存の弁護士倫理では適切な行動指針となりにくい家族法領域における弁護士の専門家責任について焦点を合わせて、家事事件、特に離婚紛争における弁護士の役割と倫理について検討した。</p> <p>そのほか、担当している「英語A-1、A-2」において英文法テキストを独自に作成してきたが、それを英語の教科書として出版した。この教科書をもとに、さらに公務員試験の中の英語問題を解けるような英語力をつけられるように、発展問題を作成していきたい。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「SMART GRAMMAR-英語の基礎練習ドリル」	単著	2013年2月20日	三修社	秋田知子(協力 桐蔭横浜大学法学部)	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「アメリカの家事事件における弁護士の役割と倫理」	2013年1月23日	桐蔭法学研究会	-		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻妻和人 (あさづま かずひと) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学位：法学修士
 学位論文：捜査の規律に関する一考察 ―盗聴―
 専門分野：刑事訴訟法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
1. 二重危険および上訴に関連するアメリカの判例の分析、およびわが国の裁判制度の在り方について検討した。特に近時の刑事司法改革に伴う新たな制度と刑事裁判の基本構造との関係について検討。中央大学刑事判例研究会への参加及び報告(最(二)判平成23年7月25日集刑304号139頁の研究報告)。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Blueford v. Arkansas, 80 U.S.L.W. 4387 (2012) についての研究報告)。刑法学会大会、被害者学会大会参加。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
刑事訴訟法基本判例解説	共著	2012年12月12日	信山社	椎橋隆幸・渥美東洋 編	[67][68][88] [138][143] [148]を担当
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(研究報告)最(二)判平成23年7月25日通行中の女性に対して暴行、脅迫を加えてビルの階段踊り場まで連行し、強いて姦淫したとされる強姦被告事件について、被害者とされた者の供述の信用性を全面的に肯定した第1審判決及び原判決の認定が是認できないとされた事例についての研究報告	2012年6月16日	中央大学刑事判例研究会(中央大学市ヶ谷校舎)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：フランス労働法上の非典型協定
 専門分野：労働法
 前職：東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年10月施行の改正派遣法の規制強化、2013年4月施行の有期契約への無期転換請求権等を内容とする法改正に関し、東京都および神奈川県労働関係行政に協力し、周知活動をおこなった。引き続き、フランス労働法における従業員代表法制に関する法改正と現状の調査をおこなった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「近時の裁判例における労働協約の制度的効力の位置づけ」	単著	2012年12月15日	法学新報119巻5・6号	-	361-375頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「「安心」して「働く」ためのルール～使用者と労働者の約束事 ―「労働契約」とは～」	2012年8月29・30日	東京都労働相談情報センター八王子事務所	八王子労政会館		
「労使関係法(労働組合・団体交渉・労働協約)、労使関係法(労働争議・不当労働行為・労働委員会)」	2012年10月9日～11日	多摩労働カレッジ	国分寺労政会館(東京都労働相談情報センター・国分寺事務所・八王子事務所)		
「法定労働時間の原則、労働時間の弾力化;労働時間の例外、休日、休憩、年次有給休暇;定年・退職・解雇」	2012年10月19日・23日・26日	平成24年度中期労働講座(かながわ労働センター県央支所/厚木市)	厚木市勤労福祉センター		
「労災保険法・職場の安全衛生、最近の労働判例の動向及び労働法改正の概要」	2012年10月31日・11月2日	中期労働講座(神奈川県かながわ労働センター川崎支所)	神奈川県かながわ労働センター川崎支所		
「パート・派遣・契約社員をめぐる法改正のポイントと今後の対応」	2012年11月7日	非正規労働者セミナー(神奈川県かながわ労働センター川崎支所)	神奈川県かながわ労働センター川崎支所		
「労使関係法(労働組合・不当労働行為・団体交渉・労働協約)」	2012年11月29日	多摩労働カレッジ専門講座(東京都労働相談情報センター・国分寺事務所・八王子事務所)	国分寺労政会館		
「「労働組合法」の役割―労使紛争の具体例を通じて―」	2013年1月25日	労働教育講座(愛川町商工観光課)	愛甲商工会館		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討―日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 留学：群馬大学社会情報学研究所修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年度、研究の分野は、今までのADRから民事訴訟法及び司法アクセスの分野に広がっていった。権利保護保険についての共同研究で「让法律的阳光洒向中产阶级：日本权利保护保险制度的成立及发展」という論文を作成し、『比較民事訴訟法』に掲載されている。また、中国ADRの最新情報を集めて、「中国調停制度の新展開」という論文を作成した。この論文は白鷗論集に載せられている。さらに、高齢化社会のADRという研究プロジェクトに参加して、高齢化社会における諸問題にも取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「比較民事訴訟法」	共著	2012年6月1日	中国法制出版社	陳剛編	3-26頁
(学術論文)					
「中国調停制度の新展開」	単著	2013年3月27日	白鷗大学論集第27巻第2号	白鷗大学経営学部	185-212頁
○その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
台湾の成年後見制度とADRに関する研究調査	2013年3月14日～3月18日	台湾法務部、台湾高等法院、台湾大学付属病院、台湾仲裁協会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

小島 奈津子 (こじま なつこ) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院社会科学研究科法律学専攻満期中退
 学位：法学修士
 学位論文：債務額に争いがある場合の一部供託の効力
 専門分野：民法

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ミニテスト(授業内)の実施	2012年まで民法(必修)において	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほかに行っている。学習させるためなので、予告を前回授業でするようにしている。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
間接的出捐など三者間の出捐について 二当事者に加えて第三者が入ってくる場合の出捐の所在、有償性の判定について研究している。受益者が受寄者とは別にいる場合の寄付もそうであるが、このような寄付の目的は利他的である一方、受寄者との関係においては対価と考えることもできるのではないかと、利他的な対価というのがあるのかについて、ドイツ法の研究を始めた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『「出捐の中間者」について』	単著	2013年3月25日	桐蔭法学第19巻第2号	-	237-262頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
研究会報告「寄付についての考察——忘恩行為に関連して」	2012年4月21日	財産法研究会(於慶応大学三田キャンパス)	-		
研究会報告「仲介者がいる場合の出捐の有償性」	2012年11月8日	ドイツ民法研究会(於学習院大学)	-		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2005(平成17)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
専門分野：刑法
前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

1. 継続して、故意と錯誤に関する研究を行った。
2. 引き続き、刑法全体の研究を進めながらも、とりわけ規範的構成要件要素に関する研究に邁進していきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会

土屋 信雄 (つちや のぶお) 准教授



出生年 : 1950(昭和25)年
在籍 : 1990(平成2)年4月～
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程
学位 : 理学博士
学位論文 : 「Grow and Depth of Leaves」(博士論文)
専門分野 : 位相幾何学
前職 : 東京工業大学理学部助手

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

葉層構造論について研究を進めた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本数学会

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時下の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「カート・スタイナーの東北・北海道視察報告——初期の人権擁護委員の活動を中心に——」	単著	2012年5月10日	人権のひろば85号	-	12-15頁
「戦時・戦後初期の日本の法学についての覚書(1)——「戦時法」研究の前提として——」	単著	2013年3月25日	桐蔭法学第19巻2号	-	121-174頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「続・戦時下の法学と法学者——戦時法研究の前提として」	2012年7月14日	第6回戦時法研究会(上智大学)			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究):刑事司法の「日本的特色」に関する歴史的側面からの再検討	2011年4月～2013年3月	日本学術振興会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、法社会学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年9月～現在	法文化学会幹事
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2011年12月～現在	占領・戦後史研究会代表
2013年4月～現在	法文化学会理事

中野邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。
(2)法学検定対策	2005年度～	法学検定3級に合格できるよう、授業時間およびそれ以外の時間帯を使用して、法学検定の予想問題集を使い、指導している。
(3)レジュメ・レポートの指導	2005年度～	担当するゼミの報告前に、授業時間外で(毎週10時間程)、報告する学生一人一人に対し、個別にレジュメの作成方法、教科書の読み方、まとめ方等を指導している。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(4)民法Ⅲ(不法行為法)	2011年4月～2012年	全50頁からなる事務管理・不当利得・不法行為の教材。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
<p>法律行為論の本質論」についての体系的・原理的研究 上記の研究テーマのもと、2011年度～2013年度の3年間、科研費(代表)の受給を受けることになった2年目の年として、1年目の成果をまとめつつ、カントによって、いかにして近代私法体系の思想的基盤が築かれたのか検討し、それに関する論文を脱稿した。</p> <p>日本民法典財産法編の改正に向けた立法論的研究 上記の研究テーマのもと、2009年度～2012年度の4年間、研究分担者として分担金の受給を受けることになっているが、2012年度は、本研究の最終年度であることから、これまでの成果を単行本として公表するために、総則の全条文案を再検討したうえで、その改正理由等を記す原稿案を研究代表者と共同で行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「売買契約が公序良俗違反で無効な場合の立替払契約と既払金の返還——最高裁平成23年10月25日判決を契機として」	単著	2012年9月	桐蔭法学19巻1号(通巻37号)	—	99-145頁
「公序良俗違反による売買契約の無効と立替払契約の効力」	単著	2012年10月	民事判例V 2012年前期	現代民事判例研究会編	128-131頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「近代私法体系と近代私法の三大原則」	2012年6月21日	桐蔭法学研究会			
「個品割賦購入あっせんにおいて売買契約が公序良俗に反し無効となった場合の立替払契約の効力」	2012年7月28日	現代民事判例研究会			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
日本民法典財産法編の改正に向けた立法論的研究(課題番号:20330017、代表:加藤雅信)	2008年4月～2013年3月	科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究分担者
「法律行為論の本質論」についての体系的・原理的研究(課題番号:23730111)	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金(若手研究(B)) 研究代表者

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、日本法哲学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
あやめコンサート(横浜総合病院)	2012年6月16日	ボランティアサークルArch顧問として
青葉区民祭り(青葉区役所)	2012年11月3日	
クリスマスコンサート(横浜総合病院)	2012年12月15日	
青葉台マルシェ(青葉台商店街)	2012年12月23日	
FMサルース・Aobaくるるんキャンパス	2013年2月27日	

茂木洋平 (もぎ ようへい) 専任講師



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心～
 専門分野：憲法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科特任助教
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～)
 受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門(2010.12)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
博士学論文の内容を再度検討する作業を継続。その成果としていくつかの論文が公刊された。 (「多様性に基づくAffirmative Actionの正当性-多様性の価値の意味-(2)(3・完)」法学76巻4号(2012年10月)、77巻1号(2013年4月); 「アメリカにおける階層に基づく(class-based) Affirmative Actionの正当性(1)(2・完)」桐蔭法学19巻1号(2012年9月)19巻2号(2013年3月))					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「多様性に基づくAffirmative Actionの正当性(1)-多様性の価値の意味-」	単著	2012年4月	法学76巻1号		38-95頁
「アメリカにおける階層に基づく(class-based) Affirmative Actionの正当性(1)」	単著	2012年9月	桐蔭法学19巻1号		1-49頁
「多様性に基づくAffirmative Actionの正当性(2)-多様性の価値の意味-」	単著	2012年10月	法学76巻4号		452-488頁
「アメリカにおける階層に基づく(class-based) Affirmative Actionの正当性(2・完)」	単著	2013年3月	桐蔭法学19巻2号		1-45頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 東北大学公法判例研究会 九州公法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年5月～	憲法理論研究会事務局員

浅岡慶太(あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2001(平成13)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的な前提
専門分野：ヨーロッパ近代法史
留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

昨年度から引き続いて19世紀ドイツにおける少年問題を研究の中心に置いている。労働者階級の誕生とその階級の子弟の行動が社会的に問題視されたことに関連して、社会情勢、少年への教育そして社会が少年問題についてどのように対応し、法制度を作り上げたのかについて関心を持ち研究している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会

賤 機 徳 彦 (しずはた のりひこ) 助教

出 生 年 : 1967年
在 籍 : 2011年～
最 終 学 歴 : 筑波大学体育専門学群
前 職 : 桐蔭学園高等学校教員(保健体育)
資 格 : 高校1種保健体育教員免許
日本サッカー協会公認A級ライセンス

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2012～)
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返して学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかたじけない小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
日本科学技術振興機構地域科学技術理解増進人材の活動推進・人材育成事業(文部科学省委託事業)	2003年～現在	助成金を受け、子どもわくわく自然教室、「これが身近な自然だ」、「昆虫飼育教室」、「スライムでエネルギー」「色をわける」などを千葉県、東京都、神奈川県の小学校、児童クラブ、保育園、児童館で実施した。2010年度で見学者を除いて、12620人の教室参加者となった。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。

有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 内分泌攪乱化学物質(いわゆる環境ホルモン)の分解 環境に優しい工業原料の新合成法 活性酸素の生体内での反応の機構 植物由来生理活性物質の活性酸素との反応挙動 植物の生育状態の新規試験法の開発			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(国際学会発表) “Oxidative reaction behavior of protocatechuic acid and related compounds with the use of polyaniline active oxygen-generating apparatus”	2012年10月27日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	1. Taichi YOTA, Hitomi KUNIYOSHI, and Kiyoshi SAITO
(国内学会発表) 「ポリアニリン / 酸素 / 水系でのヒドロキシチロソールの酸化反応挙動」	2012年10月	日本化学会秋季事業第2回(東京)	養田太一、齋藤 潔
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
わくわく実験教室	2011年、2012年、2013年	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1995年～	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録
1996年～	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
2000年～	日本化学会化学教育協議会化学普及委員会委員
2001年～	日本化学会夢・わくわく化学展実行委員会広報・DVD作製委員会委員
2004年～	日本化学会化学教育協議会夢化学小委員会委員
2005年～	日本化学会化学教育協議会夢化学小委員会副委員長
2009年～	日本化学会化学教育協議会普及交流委員会実験体験TG主査
2011年～	日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長

(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー わくわくじっけんきょうしつ なぞをとけ!! でんきでうごくしみのなぞ?	2012年8月4,5日	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
国立科学博物館サイエンススクエア わくわくじっけんきょうしつ なぞをとけ!! でんきでうごくしみのなぞ?	2012年8月14,15,16日	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
荒川区東日暮里ふれあい館、西日暮里ふれあい館 わくわく実験教室、なぞをとけ!! でんきでうごくしみのなぞ?	2012年8月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
荒川区道灌山幼稚園 わくわく実験教室、スライムのなぞー塩とスライムー	2012年8月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室、なぞをとけ!! でんきでうごくしみのなぞ?	2012年9月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
江戸川区立小松川幼稚園 わくわくじっけんきょうしつ カレーやきそば	2012年9月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室、なぞをとけ!! でんきでうごくしみのなぞ?	2012年11月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
相模原サイエンスフェスタ わくわくじっけんきょうしつ みどりのしみのなぞ	2013年2月	桐蔭横浜大学
石巻ひばり幼稚園 わくわくじっけんきょうしつ みどりのしみのなぞ	2013年2月	夢!化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：医用工学部長、医用工学専攻長(2010・2011・2012)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 非常勤講師：順天堂大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
“Development of a model of early-onset IgA nephropathy”	共著	2012年5月20日	J. Am. Soc. Nephrol. 2012	K.Okazaki, Y.Suzuki, M.Otsuji, H.Suzuki, M.Kihara, T.Kajiyama, A.Hashimoto, H.Nishimura , R.Brouwn, S.Hall, J.Novak, S.Izui, S.Hirose, Y.Tomino	pp.1364-1374

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：工学研究科長、医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長(2012～)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Nephrotoxic effect of subchronic exposure to S-(1,2-dichlorovinyl)-L-cysteine in mice”	共著	2012年5月1日	The Journal of Toxicological Science・37(5)	Nobuaki SHIRAI, Mareki OHTSUJI, Keitaro HAGIWARA, Hiroki TOMISAWA, Naomi OHTSUJI, Sachiko HIROSE, Hiromi HAGIWARA	pp.871-878
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Apigenin Inhibits Tumor Formation of Human Breast Cancer Cells: Nude Mouse Xenograft Tumor Assay”	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Tatsuya YAMADA, Keitaro HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA		
“Effects of Polyphenols on Adipogenesis”	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Shunsuke IIZUKA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA		

“Retinoic Acid Up-Regulates Aquaporin-3 Expression in Cultured Human Keratinocytes”	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Yoshinori SUGIYAMA, Kohei YAMAZAKI, Hiromi HAGIWARA
“Testicular Zinc Finger Transcription Factor Zfp318 Deficiency Results in Defective Spermiogenesis in Mice”	2012年12月14日	The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Fukuoka)	Kaoru YOSHIDA, Norihisa SAKO, Masamichi ISHIZUKA, Eri OHTSUKA, Atsuto INOUE, Mirei ODAKA, Hirotaka OHSHIMA, Norihisa TAMURA, Tadashi BABA, Hiromi HAGIWARA
“The Effects of Polyphenols on Adipogenesis Depends on the Structure of Them”	2012年12月11日	The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Fukuoka)	Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA , Kaoru YOSHIDA
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「Award of Excellence」 (Apigenin Inhibits Tumor Formation o Human Breast Cancer Cells: Nude Mouse Xenograft Tumor Assay)	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Tatsuya YAMADA, Keitaro HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
「Editorial Board」 (Springer社の発行する細胞工学系の国際誌 CytotechnologyのEditorial Boardに選ばれた)	2013年3月30日	Cytotechnology (Springer)	萩原啓実

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事、評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森永茂生 (もりなが しげお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院博士課程
 学位：理学博士
 学位論文：A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野：環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：学務部副部長(2012～)
 受賞・表彰：とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト	2010年～2013年4月	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト	2010年～2013年9月	臨床工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
2011年度に引き続き、植物を利用した重金属等の土壌汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関する、飯島研究室と当研究室および熊谷組との共同研究の分析データを出すことで、鉛や六価クロムなどの重金属を根などから吸収できる植物の選定とその能力の程度および植物の成長や色調などとの関連を探り出すことを目標に実施した。その成果は、日本芝草学会や日本化学会などで発表した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭)「六価クロム汚染土壌における数種のグランドカバープランツの吸収能と生育に関する基礎研究」	2012年6月24日	日本芝草学会2012年度春季大会(東京農業大学 世田谷キャンパス)	横山和憲・栗山紘太・菅野裕一・涌井史郎・土路生修三・内藤敏・横塚享・浅井俊光・飯島健太郎・ 森永茂生
(poster)“Chromium and lead absorption ability and growth reaction of <i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i> in a metal-contaminated soil”	2012年11月10日	Toin international Synpsium on Bio-Medical Enginnering 2012 桐蔭横浜大学	横山和憲, 栗山紘太, 本多志行, 涌井史郎, 土路生修三, 横塚享, 内藤敏, 浅井俊光, 飯島健太郎, 森永茂生
(ポスター)「植物を用いた六価クロムの吸収・蓄積による生育反応に基づく土壌汚染の指標化」	2013年3月22日	日本化学会第93春季年会(立命館大学 びわこ・くさつキャンパス)	横山和憲・栗山紘太・涌井史郎・土路生修三・内藤敏・横塚享・浅井俊光・飯島健太郎・ 森永茂生

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会、ソノケミストリー研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：東京理科大学 理学部II部 物理学科
専門分野：臨床検査学、病院管理概論(管理運営)
前職：済生会横浜市東部病院
資格：臨床検査技師
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
健康、医療、福祉を支援する包括的システムの構築(国民健康データバンク構想、コメディカルの役割分担を含む)／臨床検査技師法に関する身分法と業態法の研究(業務一部独占と遺伝子染色体検査及び生理検査業務の法整備に向けた研究)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「健康、医療、福祉を支援する包括システムの提案」	単著	2012年6月	桐蔭論叢第26号	-	177-185頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2010年4月～現在	結核研究奨励賞選考委員

飯島 健太郎 (いじま けんたろう) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程
 修了
 学位：農学博士、造園学修士
 学位論文：緑化用植物としてのSedumの生育特性の解明に関する研究
 専門分野：造園学、都市緑化、環境植栽学
 前職：東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手
 学内役職等：学生部副部長 (2012～)
 資格：学芸員資格
 受賞・表彰：大日本農会賞(1992年3月)
 日本造園学会賞・研究奨励賞(2003年5月)
 道路緑化保全協会菊池奨励賞(2008年5月)
 日本造園学会賞(研究論文部門)(2011年5月)
 日本アロマ環境協会賞(2013年1月)

II 研究活動

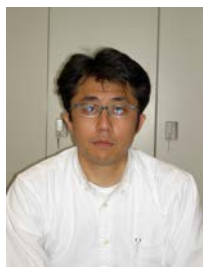
○2012年度の研究活動概略					
引き続き、福祉と環境分野の研究を通じて社会発信することを目指し、受託研究、寄付金研究を誘致して研究活動を進めた。内容は、屋上・壁面緑化による暑熱環境緩和効果(継続研究)、仮設住宅におけるグリーンカーテンによる冷涼効果(継続研究)、同グリーンカーテンによる住民の評価、大橋JCT巨大構造物の熱環境特性の調査(公園緑地化後の実測)、緑化用植物の品種改良(継続研究)、高齢者に対する園芸療法による心理的・身体的効用の検証(継続研究)である。成果は学会発表にて行い、また共同研究先のCSR活動報告には本学との共同研究であることと共にデータの一部が紹介されている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「人の健康と緑の知覚」	単著	2012年10月	芝草研究41(1)		2-15頁
「軌道緑化の技術と展望」	単著	2013年3月	芝草研究41(2)		129-136頁
(学術論文)					
“Stress Reaction to Several Plant on Pb Pollution Soil”	共著	2012年6月	桐蔭論叢26号	Yuichi Sugano・Shiro Wakui・Shigeo Morinaga・Toshimitsu Asai・ Kentaro Iijima	pp.43-50
“The Effect of the Stress Relaxation by Pot Plants in Indoor Space”	共著	2012年6月	桐蔭論叢26号	Ryuta Hachigou・Shiro Wakui・ Kentaro Iijima	pp.57-62
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「グラウンドカバープランツを用いた園芸療法と会話分析」	2012年6月24日	日本芝草学会春季大会	八郷隆太・涌井史郎・濱谷透・粕谷綾・ 飯島健太郎		
「六価クロム汚染土壌における数種のグラウンドカバープランツの吸収能と生育に関する基礎研究」	2012年6月24日	日本芝草学会春季大会	横山和憲・栗山紘太・菅野裕一・涌井史郎・土路生修三・内藤敏・横塚享・浅井俊光・ 飯島健太郎 ・森永茂生		
「特養介護施設入居者に対する園芸療法の効用と会話分析」	2012年10月21日	日本園芸療法学会2012年大会研究発表抄録集	八郷隆太・涌井史郎・濱谷透・粕谷綾・ 飯島健太郎		

“The Study of Conversation Analysis for effect of Horticultural Therapy to Elderly Clients in Special Nursing Home”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on BME	Ryuta HACHIGO・Shiro WAKUI・Tooru HAMATANI・Aya KASUYA・Kentaro IJIMA
“Chromium and lead absorption ability and growth reaction of Artemisia indica var maximowiczii in a heavy metal contaminated soil”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on BME	Kazunori YOKOYAMA・Kota KURIYAMA・Muneyuki HONDA・Shiro WAKUI・Shuzo TOROBU・Susumu YOKOTSUKA・Toshimitsu ASAI・Kentaro IJIMA・Shigeo MORINAGA
「仮設住宅の緑のカーテンに対する住民の評価」	2013年6月16日	日本芝草学会春季大会	飯島健太郎・足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居
「仮設住宅における緑のカーテンの植栽と暑熱環境緩和効果」	2013年6月16日	日本芝草学会春季大会	足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居・飯島健太郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「屋上緑化最前線／自然再生型都市緑化を目指して」	2012年6月29日	トーケン	第一回環境フェア、トーケン主催
「なぜ、芝生は人を幸せな気分にするのか」	2012年7月16日	神奈川県公園協会	アマチュア芝生教室
「都市緑化について/ 人のつくった自然もすばらしい」	2012年8月8日	みどりの東北元気プログラム実行委員会	みどりの東北元気キャンプにて講話
「園芸療法の知識と理論」	2012年11月8日	雇用能力開発機構	資格講座講義／訪問介護員要請講座(委託・緑成会緑の郷)
「サボテン・多肉植物・その魅力と都市緑化への応用」	2013年5月27日	東京都造園緑化業協会	総会・講演会
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
アロマ環境協会賞「JR信濃町駅 アロマステーション化プロジェクト」	2013年1月15日	環境省・アロマ環境協会	東鉄工業、JR東日本、飯島研究室
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「環境緑化用コケの品種改良」	2012年4月～2013年3月	東鉄工業(株)	
「復興仮設住宅に設置したグリーンカーテンによる暑熱環境緩和効果に関する研究」	2012年6月～2012年12月	(株)東急住生活研究所	
「大橋JCT屋上温度測定」	2012年7月～2012年9月	日本工営	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「インドネシア首都圏の鉄道事情」	2012年6月15日	桐蔭論叢第26号	
「運転による感情ストレス」	2012年10月1日	高速道と自動車55(10)	
「セダム緑化を効果的に活用するために」	2012年10月20日	芝草研究41(1)	
「時間医学からみた運転ストレス」	2012年11月1日	高速道と自動車55(11)	
「歩行者にとっての交通ストレス」	2012年12月1日	高速道と自動車55(12)	
「グラウンドカバープランツ生産の工夫と今後の課題／九州の緑化樹木生産の現況と今後の課題」	2013年3月15日	芝草研究41(2)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本多肉植物の会、日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会、日本ウェルネス学会、日本プロメリア協会、日本生理人類学会、人間植物関係学会、国際多肉植物協会、Sedum Society	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年4月～現在	国際多肉植物協会日本支部 (ISIJ) 総合学術委員
2001年9月～現在	NPO 法人日本多肉植物の会 顧問
2004年1月～現在	日本緑化工学会論文校閲担当
2005年4月～現在	(社)日本造園学会ランドスケープ建設技術研究委員会幹事
2005年4月～現在	薄層緑化技術向上協会技術顧問
2006年4月～現在	日本造園学会代議員
2006年10月～現在	日本芝草学会編集委員
2006年10月～現在	日本芝草学会グラウンドカバープランツ緑化部会部会長
2006年12月～現在	(社)日本インドア・グリーン協会活性化検討特別委員会委員
2007年10月～現在	(社)日本造園学会校閲担当
2008年7月～現在	日本芝草学会学術担当理事
2009年4月～現在	(財)日本公園緑地協会 公園緑地 有識者校正委員
2009年7月～現在	首都高速大橋ジャンクション周辺緑化アドバイス会議アドバイザー
2009年9月～現在	低炭素社会における高速道路空間のあり方に関する研究委員会委員
2010年1月～現在	(財)環境情報科学センター、平成21年度ヒートアイランド現象による環境影響等に関する調査業務委員
2011年4月～現在	高速道路調査会 高速道路のグリーンマネジメント委員会委員(～現在に至る)
2011年4月～現在	神奈川県公園等審査会委員(～現在に至る)

落合 晃 (おちあい あきら) 准教授



出生年：1966(昭和41)年
在籍：2003(平成15)年9月～
最終学歴：北海道薬科大学大学院生物薬学専攻
学位：医学博士
学位論文：ラット虚血急性腎不全に対するレンチン化superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果
専門分野：薬理学、再生医学、衛生科学
前職：生化学工業株式会社
留学：聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター(国内)
ミシシッピ大学 メディカルセンター(米国)
資格：薬剤師 衛生検査技師
非常勤講師：聖マリアンナ医科大学

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

薬剤干渉について検討を行い、卒研発表を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本DDS学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会

任期、活動期間等

学会等における役職等

日本臨床検査学教育学会 評議委員

小寺 洋 (こでら よう) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
在籍：1988(昭和63)年4月～
最終学歴：東京工業大学理学部
学位：理学博士
学位論文：Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野：生物化学、タンパク質工学
学内役職等：研究推進部副部長(2012～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
生命の作り出す生きるための道具「タンパク質」を、人工的に改変し、その活躍の場を広げることを目指している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 准教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：バイオインターフェイス/バイオマテリアル、ドラッグデリバリー、フォトメディカル
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：入試・広報センター副センター長(2013～)
 受賞・表彰：第40回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞「界面活性剤／合成香料／水三成分系相状態図」、1997年度材料技術研究協会技術賞「ハロゲン捕捉剤の開発」、平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」、2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」、2004年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「癌の光線力学的療法における5-Aminolevulinic acidの経皮吸収に及ぼすl-menthol誘導体の添加効果」、2005年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ポリエチレングリコールで改質した金基板表面へのタンパク質の吸着挙動」、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「発光周波数の異なるキセノンフラッシュ光のPDT効果」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「オゾン-UV処理により表面改質された各種高分子材料への血漿タンパク質の吸着挙動(Ⅱ)」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリンIXの集積性に及ぼす各種芳香族アミノ酸の添加効果」、第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」、2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」、Poster Session Award, 2009 TOIN International Symposium on Biomedical Engineering, “Effect of crown ethers on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation in U-937 cell”、SPACC-17 Poster Award, “Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells”、Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, “Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells”

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
(2)基礎化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2008年～2012年	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(3)基礎化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2008年～2012年	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。
(4)バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(5)生命工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。

(6) 生物学Ⅰ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(7) 生物学Ⅱ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

●バイオインターフェイス/バイオマテリアル
 水晶発振子マイクロバランス(QCM)を用いたヒト由来血漿中成分の吸着挙動の検討を目的に、その前段階としてヒト由来血漿の保存安定性について検討した。その結果、4℃および-20℃で保存した際の血漿由来物質の吸着量は保存日数の増加に伴い減少した。また、保存日数4日間で比較すると、4℃の方が-20℃より吸着量の減少は顕著であった。吸着量の減少は保存に伴う血清タンパクの変性および血小板の状態変化(活性化)によるものと考えられる。

●ドラッグデリバリー/フォトダイナミックセラピー
 種々の構造を持つリガンドを用いて調製したバナジウム錯体を用いて、ヒト組織球性腫瘍細胞U937細胞に対する細胞増殖阻害能を測定したところ、いくつかの錯体に細胞増殖阻害能を見出した。さらに、電気泳動とアネキシンVの染色によりアポトーシスによる細胞死であることを確認した。さらには、カスパーゼ阻害剤を用いて、アポトーシスの活性経路を評価した。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Synthesis of Oxovanadium Complexes and Their Apoptosis-Inducing Activity in Leukemia Cells.”	共著	2012年4月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, 60, (4)	Tomoko Yamaguchi, Shinya Watanabe, Yuriko Matsumura, Yoshikazu Tokuoka , and Akihiro Yokoyama	pp.508-512
“Oxovanadium complexes with quinoline and pyridinone ligands: syntheses of the complexes and effect of alkyl chains on their apoptosis-inducing activity in leukemia cells”	共著	2012年6月	Bioorganic & Medicinal Chemistry	Tomoko Yamaguchi, Shinya Watanabe, Yuriko Matsumura, Yoshikazu Tokuoka , and Akihiro Yokoyama	pp.3058-3064
“Stability of O/W emulsion with synthetic perfumes oxidized by singlet oxygen.”	共著	2013年1月	Journal of Chemistry	Naoki Watabe, Yoshikazu Tokuoka , and Norimichi Kawashima	http://www.hindawi.com/journals/chem/2013/971805/

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会、日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 : 順天堂大学 医学部 非常勤助手

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
疾患モデルマウスを用いた自己免疫疾患発症機序の解明 RAモデルに対するサイトカイン抑制による治療実験					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Nephrotoxic effect of subchronic exposure to S-(1,2-dichlorovinyl)-L-cysteine in mice”	共著	2012年5月1日	The Journal of Toxicological Science・37(5)	Nobuaki SHIRAI, Mareki OHTSUJI , Keitaro HAGIWARA, Hiroki TOMISAWA, Naomi OHTSUJI, Sachiko HIROSE, Hiromi HAGIWARA	pp.871-878
「SLEとRAの疾患特異性を決定する遺伝要因の解析」	共著	2012年8月	Japanese Journal of Clinical Immunology 35(4)	金子俊之, 天野浩文, 西川桂子, 河野晋也, 大辻希樹 , 西村裕之, 廣瀬幸子, 高崎芳成	328頁
“Transgenic Overexpression of G5PR That Is Normally Augmented in Centrocytes Impairs the Enrichment of High-Affinity Antigen-Specific B Cells, Increases Peritoneal B-1a Cells, and Induces Autoimmunity in Aged Female Mice”	共著	2012年8月1日	J Immunol. 2012 Aug 1;189(3)	Kitabatake M, Toda T, Kuwahara K, Igarashi H, Ohtsuji M , Tsurui H, Hirose S, Sakaguchi N	pp.1193-1201
“Development of a model of early-onset IgA nephropathy”	共著	2012年8月23日	J Am Soc Nephrol. 2012 Aug;23(8)	Keiko Okazaki, Yusuke Suzuki, Mareki Otsuji , Hitoshi Suzuki, Masao Kihara, Tadahiro Kajiyama, Azusa Hashimoto, Hiroyuki Nishimura, Rhubell Brown, Stacy Hall, Jan Novak, Shozo Izui, Sachiko Hirose, Yasuhiko Tomino	pp.1364-1374
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“A novel locus of B6 mice on chromosome 12 plays a role in common process shared by SLE, RA, and Sjögren syndrome.”	2012年12月5日	第41回 日本免疫学会総会・学術集会(神戸)	KANEKO Toshiyuki, AMANO Hirofumi, OHTSUJI Mareki , NISHIKAWA Keiko, KAWANO Shinya, OHTSUJI Naomi, TAKASAKI Yoshinar, Lin Qingshun, OKAZAKI Hideki, HIROSE Sachiko		

“Survival of antigen-derived germinal center B-cell is controlled by centrocyte-associated expression of apoptosis-regulator G5PR.”	2012年12月5日	第41回 日本免疫学会総会・学術集会(神戸)	KITABATAKE Masahiro, TODA Teppei, KUWAHARA Kazuhiro, IGARASHI Hideya, OHTSUJI Mareki , HIROSE Sachiko, SAKAGUCHI Nobuo
“The role of SAP-signal in SLE”	2012年12月5日	第41回 日本免疫学会総会・学術集会(神戸)	LIN Qingshun, TSURUI Hiromichi, NISHIKAWA Keiko, OKAZAKI Hideki, OHTSUJI Mareki , NISHIMURA Hiroyuki, ONO Masao, SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko
“Mechanism of Th cell tolerance induced with tolerogenic polyethylene glycol(PEG)-conjugate of protein antigen”	2012年12月5日	第41回 日本免疫学会総会・学術集会(神戸)	OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki , SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko, NISHIMURA Hiroyuki
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「からだを守る免疫の不思議な世界」	2012年11月24日	桐蔭横浜大学 ジュニア公開講座	桐蔭横浜大学
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「臨床検査技師の仕事」	2012年10月10日	進路新聞	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、日本分子生物学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会

小林 貴 (こばやし たかし) 専任講師



出生年：1951(昭和26)年
在籍：1989(平成元)年4月～
最終学歴：東京理科大学大学院博士課程
学位：理学修士
学位論文：風の乱れの空間構造
専門分野：地球物理、環境物理、計算機物理
前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」における演示実験等の導入	2005年度から導入を開始した。	講義としての板書等だけでは分かり難い各項目において、直接目で見たり耳で聞いたり出来るような演示実験装置を色々と工夫・準備し、教卓等で大きな定性実験として披露している。この為、大きな各種装置をJ棟4階倉庫に置いておき、授業も同階で行っている。
授業補習の導入	2005年度から本格的に導入を開始した。	1年の必修科目を中心に、全体に対する講義・演習だけでは身に入らなかつたり、不十分な学生を対象に、指名者および希望者を授業とは別の空き時間帯にカフェに呼び、個別指導をしている。これによって、個人ごと微妙に異なる不理解具合にかなり対応することが出来る。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」授業用小冊子	2011年4月(毎年改訂版を発行)	学内印刷・製本版、共著
「工学ワークショップⅡ」実験テキスト	2011年9月(毎年改訂版を発行)	学内印刷・製本版、共著

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
「江戸城外堀の1つである牛込堀の長期振動を音として聞く」に関して、元となるデータを他の人の協力を得て、紙ベースからデジタルデータに変換したものを作成した。これに基づいて、どのように音にしていくのか試行を始めた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、日仏海洋学会、ゆらぎ現象研究会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ実習教材	2010年～	

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
超長時間持久的負荷における生体反応 発汗と自律神経機能について			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター)「持久的有酸素負荷における生体応答」(Auto Matic System for Analysis & Therapy:AMSATを用いて)	2012年9月14日	第67回 日本体力医学会大会 岐阜市	清水智美、太田眞、今西昭雄、平田龍三、安藤隆、森川征一、鈴木政登
○その他			
(その他特記事項)			
臨床検査技師国家試験問題注解 2013年版(金原出版) 2012年5月31日			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、特定非営利活動法人(NPO法人)いろはにほへと塾 日本運動生理学会、日本臨床検査医学会

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

2012年度。生命医工学科臨床検査コースでは初めての臨床検査技師国家試験に臨んだ。その国家試験対策としての資料作り、講義、試験などに携わった。さらに一期生の就職活動サポートのため各種企業、施設の方と面談等を行った。また、研究室では感染性心内膜炎の研究題目を選択し、学生の卒業研究演題とした。今年度の結果に満足することなく、合格率、就職率ともに良い結果を維持できるようさらなる学生のサポートに徹する。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会、

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助手



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：健康科学士
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部付属病院 院内感染対策室 技術員
 資格：臨床検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析化学認定士(初級)
 非常勤講師：東京農業大学畜産学科家畜衛生学研究室研究生

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2013年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2013年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題はその問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスを抽出できた。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
<p>家畜から分離される細菌研究として、放線菌およびCampylobacterの研究を行った。放線菌の一種であるActinomyces 属菌にて新菌種が示唆される菌株について、遺伝学的な検討を行った。その実績は日本獣医師会獣医学術学会年次大会にて口頭発表した。Campylobacterはブロイラー感染モデルを用いて、細菌の生体内移行の実験を行った。</p> <p>抗菌薬耐性菌研究の一環として、健康人および食用肉からの耐性菌分離を行った。耐性菌制御のため、抗菌薬を用いない方法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について細菌学的立場から検討した。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭発表)馬扁桃における Actinomyces denticolens の免疫組織化学的検出と豚扁桃放線菌膿瘍起因の Actinomyces sp.との関連	2013年2月	平成24年度日本獣医学術学会年次大会, 大阪国際交流センター	時田萌子・蓮沼裕也 他

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
第1回千葉アクアラインマラソン 救護ボランティア	2012年10月	NPO法人 ABC Rescue
第1回日刊スポーツ富士山マラソン 救護ボランティア	2012年11月	スポーツメディカル協会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
 在籍 : 1999(平成11)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : 光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理Ⅰ 物理Ⅱ	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理Ⅰ」、「物理Ⅱ」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理Ⅰは静力学、物理Ⅱは電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2011年度に開始した、葉の振動計測による植物の水ストレスの推定に関する研究を継続して行った。まずは切り取った葉として、トマトの他、小松菜の葉を用いて、蒸散による葉の水分量の減少に伴う、葉の固有振動数の変化を調べ、トマトと同様に、水分量(葉の質量)が減少してしおれが進むに従い、葉の固有振動数は減少し、葉がゆっくり振動するようになることが確認できた。また、しおれた後、葉柄から給水を行い、葉が回復する過程において、水分量(葉の質量)と葉の固有振動数との関係を調べたところ、殆どヒステリシスは観測されなかった。このことより、固有振動数を調べることで、葉の水分量、すなわち植物の水ストレスが推定できる可能性が示された。現在は、葉に振動を与える手段として、パラメトリックスピーカを利用することを検討している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「新・基礎 力学演習」	共著	2012年11月10日	サイエンス社	永田一清、佐野元昭、轟木義一	特定不可
(学術論文)					
音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-地中刺突型音波伝播システムの構築-	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	白川貴志、杉本恒美、中川裕、佐野元昭、大幅元吉、澁澤栄	37-42頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Water distribution measurement in sand using sound vibration and SLDV”	2012年4月25日	Acoustics 2012 Nantes Nantes, France	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano , M.Ohaba, S.Shibusawa		
「水熱処理によるメロシアン含有LB膜の光学特性の改質-超構造生成を伴うJ-会合体の再編-」	2012年5月18日	日本化学会第92春季年会(2012) 慶應義塾大学日吉キャンパス・矢上キャンパス	三浦康弘、佐野元昭、杉本恒美		

“Structural Control of Dye LB Films by Hydrothermal Treatment”	2012年6月30日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2012	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on water distribution measurement in sand using sound vibration”	2012年7月17日	11th International Conference on Precision Agriculture, (Indianapolis Hyatt Regency hotel, Concept room)	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano , M.Ohaba and S.Shibusawa
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する検討, -伝搬音速値の推定精度向上に関する検討-」	2012年9月19日	音響学会秋季研究発表会 (信州大学工学部)	中川裕, 杉本恒美, 白川貴志, 佐野元昭 , 大幅元吉, 澁澤栄
“Study on Improvement of the Estimated Accuracy of the Sound Propagation Time in the Soil”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Water Distribution Imaging in the Soil using Propagation Velocity of Sound, - The Horizontal and the Vertical Water Distribution Imaging-”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Tsuneyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Basic Study on the soil water distribution measurement using stick type sound source and sensors”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Basic Study on the Water Stress of the Plant using the Vibration Measurement of the Leaf”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto, Hiroshi Hosoya, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Structural Control of Merocyanine Dye LB Films by Hydrothermal Treatment”	2012年12月13日	10th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME2012) (淡路夢舞台国際会議場)	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -伝搬音速の推定精度と植物栽培中の土壌水分測定に関する検討-」	2013年2月19日	アコースティックイメージング研究会、超音波研究会 (機械振興会館)	杉本恒美, 中川裕, 白川貴志, 佐野元昭 , 大幅元吉, 澁澤栄
「葉の振動計測による植物給水ニーズ推定に関する基礎検討」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	佐野元昭 , 佐野紘和, 杉原敏昭, 杉本恒美, 大幅元吉, 澁澤栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究, -地中縦挿し型送受信器を用いた植物根圏土壌水分分布の計測-」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	白川貴志, 杉本恒美, 中川裕, 佐野元昭 , 大幅元吉, 澁澤栄
「超節水精密農業技術の開発 -音波振動による土壌中の水分分布及び植物体のストレス応答計測-」	2013年3月18日	CREST「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」研究領域第1回公開シンポジウム(東京ビックサイト)	杉本恒美, 佐野元昭 , 杉原敏昭, 白川貴志, 中川裕, 佐野紘和
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「音波振動による土壌中の水分分布および植物体のストレス応答計測」	2012年12月14日	第2回 農学分野合同ワークショップ「農学から発信する水問題最前線」	高知大学農学部 大会議室
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
戦略的創造推進事業(CREST)	2010年10月～2014年3月	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
研究成果展開事業	2011年8月～2012年3月	研究成果最適展開支援プログラム(A-Step)探索タイプ 独立行政法人科学技術振興機構(JST)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会

須藤 昭一 (すどう しょういち) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2005(平成17)年9月～
 最終学歴：金沢大学工学部電子工学科
 学位：工学博士(東京大学)
 学位論文：Studies on the Vapor-Phase Axial Deposition Method for Optical Fiber Fabrication (東京大学 1982年)
 専門分野：光ファイバ、IT、医用センサ、脳科学
 前職：NTTマイクロシステムインテグレーション研究所 所長、NTTエレクトロニクス株式会社技師長
 学内役職等：工学部長、工学部ロボット工学科長、知的財産本部長(2012～)
 留学：Stanford University (米国; 1986～1987)
 受賞・表彰：(社)電子通信学会学術奨励賞(1979)
 (社)電子情報通信学会 論文賞(1981)
 (社)電子情報通信学会 論文賞(1995)
 (財)光産業技術振興協会 第13回桜井健二郎氏記念賞(1997)
 米国IEEEフェロー賞(1999)
 (社)電子情報通信学会業績賞(2001)
 文部科学大臣賞(2002)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
・最新脳科学 ・コミュニケーションの科学					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Effect of cooking on the human brain behavior in the frontal association area”	共著	February 16, 2012.	Neuroscience Letters, Volume 221, Issue 1	S. Sudo, A. Minam, and K. Ootake	pp.41-44
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Effect of cooking on the human brain behavior in the frontal association area”	September 12-14, 2012	The 22th Annual Conference of Japanese Neural Network Society	A. Minam, K. Ootake, and S. Sudo		
“Effect of cooking on the human brain behavior in the frontal association area”	November 10, 2012	7th International Symposium on Biomedical Engineering	A. Minam, K. Ootake, and S. Sudo		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
IEEE(Fellow)、電子情報通信学会、日本医療情報学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・看護学科、理学療法士学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)日本超音波医学会・超音波工学フェロー電子情報通信学会・シニア会員2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞2002年度材料技術研究協会技術賞2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
<p>医療分野では、がん治療、遺伝子注入などを目的として、高強度の超音波を用いた治療技術の研究が積極的に行われている。また、産業分野でも超音波洗浄技術が半導体や精密加工の分野で益々重要視されている。このような領域では音響キャビテーションの発生の様子や音圧の分布を計測する技術が必要とされている。そこで、当研究室では、キャビテーションセンサや音響キャビテーションが発生しても壊れずに使用可能なハイドロホン(水中マイクロホン)の研究開発を実施している。これらの研究は、当研究室とつくばの産業技術総合研究所・計測標準研究部門・音響超音波標準研究室、本多電子株式会社の産官学共同研究体制で進めている。また、これらのセンサに使用している当研究室製の水熱合成PZT圧電多結晶膜は、南カリフォルニア大学のK.K,Shung教授、Qifa Zhou 教授の研究グループにも供給しており、100MHz 領域の医療診断用高周波超音波プローブの開発に利用されており、APLやIEEE transaction on UFFC 等に共同で論文の発表も行っている。また、脳腫瘍細胞に超音波を照射してアポトーシス誘導することにより周囲の正常細胞に悪影響を及ぼすことなく従来よりも安全で深追い治療の可能な超音波による脳腫瘍治療技術の基礎研究を実施している。さらに、血管内超音波診断(IVUS; IntraVascular Sonograph)に用いる超音波プローブを血管内で回転させるための超小型超音波モータの研究を開始した。この研究はマイクロソニック株式会社の守屋正博士(元首都大学東京教授)、同社社長の入江喬介博士との共同研究で実施している。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
特集超音波を評価する技術 水熱合成圧電多結晶膜を用いた ニードル型ハイドロホンの構造と 特性	単著	2013年4月	超音波TECHNO VOL.25 3-4月号	-	31-39頁
(学術論文)					
“Cavitation sensor with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystalline film on titanium cylindrical pipe: Estimation of acoustic cavitation field and basic characteristics of cavitation sensor”	共著	2012年5月	AIP Conference Proceedings (accepted)	Michihisa Shiiba, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Mutzuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	pp.283-286

“A study on measurement technique for amount of generated acoustic cavitation - investigation of broadband integrated voltage by comparing with sound pressure and sonochemical luminescence”	共著	2012年5月	AIP Conference Proceedings (accepted)	Takeyoshi Uchida, Shinichi Takeuchi , Tsuneo Kikuchi	pp.291-294
“Self-separated PZT thick films with bulk-like piezoelectric and electromechanical properties”	共著	2012年	Journal of Material Research., 2011	Su, Qing; Zhu, Benpeng; Lee, J H; Bi, Zhenxing; Shung, Kirk; Zhou, Qifa; Takeuchi, Shinichi ; Park, Bae Ho; Jia, Quanxi; Wang, Haiyan	
“PZT FILM GENERATOR DRIVEN BY ULTRASONIC WAVE”	共著	2012年	Journal of Advanced Dielectrics	QIFA ZHOU, KWOK HO LAM, BENPENG ZHU,, XIABING ZHANG, K. KIRK SHUNG, TONGQING YANG and S. TAKEUCHI	
「ダブルルーメンカテーテル設計に向けたCAE(Computer Aided Engineering)手法導入の有用性」	共著	2013年3月1日	医工学治療 Vol.25 no.1	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三	30-38頁
“New Fabrication of High Frequency (100MHz) Ultrasound PZT Film”	共著	2013年	IEEE Transaction on UFFC	Zhu, Benpeng; Chan, N. Y.; Dai, Jiyang; Shung, K. Kirk; Takeuchi, S. ; Zhou, Qifa	pp.854-857

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
「キャビテーションセンサ出力スペクトルの積分範囲とその空間分布画像の関係」 Relationship between the BIV images and integration range of the output frequency spectrum from cavitation sensor	2012年5月27日	東京、グランドプリンスホテル新高輪	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「水熱合成PZTを用いたキャビテーションセンサによるキャビテーションの空間分布計測」 Spatial distribution measurement of acoustic cavitation by cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT film	2012年5月29日	電子情報通信学会・日本音響学会共催・超音波研究会・東京、機械振興会館	椎葉倫久, 植村友樹, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「DLCの脱血・返血孔間距離が再循環率に与える影響に関する流れ解析」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	丸下洋一, 石垣秀記, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三, 増田俊輔
“Theoretical Investigation of Recirculation with Double-”	2012年6月14日(～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Yoichi Marushita, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi , Tetsuzo Agishi
“Hollow cylindrical titanium pipe cavitation sensor using hydrothermal synthesized lead zirconate titanate poly-crystalline film as piezoelectric element”	2012年8月24日	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会 and Workshop on Ultrasonics and Underwater Acoustics in Korea, 2012(韓国・釜山)	Shinichi Takeuchi , Michihisa Shiiba, Yuuki Uemura, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi and Minoru Kurosawa and Minoru Kurosawa
“Study on cavitation sensor with hydrothermally deposited lead zirconate titanate film -Effect of integration range of BIV on the measured results-”	2012年10月8日	IEEE IUS(ドイツ、ドレスデン)	Michihisa SHIIBA, Yuuki UEMURA, Takeyoshi UCHIDA, Tsuneo KIKUCHI, Minoru K. KUROSAWA, Shinichi TAKEUCHI
「医用超音波における音響キャビテーションセンサの応用に関する検討」	2012年10月20日	日本超音波医学会第24回関東甲信越地方会(埼玉、大宮ソニックシティ)	椎葉倫久, 植村友樹, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一

「血液透析患者のシャント血管の狭窄形態の違いによるシャント音の変化に対する実験的検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 佐々木一真, 山本素希, 頼住啓一, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルに発生する血管振動に関する有限要素解析とLDVによる検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 鈴木正明, 村上真広, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
“The trial fabrication of hydrophone with hydrothermal PZT film vibrator and Ti front layer for measurement of high intensity sound field” Tiを前面に水熱合成PZT膜の振動子を用いた高強度音場測定用ハイドロホンの試作	2012年11月10日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama., Yokohama (2012)	Michihisa SHIIBA, Yuuki UEMURA, Nagaya OKADA, Takeyoshi UCHIDA, Tsuneo KIKUCHI, Minoru KUROSAWA, Shinichi TAKEUCHI
“Novel research on development of ultrasound therapeutic technique for brain tumor treatment”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama., Yokohama (2012)	Akiko WATANABE, Sakino IWASHIRO, Hikaru AIBOSHI, Kohei GUNJI, Yusuke TANAKA, Yuji TSUNEKAWA, Shinichi TAKEUCHI
“Basic study on the apoptotic induction of the brain tumor cell by the ultrasound irradiation”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama., Yokohama (2012)	Hikaru AIBOSHI, Akiko WATANABE, Shinichi TAKEUCHI
“Basic study on develop of cell culture vessel with acoustic windows for ultrasound irradiation”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama., Yokohama (2012)	Sakino IWASHIRO, Akiko WATANABE, Shinichi TAKEUCHI
“Development of ultrasound irradiation system for treatment of brain tumor cells – development of simplified ultrasound irradiation system for experiment”	2012年11月10日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama., Yokohama (2012)	Yusuke TANAKA, Akiko WATANABE, Masatsune MINAI, Shinichi TAKEUCHI
“Observation of spatial distribution of acoustic cavitation by ultrasound diagnostic equipment and consideration on application of cavitation sensor” US診断装置によるキャビテーション分布の観測とキャビテーションセンサ適用範囲の検討	2012年11月15日	The 33rd Symposium on Ultrasonic Electronics in Chiba	Yuuki Uemura, Michihisa Shiiba, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa, Pak-Kon CHOI and Shinichi Takeuchi
「キャビテーションを伴う高強度音場測定用ハイドロホンの背板が受波特性に及ぼす影響」 Consideration on effect of backing material on receiving characteristics of hydrophone suitable for measurement of high intensity sound field with acoustic cavitation	2012年11月15日	The 33rd Symposium on Ultrasonic Electronics in Chiba	Michihisa Shiiba, Yuuki Uemura, Nagaya Okada, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi
「キャビテーションを伴う高強度音場測定用センサの開発に関する基礎研究 – キャビテーションセンサ及び堅牢なハイドロホンの開発 –」	2012年11月17日	超音波治療研究会(宮崎、KITENビル)	椎葉 倫久、植村友樹、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一
「CFDを用いたエンドホール型ダブルルーメンカテーテル(E-DLC)の再循環に関する理論解析」	2012年11月22日 (~24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	丸下洋一, 石垣秀記, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「狭窄率や狭窄長の違いに伴うシャント音の変化に影響を与える流体パラメータの検討」	2012年11月22日 (~24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	本橋由香, 佐々木一真, 頼住啓一, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「脳腫瘍細胞をアポトーシスへ誘導するための音響導波路付き平面波型超音波照射システムに関する基礎検討」	2012年12月	2012年材料技術研究協会討論会, 東京理科大, 千葉(2012)2012年材料技術研究協会討論会講演要旨集p.85-86	渡邊晶子, 葉袋正恒, 竹内真一

「超音波照射が脳腫瘍細胞U-87MGの増殖に及ぼす影響に関する基礎検討」	2012年12月	2012年材料技術研究協会討論会, 東京理科大, 千葉 (2012)2012年材料技術研究協会討論会講演要旨集p.87-88	渡邊晶子, 相星輝, 西村裕之, 竹内真一
「チタン製全面板を有する堅牢型ハイドロホンの特性改善に関する検討 ～試作及び集束音場における非線形歪の測定～」 Performance improvement of tough hydrophone using titanium front layer —Trial fabrication and measurement of nonlinear distortion in the focused ultrasound field—	2013年1月25日	電子情報通信学会・日本音響学会共催・超音波研究会 (京都、同志社大学)	椎葉倫久、植村友樹、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、竹内真一
「チタン膜を受音面とした堅牢型ハイドロホンにおけるスズ製背板による受波特性の改善」 Study on improvement of tough hydrophone used receiving surface of titanium	2013年3月15日	日本音響学会春季研究発表会 (東京八王子、東京工科大学)	椎葉倫久、植村友樹、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、竹内真一

○講演会・研修会・セミナー講師

題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
小型キャビテーションセンサ、ソノケルミネセンス、ソノルミネセンス および 超音波診断画像を用いた音響キャビテーションの空間分布の観察	2012年12月15日	第5回超音波とマイクロバブルの相互作用のシンポジウム	帝京大学板橋キャンパス

○その他

(産学協同研究)

研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称
「低強度超音波照射の細胞挙動への影響の研究」		日本シグマックス株式会社
「水熱合成法を用いた圧電振動子の研究」		上田日本無線株式会社
「水熱合成法によるハイドロホンの開発」		本多電子株式会社
「高出力超音波音場計測とその応用に関する研究」		独立行政法人産業技術総合研究所

(海外出張)

用件	出張期間	出張先
Workshop on Ultrasonics and Underwater Acoustics in Korea, 2012	2012年8月27日～28日	釜慶大学校 (韓国・釜山) Daeyeon Campus, Pukyong National University, Busan, Korea
2012 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2012) in Dresden, Germany	2012年10月7日～10日	Dresden, Germany
2013 IEEE 2013 Joint UFFC, EFTF, and PFM Symposium in Prague, Czech Republic	2012年10月7日～10日	Prague, Czech Republic

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員 (基礎領域・領域責任者)
2008年04月～現在	電子情報通信学会誌・Fundamentals Review誌・編集委員
2008年05月～現在	日本超音波医学会・Scientific Advisory Board委員
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員

2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員	
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2009年05月～2013年4月	日本音響学会編集委員会(論文部会)委員	
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー	
2009年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)	
2010年04月～現在	日本超音波医学会・代議員	
2011年11月～2012年11月	日本超音波医学会・関東甲信越地方会・第24回学術集会・実行委員	
2012年11月～現在	日本超音波医学会・関東甲信越地方会・第25回学術集会・実行委員	
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)	
2013年04月～現在	日本音響学会・理事(国際渉外担当)	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜地方裁判所裁判所委員	2012年4月～現在	横浜地方裁判所



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：(情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：精密加工センター長(2012～)
 資格：アマチュア無線技士(電話級)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の現在全担当科目用のホームページを作成し、一部の授業の講義内容をそのページで公開	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://ajape.org/

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
工学系の分野でヒュリスティック・アルゴリズムの研究で免疫アルゴリズム(IA: Immune Algorithm)の研究を進めて、改良型の二つの方法を検討した。一つでは進化論的な操作をIAのグループ生成に取り入れ、動的に変わる係数を採用する方法を検討した。この方法で従来の古典的なIA法の実現方法に比べて改良が見られたが、小規模の改善しか得られなかった。このため、もう一つの方法ではグループ生成に用いる係数を固定する改良を加えた。この方法ではより良い結果を得た。この二つの方法は技術論文で結果がまとめられている。医療機器の研究開発の分野に関しては、パルスオキシメーターの精度向上、心電図信号解析、携帯機器(携帯電話やiPadの様な物等)の医療信号表示用の研究開発を開始した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“On the Improvement of an Immune Algorithm that Searches the Input Pair that Activates the Largest Number of Gates in a Combinational Circuit”	2012年07月16日	27th. International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2012), Japan, Hokkaido, Sapporo.	Tatsuya Maruyama and Alberto Palacios Pawlovsky

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会	2002年から現在まで	理事長

阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際化と社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1～2001.12)
 資格：上級心理カウンセラー、英検1級
 中学1級・高校2級教員免許、サイコパス診断資格

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コミュニケーション上達のための独自テキスト使用	2005年4月～	英語コミュニケーション(I～IV)に関しては、すべて自作のテキストを使用し、話す・聴く・渡米実践編(下・上)と学生たちに必要とされるであろう前半を攻略する独自のシステムを確立し、授業アンケートでも上位に評価され、医用工学部長からも認められる。
米国のESL教授法に則った最先端の英語教授法を展開	2005年4月～	英語III・IVに関しては、学生たちが専門研究に進んだ場合に必要となる英語論文及び国際学会に対応することを想定した実践を最重視した独自の授業を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「英会話攻略はこれしかない」(洋泉社)を副読本として使用	2005年4月～	初級レベルからネイティブレベルに到達するまでの英会話上達の5ステップを具体的に説明。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
日米の刑務所及び凶悪犯罪の調査を通じ、反社会性の原因を追究し、より安全・健全な社会の在り方を研究。
○その他
(その他特記事項)
ラジオ日経「大人のラジオ」社会と犯罪コーナー担当(2012年9月～現在)

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年4月～現在	日本私学協会教員免許講習講師	
2009年8月～現在	PFI Japan(国際矯正施設支援連盟 日本支部)相談役	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者オリエンテーション担当講師

佐藤敏夫 (さとう としお) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：1997(平成9)年12月～
 最終学歴：慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位：博士(医学)、博士(工学)
 学位論文：Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs(医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野：生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職：㈱東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等：教務委員、キャリア情報センター委員(2012～)
 キャリア情報センター副センター長(2013～)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格、第1種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師：千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
昨年度に続き、「生体雑音の時間-周波数解析による生体の機能評価」、「有限要素法(FEM)を用いた各種医療機器内の血液流れ解析」に加え「冠動脈狭窄治療の指標に関する実験的評価」など臨床工学分野の多岐にわたる研究テーマを展開している。これらの研究成果は、国内外の学会(米人工臓器学会、日本医学工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会など)で発表し、医療従事者から高い評価を得ている。今後も医療技術の発展に貢献できる計測・診断技術の開発と実用化を目指した研究に従事する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ダブルルーメンカテーテルの最適設計に関するCAE的手法の導入」	共著	2012年6月1日	桐蔭論叢 第26号	丸下洋一、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	5-14頁
「ダブルルーメンカテーテル設計に向けたCAE(Computer Aided Engineering)手法導入の有用性」	共著	2013年3月1日	医工学治療 Vol.25 no.1	丸下洋一、石垣秀記、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	30-38頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「PIVを用いた静脈側チャンバろ過網部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	山内忍、頼住啓一、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
「DLCの脱血・返血孔間距離が再循環率に与える影響に関する実験的検討」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	石垣秀記、頼住啓一、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
「DLCの脱血・返血孔間距離が再循環率に与える影響に関する流れ解析」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	丸下洋一、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三、増田俊輔		
“Theoretical Investigation of Recirculation with Double Lumen Balloon Catheters”	2012年6月14日(～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Yoichi Marushita, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi, Tetsuzo Agishi		

“Non-Invasive Evaluation of Stenosis Using Vascular Access Based on Quantitative Shunt Murmur Analysis”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Toshio Sato , Yuka Isono, Haruna Hoshino , Noriaki Nakane, Yuka Motohashi, Tetsuzo Agishi (Oita University)
“Functional Assessment of Vascular Access by Shunt Murmurs at Arterial Vascular Anastomosis”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Yuka Motohashi , Yuka Isono , Noriaki Nakane, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi (Oita university)
“Experimental Investigation of Recirculation Ratio during Reverse Connection of DLCs with Different Tip Shapes”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Hideki Ishigaki , Keiichi Yorizumi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Investigation of the Use of PIV To Visualize Flow within Different Types of Venous Air Trap Chamber”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“CFD Analysis of Evaluation Method of Coronary Artery Stenosis by Measuring Coronary Artery Pressure”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Saeka Sunohara, Yoichi Marushita , Yuka Motohashi, Toshio Sato , Masato Otsuka, Yukio Tsurumi
「ダブルルーメンカテーテルの脱血・送血孔間距離が再循環に与える影響」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 , 竹中雅登, 大城寿乃, 石垣秀記, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき現象と脱血流量の関連性に関する基礎検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「自己血管内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による機能的重症度評価の試み」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 , 八馬拓也, 山本智佳, 春原冴香, 本橋由香, 山内忍, 阿岸鉄三
「冠動脈狭窄モデルを用いた狭窄状態の違いがFFRに与える影響に関する実験的検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原冴香, 扇谷至, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 大塚雅人, 鶴見由起夫, 木原昭
「血液透析用穿刺針先端の流れの可視化評価」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「血液透析患者のシャント血管の狭窄形態の違いによるシャント音の変化に対する実験的検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 佐々木一真, 山本素希, 頼住啓一, 山内忍, 佐藤敏夫 , 竹内真一, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルに発生する血管振動に関する有限要素解析とLDVによる検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 鈴木正明, 村上真広, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫 , 竹内真一, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による血液凝固の早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍, 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「超音波及び光を用いた血液回路内凝固の非侵襲かつ早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 , 瀧下真史, 小田嶋彬, 春原冴香, 山内忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「透析用血液回路ピロー部の流れの可視化」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍, 内田早紀, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三

“Investigation of the recirculation ratio in hemodialysis by double-lumen catheters with different tip shapes”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki, Keichi Yorizumi, Yoichi marushita, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“A basic investigation of recirculation with double-lumen catheters”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita, Hideki Ishigaki, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Syunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
“Ability of particle image velocimetry to visualize within venous air trap chamber filtration nets and blood inflow sites”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Fluid parameters affecting changes in shunt murmurs arising from differences in degree of stenosis”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Particle image velocimetry visualization and analysis of flow at the tip of hemodialysis needles”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Keichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「CFDを用いたエンドホール型ダブルルーメンカテーテル(E-DLC)の再循環に関する理論解析」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	丸下洋一, 石垣秀記, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 竹内真一, 阿岸鉄三
「DLCの脱返血孔間距離と血液粘性がDLCの再循環に与える影響」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	石垣秀記, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「血液透析の穿刺針から挿入した圧力ガイドワイヤーによる内シャント狭窄病変の生理学的評価の試み」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	佐藤敏夫 , 八馬拓也, 春原冨香, 山内忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「狭窄長や屈曲角度の異なる内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による生理学的評価の可能性」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	佐藤敏夫 , 山本智佳, 春原冨香, 山内忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「狭窄率や狭窄長の違いに伴うシャント音の変化に影響を与える流体パラメータの検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	本橋由香, 佐々木一真, 頼住啓一, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫 , 竹内真一, 阿岸鉄三
「PCPS回路内における血栓形成に対する非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	坂元英雄, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫
「血液回路雑音のウェーブレット変換による回路内凝固の早期モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	西川直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「静脈側エアトラップチャンバ濾過網部でのフィブリン凝集の可視化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	山内忍, 頼住啓一, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた血液透析用穿刺針先端付近の流れの可視化と各種パラメータの定量化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会 (アクロス福岡)	頼住啓一, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「シャント音の時間-周波数解析に基づいたVAの非侵襲的機能評価」	2012年10月21日	日本血液浄化技術学会 第5回血液浄化工学セミナー	社会保険中央総合病院
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「第51回注目発明選定証」	1992年	科学技術庁	

「技術賞」	2002年	材料技術研究協会討論会	
「ゴールドポスター賞」	2003年	材料技術研究協会討論会	
“Poster Session Award”	2007年	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2007	
“Poster Session Award”	2008年	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008	
ゴールドポスター賞	2008年	材料技術研究協会討論会	
“Oral Session Award”	2010年	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010	
平成23年度ものづくり技術交流会 ポスター賞	2011年12月22日	平成23年度ものづくり技術交流会	石垣秀記、佐藤敏夫
“Poster Session Award”	2012年11月10日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIO 58th annual conference	2012年6月14日～16日	San Francisco (米国)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「有限要素法を用いた擬似血管狭窄モデルのシャント雑音解析」	2012年7月1日	Clinical Engineering 磯野裕佳、佐藤敏夫	
「粒子画像流速測定法(PIV)を用いたダブルルーメンカテーテルの流れ場の可視化」	2012年7月1日	Clinical Engineering 頼住啓一、佐藤敏夫	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員

森下武志 (もりした たけし) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報副センター長 (2013～)
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科情報システム工
 学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 受賞・表彰：3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent
 Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲
 ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サ
 ンプランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験的評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
福祉環境工学研究：孤独死対策のための養護老人ホームにて社会実験検証					
マシンインテリジェンスに関する研究：小型ロボットと小型両眼視覚システムの統合システム開発と稼動範囲に関する調査					
健康エンジニアリングに関する研究：健康維持について磁気が体に及ぼす影響に関する調査					
医用システム統合学に関する研究：ロボット技術と医療機器との関連と課題に関する調査					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「転倒回避を考慮したロッカーボギーリンク移動機構を備える移動ロボットの昇段能力調査」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢, 第26号, ISSN1341-3805	大島 悠, 森下武志	159-163頁

「福祉支援者支援のための生活環境振動計測と生活状態推定情報発信システム」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢, 第26号, ISSN1341-3805	熊田 明央, 森下武志	151-158頁
“Integer Inverse Kinematics Method Using Fuzzy Logic”	共著	2012年6月23日	In Journal of Intelligent Service Robotics	Takeshi MORISHITA, Osamu TOJO	pp.101-108
“Proposal and Evaluation of Integer Inverse Kinematics for Multijoint Small Robot”	共著	2012年10月3日	Proceedings of the 2012 International Conference on Intelligent Robotics and Applications (ICIRA 2012)	Osamu TOJO, Takeshi MORISHITA	pp.376-386
“Design and Development of Compact Autonomous Robot”	共著	2012年11月	Proceedings of TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012	Shinjiro MOCHIDA, Takeshi MORISHITA	p.98
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
単居高齢者支援システムを活用した持続実現可能な地域社会も出るの社会実験報告	2012年5月28日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'12 講演論文集, 1P1-N08	持田 信二郎, 津田裕也, 神奈川県高齢福祉課, 鈴木秀志, Emily Ra, 森下 武志		
単居高齢者と支援者を支援する持続実現可能システム設計	2012年9月18日	日本ロボット学会学術講演会'12 講演論文集, 2H3-1	持田 信二郎, 津田裕也, 熊田 明央, 神奈川県高齢福祉課, Emily Ra, 森下 武志		
単居高齢者と支援者を支援する持続実現可能システム設計	2013年3月	日本機械学会 IIP2013情報・知能・精密機器部門講演会 講演論文集, F-1-3	持田 信二郎, 津田裕也, 神奈川県高齢福祉課, 森下 武志		
○その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
2012 International Conference on Intelligent Robotics and Applications (ICIRA 2012)	2012年10月3日～5日	Concordia University(カナダ)			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
高齢者の孤立死防げ	2013年1月23日	朝日新聞			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本ロボット学会、日本機械学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年4月～2012年7月	日本ロボット学会 ロボット教育専門委員会委員	
2011年7月～2013年4月	日本ロボット学会RSJ 「ロボット教育論文特集号」拡大査読委員会委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
大学発提案制度県政事業の実現に貢献(高齢者支援システム)	2011年4月～2013年3月	神奈川県

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランス
 デューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、
 人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～
 2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクス基礎と応用に関するシンポ
 ジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業外における定期的な補講の実施	2011年4月～	物理学や電気工学の基礎に関する補講の実施
インターネットを活用した国家試験対策用自習計画	2011年4月～2013年3月	臨床工学技士国家試験対策に向けて、学内組織であるインディカフェのスタッフとの連携に活用
国家試験対策用勉強チームにおけるファシリテーターの育成	2011年4月～2013年3月	臨床工学技士国家試験対策に向けて勉強チームを組織し、チームリーダーをファシリテーターとして育成
2.作成した教科書、教材、参考書		
物理学、電気工学、人間工学、福祉工学におけるそれぞれの教材	2011年4月～2013年3月	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付
実験系授業における教材	2011年4月～	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
4.その他教育活動上特記すべき事項		
IDEA League 「Doctoral School」	2012年11月13日	インペリアル・カレッジ、デルフト工科大学、ETHチューリヒ校、アーヘン工科大学、パリテックの学生に向けて東工大にて招待講演

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
先端医療で求められている小型高周波超音波プローブの開発を行った。試作した超音波プローブを超音波顕微鏡に組み込み超音波イメージングを行い、組織の断層像と3D表示画像が得られるまでに至った。小型高周波超音波プローブについては日本音響学会にて発表を行い、また、スマート・アクチュエータ/センサ委員会講演第99回定例会にて招待講演を行った。プローブに使用する機能性材料については、応用物理学会等にて発表を行い、MRS等複数の論文誌に研究成果が掲載された。今後は医療分野の論文誌にも研究発表を行いたいと考えている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
(国際会議論文)					
“Growth of (KxNa1-x)NbO3 films by hydrothermal method and their characterization”	共著	2012年	The International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications (IWPMA) 2012	T. Shiraishi, H. Einishi, M. Ishikawa , S. Yasui, T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida Y. Sakashita, and H. Funakubo	

“Epitaxial growth of KNbO ₃ thin films by hydrothermal method and their electromechanical properties”	共著	2012年	The International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications (IWPMA) 2012	Mustuo Ishikawa, S. Takeuchi, T. Shiraishi, H. Einishi, S. Yasui, T. Hasegawa, M. Kurosawa and H. Funakubo	
“Growth of (K _x Na _{1-x})NbO ₃ films by hydrothermal method and their characterization”	共著	2012年	IUMRS-International Conference on Electronic Materials (IUMRS-ICEM 2012)	T. Shiraishi, H. Einishi, M. Ishikawa , S. Yasui, T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida, Y. Sakashita, and H. Funakubo	
“Growth of (K,Na)NbO ₃ films on Flexible Substrates by Hydrothermal Method for Energy Harvesting applications”	共著	2012年	2012 MRS Fall Meeting, Hynes Convention Center and Sheraton Boston Hotel Boston, MA, U.S.A.	T. Shiraishi, H. Einishi, S. Yasui, M. Ishikawa , T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida, Y. Sakashita, H. Funakubo	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
(国際会議) “Growth of (K _x Na _{1-x})NbO ₃ films by hydrothermal method and their characterization”		2012年4月	The International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications (IWPMA)	Mutsuo Ishikawa , Sshinichi Takeuchi, Takahisa Shiraishi, Hiro Einishi, Shintaro Yasui, Tomohito Hasegawa, Minoru Kurosawa, Y. Sakashita, and Hiroshi Funakubo	
“Epitaxial growth of KNbO ₃ thin films by hydrothermal method and their electromechanical properties”		2012年4月	The International Workshop on Piezoelectric Materials and Applications (IWPMA) 2012	T. Shiraishi, H. Einishi, M. Ishikawa , S. Yasui, T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida Y. Sakashita, and H. Funakubo	
“Growth of (K _x Na _{1-x})NbO ₃ films by hydrothermal method and their characterization”		2012年	IUMRS-International Conference on Electronic Materials (IUMRS-ICEM 2012)	T. Shiraishi, H. Einishi, M. Ishikawa , S. Yasui, T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida, Y. Sakashita, and H. Funakubo	
“Growth of (K,Na)NbO ₃ films on Flexible Substrates by Hydrothermal Method for Energy Harvesting applications”		2012年12月	2012 MRS Fall Meeting, Hynes Convention Center and Sheraton Boston Hotel Boston, MA, U.S.A.	T. Shiraishi, H. Einishi, S. Yasui, M. Ishikawa , T. Hasegawa, M. Kurosawa, H. Uchida, Y. Sakashita, H. Funakubo	
(国内会議) 「圧電結晶膜を用いた高周波強力超音波トランスデューサの基礎検討」		2012年9月	2012年度秋期日本音響学会	石河 睦生, 石川 梓, 丸山 洋祐, 幸健太, 亀山大輔, 竹内 真一, 白石 貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実	
「気相染色法を用いたヒノキチオール塗布とその抗菌効果に関する基礎検討」		2012年9月	創立85周年色材研究発表会	菅野匠, 米山雄二, 野口正孝, 佐野元昭, 川島徳道, 小林聖人, 下村美文, 石河睦生	
「高分解能メカニカルスキャン用高周波超音波プローブの開発」		2012年9月	2012年度秋期日本音響学会	亀山大輔, 丸山洋祐, 幸 健太, 石川 梓, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 竹内真一, 石河睦生	
「KNbO ₃ 圧電結晶膜を利用したユニモルフ型振動子の基礎研究」		2012年9月	2012年度秋期日本音響学会	丸山洋祐, 石川 梓, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 竹内真一, 石河睦生	
「水熱合成(K _x Na _{1-x})NbO ₃ 膜の結晶構造評価」		2012年10月	第32回エレクトロセラミックス研究討論会	白石 貴久, 金子 祈之, 柴西弘, 石河 睦生, 内田寛, 黒澤 実, 舟窪 浩	
「ヒノキチオールの抽出と超音波霧化技術による有効利用」		2012年10月	第23回廃棄物資源循環学会研究発表会	菅野匠, 米山雄二, 野口正孝, 佐野元昭, 川島徳道, 小林聖人, 下村美文, 石河睦生	

「KNbO ₃ 圧電結晶膜を用いた高周波超音波トランスデューサの開発」	2012年10月	日本超音波医学会関東甲信越地方会 第24回学術集会	亀山大輔, 丸山洋祐, 幸 健太, 石川 梓, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 竹内真一, 石河睦生
“Development of high performance ultrasonic spindle – Consideration of optimum conditions for machining accuracy with ultrasonic assist –”	2012年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takumi KURAHASHI, Minoru KUROSAWA, Mutsuo ISHIKAWA
“Study of ultrasonic atomization for coating of extracted hinokitiol liquid”	2012年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takumi KANNO, Yuji YONEYAMA, Masataka NOGUCHI, Motoaki SANNO, Norimichi KAWASHIMA, Kiyohito KOBAYASHI, Mihumi SHIMOMURA, Mutsuo ISHIKAWA
“An orientation-controlled KNbO ₃ thick film transducer for high intensity ultrasonic radiation”	2012年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Azusa ISHIKAWA, Minoru KUROSAWA, Takahisa SHIRAISHI, Hiroshi HUNAKUBO, Shin-ichi TAKEUCHI, Mutsuo ISHIKAWA
“Development of orientation-controlled KNbO ₃ film ultrasonic transducer using hydrothermal method”	2012年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mutsuo ISHIKAWA, Azusa ISHIKAWA, Kenta MIYUKI, Daisuke KAMEYAMA, Yosuke MARUYAMA, Shin-ichi TAKEUCHI, Minoru KUROSAWA, Takahisa SHIRAISHI, Hiroshi FUNAKUBO
「KNbO ₃ 圧電結晶膜を用いた高周波超音波トランスデューサの開発」	2012年10月	日本超音波医学会関東甲信越地方会 第24回学術集会	亀山大輔, 丸山洋祐, 幸 健太, 石川 梓, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 竹内真一, 石河睦生
「水熱合成(K _x Na _{1-x})NbO ₃ 膜の作製と結晶構造評価」	2013年3月	2013年春季第60回応用物理学関係連合講演会	白石貴久, 金子祈之, 柴西弘, 石河睦生, 黒澤実, 内田寛, 舟窪浩
「種々の温度で水熱合成したKNbO ₃ の特徴」	2013年3月	2013年春季第60回応用物理学関係連合講演会	金子 祈之, 白石 貴久, 石河 睦生, 黒澤 実, 内田 寛, 舟窪 浩
「水熱合成法によるKNbO ₃ の低温成膜」	2013年3月	日本セラミックス協会年会	金子 祈之, 白石 貴久, 石河 睦生, 黒澤 実, 舟窪 浩
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
IDEA League(インペリアル・カレッジ、デルフト工科大学、ETHチューリッヒ校、アーヘン工科大学、パリテックのコンソーシアム)「Doctoral School」招待講演	2012年11月13日	東京工業大学 プロダクティブリーダー養成機構	東京工業大学 大岡山キャンパス
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「光造形による各種開発品の試作・検討」	2012年	泉工医科工業株式会社	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本音響学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、色材協会、材料技術研究協会、IEEE、MRS、NPO法人健康福祉工学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア 「最先端医療機器を用いた手術の模擬体験の コーナー」	2012年7月14日	神奈川県教育委員会、財団法人神奈川科学技術アカデ ミー

本橋由香(もとはし ゆか) 助教



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程修了
 学位：工学修士
 学位論文：血液透析患者におけるシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセスの機能評価
 専門分野：生体計測、医用統計学、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：キャリア情報センター委員(2012～)、教務委員(2013～)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)臨床実習における医療人としての自覚を促すための取り組み	2010年4月～	学生の医療人としての自覚をより深めるため、臨床工学技士免許取得の必須科目である臨床実習の導入にあたって、実習生としての心構えやチーム医療における臨床工学技士の役割、医療を介した社会貢献などをテーマにグループディスカッションと発表を行った。
(2)1年次リメディアル教育としての数学補習	2011年4月～	高校までの数学の学習範囲を未履修あるいは不得意とする学生に対して、学力別のクラス編成を行った上で週1コマの臨床工学分野に必要な最低限の知識の充足と問題演習プログラムを実施し、基礎学力向上を図った。
(3)工学へのステップ	2011年4月～	工学に必要な最低限の基礎知識の習得、問題解決力やPCを使ったプレゼンテーション能力向上を目的として、1年次の工学へのステップでは「嘘発見器」を作製後、作製した嘘発見器を使用して学生自身にオリジナル実験の立案・実施を行わせた。また、その成果をプレゼンテーションさせ、卒業研究や上級学年の講義への準備を行った。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
昨年度に続き、「生体雑音の時間-周波数解析による生体の機能評価」、「有限要素法(FEM)による各種医療機器内の血液流れ解析」に加え「冠動脈狭窄治療の指標に関する実験的評価」など臨床工学分野の諸問題に対する研究活動を実施している。これらの研究成果は、国内外の学会(米人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会など)で報告し、医療従事者からの評価を得ている。次年度も医療技術開発に貢献できるように、計測・診断技術の実用化を目指した研究テーマを中心活動する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
ダブルルーメンカテーテルの最適設計に関するCAE的手法の導入	共著	2012年6月1日	桐蔭論叢 第26号	丸下洋一、石垣秀記、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	5-14頁
「ダブルルーメンカテーテル設計に向けたCAE(Computer Aided Engineering)手法導入の有用性」	共著	2013年3月1日	医工学治療 Vol.25 no.1	丸下洋一、石垣秀記、中根紀章、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	30-38頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「PIVを用いた静脈側チャンバラ過網部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	山内忍、頼住啓一、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三		

「DLCの脱血・返血孔間距離が再循環率に与える影響に関する実験的検討」	2012年6月22日 (～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	石垣秀記, 頼住啓一, 丸下洋一, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「DLCの脱血・返血孔間距離が再循環率に与える影響に関する流れ解析」	2012年6月22日 (～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	丸下洋一, 石垣秀記, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三, 増田俊輔
“Theoretical Investigation of Recirculation with Double Lumen Balloon Catheters”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Yoichi Marushita, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Shinichi Takeuchi, Tetsuzo Agishi
“Non-Invasive Evaluation of Stenosis Using Vascular Access Based on Quantitative Shunt Murmur Analysis”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Toshio Sato, Yuka Isono, Haruna Hoshino, Noriaki Nakane, Yuka Motohashi , Tetsuzo Agishi (Oita University)
“Functional Assessment of Vascular Access by Shunt Murmurs at Arterial Vascular Anastomosis”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Yuka Motohashi , Yuka Isono, Noriaki Nakane, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi (Oita university)
“Experimental Investigation of Recirculation Ratio during Reverse Connection of DLCs with Different Tip Shapes”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Hideki Ishigaki, Keiichi Yorizumi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Investigation of the Use of PIV To Visualize Flow within Different Types of Venous Air Trap Chamber”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“CFD Analysis of Evaluation Method of Coronary Artery Stenosis by Measuring Coronary Artery Pressure”	2012年6月14日 (～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Saeka Sunohara, Yoichi Marushita, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Masato Otsuka, Yukio Tsurumi
「ダブルルーメンカテーテルの脱血・送血孔間距離が再循環に与える影響」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	佐藤敏夫, 竹中雅登, 大城寿乃, 石垣秀記, 頼住啓一, 山内忍, 本 橋由香 , 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき現象と脱血流量の関連性に関する基礎検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本 橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「自己血管内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による機能的重症度評価の試み」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	佐藤敏夫, 八馬拓也, 山本智佳, 春原冨香, 本橋由香 , 山内忍, 阿 岸鉄三
「冠動脈狭窄モデルを用いた狭窄状態の違いがFFRに与える影響に関する実験的検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	春原冨香, 扇谷至, 山内忍, 本橋 由香 , 佐藤敏夫, 大塚雅人, 鶴見 由起夫, 木原昭
「血液透析用穿刺針先端の流れの可視化評価」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍, 本 橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析患者のシャント血管の狭窄形態の違いによるシャント音の変化に対する実験的検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	本橋由香 , 佐々木一真, 山本素 希, 頼住啓一, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルに発生する血管振動に関する有限要素解析とLDVによる検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	本橋由香 , 鈴木正明, 村上真広, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹 内真一, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による血液凝固の早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	山内忍, 西川直也, 本橋由香 , 佐 藤敏夫, 阿岸鉄三
「超音波及び光を用いた血液回路内凝固の非侵襲かつ早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術セン ター)	佐藤敏夫, 瀧下真史, 小田嶋彬, 春原冨香, 山内忍, 本橋由香 , 阿 岸鉄三

「透析用血液回路ピロー部の流れの可視化」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍, 内田早紀, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Investigation of the recirculation ratio in hemodialysis by double-lumen catheters with different tip shapes”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki, Keiichi Yorizumi, Yoichi marushita, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“A basic investigation of recirculation with double-lumen catheters”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita, Hideki Ishigaki, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Syunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
“Ability of particle image velocimetry to visualize within venous air trap chamber filtration nets and blood inflow sites”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Fluid parameters affecting changes in shunt murmurs arising from differences in degree of stenosis”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental investigations on effectiveness of fractional flow reserve (FFR) using stenosis models”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Masato Otsuka, Yukio Tsurumi
“Particle image velocimetry visualization and analysis of flow at the tip of hemodialysis needles”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「CFDを用いたエンドホール型ダブルルーメンカテーテル(E-DLC)の再循環に関する理論解析」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	丸下洋一, 石垣秀記, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「DLCの脱返血孔間距離と血液粘性がDLCの再循環に与える影響」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	石垣秀記, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析の穿刺針から挿入した圧力ガイドワイヤーによる内シャント狭窄病変の生理学的評価の試み」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	佐藤敏夫, 八馬拓也, 春原冨香, 山内忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三
「狭窄長や屈曲角度の異なる内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による生理学的評価の可能性」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	佐藤敏夫, 山本智佳, 春原冨香, 山内忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三
「狭窄率や狭窄長の違いに伴うシャント音の変化に影響を与える流体パラメータの検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	本橋由香 , 佐々木一真, 頼住啓一, 中根紀章, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「PCPS回路内における血栓形成に対する非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	坂元英雄, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫
「血液回路雑音のウェーブレット変換による回路内凝固の早期モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	西川直也, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側エアトラップチャンバ濾過網部でのフィブリン凝集の可視化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	山内忍, 頼住啓一, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた血液透析用穿刺針先端付近の流れの可視化と各種パラメータの定量化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	頼住啓一, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「シャント音の時間-周波数解析に基づいたVAの非侵襲的機能評価」	2012年10月21日	日本血液浄化技術学会 第5回血液浄化工学セミナー	社会保険中央総合病院

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「桐蔭工学会賞」	2007年3月		
“Poster Session Award”	2010年	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010	
「ポスター賞」	2011年12月22日	平成23年度ものづくり技術交流会	石垣秀記、佐藤敏夫
“Poster Session Award”	2012年11月10日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
American Society for Artificial Internal Organs 58th annual conference	2012年6月14日～6月16日	San Francisco(米国)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2014年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 助教



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程
 学位：工学修士
 学位論文：透析回路内における血液凝固発生の抑圧を目的としたPIVによるドリップチャンバ内の流れの可視化と最適形状の提案
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ダブルルーメンカテーテル設計に向けたCAE(Computer Aided Engineering)手法導入の有用性」	共著	2013年3月1日	医工学治療 Vol.25 no.1	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	30-38頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Investigation of the Use of PIV To Visualize Flow within Different Types of Venous Air Trap Chamber”	2012年6月14日(～16日)	American Society for Artificial Internal Organs 58th Annual Conference SAN FRANCISCO	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi		
「PIVを用いた静脈側チャンバろ過網部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	山内忍, 頼住啓一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
第57回(社)日本透析医学会学術集会・総会「透析方法-1/回路」ポスターセッション座長	2012年6月22日(～24日)	第57回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 京王プラザホテル札幌 他	山内忍, 田中佑佳		
「ダブルルーメンカテーテルの脱血・送血孔間距離が再循環に与える影響」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫, 竹中雅登, 大城寿乃, 石垣秀記, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香, 阿岸鉄三		
「ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき現象と脱血流量の関連性に関する基礎検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「自己血管内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による機能的重症度評価の試み」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫, 八馬拓也, 山本智佳, 春原冨香, 本橋由香, 山内忍, 阿岸鉄三		
「冠動脈狭窄モデルを用いた狭窄状態の違いがFFRに与える影響に関する実験的検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原冨香, 扇谷至, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 大塚雅人, 鶴見由起夫, 木原昭		
「血液透析用穿刺針先端の流れの可視化評価」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「血液透析患者のシャント血管の狭窄形態の違いによるシャント音の変化に対する実験的検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 佐々木一真, 山本素希, 頼住啓一, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三		

「擬似血管狭窄モデルに発生する血管振動に関する有限要素解析とLDVによる検証」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香, 鈴木正明, 村上真広, 中根紀章, 山内忍 , 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による血液凝固の早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍 , 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「超音波及び光を用いた血液回路内凝固の非侵襲かつ早期検出方法の検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫, 瀧下真史, 小田嶋彬, 春原冨香, 山内忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三
「透析用血液回路ピロー部の流れの可視化」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍 , 内田早紀, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Ability of particle image velocimetry to visualize within venous air trap chamber filtration nets and blood inflow sites”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Early detection of blood coagulation during hemodialysis using non-invasive monitoring of blood flow sounds”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Nishikawa, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Fluid parameters affecting changes in shunt murmurs arising from differences in degree of stenosis”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental investigations on effectiveness of fractional flow reserve (FFR) using stenosis models”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Masato Otsuka, Yukio Tsurumi
“Particle image velocimetry visualization and analysis of flow at the tip of hemodialysis needles”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「CFDを用いたエンドホール型ダブルルーメンカテーテル(E-DLC)の再循環に関する理論解析」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	丸下洋一, 石垣秀記, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「DLCの脱返血孔間距離と血液粘性がDLCの再循環に与える影響」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	石垣秀記, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析の穿刺針から挿入した圧力ガイドワイヤーによる内シャント狭窄病変の生理学的評価の試み」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	佐藤敏夫, 八馬拓也, 春原冨香, 山内忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三
「狭窄長や屈曲角度の異なる内シャント狭窄病変前後の圧較差測定による生理学的評価の可能性」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	佐藤敏夫, 山本智佳, 春原冨香, 山内忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三
「狭窄率や狭窄長の違いに伴うシャント音の変化に影響を与える流体パラメータの検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	本橋由香, 佐々木一真, 頼住啓一, 中根紀章, 山内忍 , 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「PCPS回路内における血栓形成に対する非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	坂元英雄, 頼住啓一, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫
「血液回路雑音のウェーブレット変換による回路内凝固の早期モニタリング方法の検討」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	西川直也, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側エアトラップチャンバ濾過網部でのフィブリン凝集の可視化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	山内忍 , 頼住啓一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた血液透析用穿刺針先端付近の流れの可視化と各種パラメータの定量化」	2012年11月22日 (～24日)	第50回日本人工臓器学会大会(アクロス福岡)	頼住啓一, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Poster Session Award”	2012年11月10日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIIO 58th annual conference	2012年6月14日～16日	San Francisco(米国)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年：1949(昭和24)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育研究科修了
学位：修士(体育学)
学位論文：横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
専門分野：スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
前職：流通経済大学スポーツ健康科学部教授
学内役職等：大学情報センター長 (2012～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育法	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育法、保健科教育法講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
トップアスリートの競技観から勝利とスポーツマンシップについて考察を深める。第一段階として、トップアスリートによってあらわされた著書をできる限り収集、読破することに努めた。個々の競技者の競技観から、競技力向上に重要な要因を分析中。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ワンダフルスポーツ2012～2014年版」	共編著	2012年4月1日	新学社	波多野芳郎他5名	1-3頁
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
子どもに聞かせたい話「体を鍛える、体で覚える」	2012年12月	『子どもと保健』No81(光文書院)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員
2007年8月～2013年3月	品川区立学校校区外部評価委員長

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study on Macbeth
 専 門 分 野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前 職 : 静岡大学助教授
 学 内 役 職 等 : 生涯学習センター副センター長
 資 格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 受 賞・表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
学習支援センター(インディ・カフェ)の管理運営	2005年4月～2013年3月	学習支援センターのスタッフ指導、補習日程の決定、補習指導など。
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
小学校英語教育:小学校の外国語特別活動の現状を知ると共に、実際の授業をどのように展開していくかの研究を開始。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

河部 裕子 (かわべ ひろこ) 教授



出生年：1947(昭和22)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～
 最終学歴：東京大学理学系大学院修士課程
 学位：理学博士(理学)
 学位論文：On the Conjugation of Local Diffeomorphisms Infinitely Tangent to the Identity
 専門分野：微分位相幾何学
 前職：東京工業大学理学部数学科助手、フーリエ研究所(グルノーブル)客員教授(1985.1～6)
 研究推進部副部長 (～2012)
 留学：M.S.R.I.(カリフォルニア・バークレー・数理科学研究所)(1988.8～9)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
数学Ⅰ・数学Ⅱ(工学系学部)	2005年～	大学入学時において基礎的数学の習得が不十分な学生を対象に、基礎数学の習得を支援する課目を設置。必修科目として、半数の学生が履修している。少人数対応で演習中心の授業を実施。さらに集団での講義についていけない学生のために、特別に講師の個人指導を実施している。
微分方程式(工学系学部)	2005年～2009年 2010年～	工学部の学生を対象に、物理現象・化学現象において考えられる典型的な微分方程式を紹介し、その解法を学ぶことを中心課題とする。到達度別のクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部廃部に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
線形代数学(工学系学部)	2005年～2009年 2010年～	工学部においての必須の科目であるが、講義が半期で終了するため後半の固有値の計算は、希望者だけの特別補習となる。到達度別にクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部廃部に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
代数学概論(工学系学部)	2005年～2012年	工学では必須の”複素数の微分積分学”が中心課題である。Cauchy-Riemannの方程式やCauchyの積分定理までを講義内容とする。工学部廃部に伴い、2012年度で終了。
幾何学(工学系学部)	2005年～2012年	工学の基礎となるベクトルの微分積分学(初等ベクトル解析)を中心課題とする。高校でベクトルの授業を受けていない学生もいるため、講義はベクトルの四則演算から始める。工学部廃部に伴い、2012年度で終了。
算数概論(スポーツ健康政策学部)	2008年～ 2010年～	小学校教員養成のための講義。将来、小学校教員として教壇に立つ学生のための講義で、講義と演習の形式で進めている。半期のため、内容は詰め込み過ぎるくらいはあるが、必要と思われる内容は提示しようと思う。 学芸大付属竹早小学校より、現任教諭2名に算数の授業を依頼。学生に現場の大変さ・興味深さを体験してもらう。
数学概論(スポーツ健康政策学部)	2010年～	数学の基礎に不安のある学生が受講。演習の形式をとるため、それぞれが自分のペースで進められる良さがある。
数学Ⅱ(スポーツ健康政策学部)・数学概論Ⅱ(新カリキュラムの名称)	2011年～	数学概論の続編・数学基礎を演習形式で修得する。
身近な数学	2011年～	データ処理・分析などで必要になる、統計学の基礎を、授業内容とする新設の科目である。

2.作成した教科書、教材、参考書		
数学Ⅰ・Ⅱ教材 数学基礎:ブラッシュアップ(学内版)	2005年 2006年 2007年 2009年 2010年 2010年 2011年 2012年	数学Ⅰ・Ⅱ(基礎数学)の教材として、数学教室で作成。 共著者:河部裕子、土屋信雄、矢作由美 内容の一部を改訂(学生・院生などが協力) 内容の一部を改訂(学生・院生などが協力) 内容の一部を改訂(担当の三浦氏が協力) 内容の一部を改訂(担当の相田氏が協力) 数学概論のテキストとしても使用 内容の一部を改訂(担当の相田氏が協力) 内容の大幅に改定(担当の相田氏・植田氏が協力)
4.その他教育活動上特記すべき事項		
学生会文化部所属A.V.C.部(Audio Visual Computer部)顧問	2005年～	

Ⅱ 研究活動

○2012年度の研究活動概略
近年継続中のharmonic maps の部分空間の存在を考えている。部分空間に分かれることは、2012.9.12に the Canadian Journal of Mathematicsに掲載が決定した論文の主題である。現在は、その部分空間がどのような条件で存在するかを考察している。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本数学会、日本数学教育学会

園山和夫 (そのやま かずお) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：島根大学教育学部教育専攻科教育学専攻修了
 学位：学士(教育学)
 専門分野：保健体育科教育学、健康教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部長(2012～)
 受賞・表彰：日本スポーツ教育学会功労賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
多様な方法を用いた授業の展開	2007年～現在	DVD、パワーポイント等を利用した講義、ブレインストーミングやディスカッションなどを用いた授業などの展開

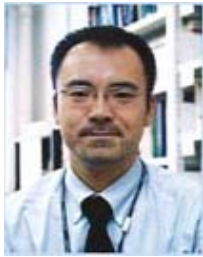
II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
2011年度とほぼ同様であるが、高等学校を含めて新しい学習指導要領が実施されたため、校種の連携等を踏まえた実践研究の分析等に研究の視点を置いている。教員免許更新講習会の講師を務めるなど、大学と学校現場の学術交流にも取り組んでいる。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「まちづくりの事例からスポーツと地域の結びつきを考える」	2012年11月11日	第52回全国スポーツ推進委員研究協議会(文部科学省)	分科会コーディネーター:園山和夫

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	公益財団法人日本体育協会評議員
2010年4月～現在	公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会専務理事
2008年6月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合専務理事
2008年4月～現在	公益財団法人日本スポーツクラブ協会理事
2008年6月～現在	公益財団法人スポーツ安全協会理事
2008年10月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会評議員
2011年4月～現在	公益財団法人日本体育協会総合企画委員会財務部会委員
2009年4月～現在	体育の日ポスター・標語選定審査委員(文部科学省・日本体育協会)

角 替 弘 規 (つのがえ ひろき) 教授



出 生 年 : 1969(昭和44)年
 在 籍 : 1997(平成9)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : イギリスの大学における学術研究体制に関する研究－教育
 改革以降の財源配分方法を中心に－
 専 門 分 野 : 教育社会学
 資 格 : 高等学校教諭一種免許状(英語)
 中学校教諭一種免許状(英語)
 非 常 勤 講 師 : 金沢大学(2000)、国立音楽大学(2002～2008)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教職課程科目「総合演習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	「総合演習」においては常に教育実践を念頭において、学生たちに自ら考えさせ知的活動をさせることを念頭において授業を展開できるよう配慮している。「総合演習」では学生数名(2～6名)のグループをつくり、環境問題や青少年文化等それぞれの関心に応じてテーマを設定させ、授業形式の発表を行わせることによって教材研究の方法や討議の方法、発表の仕方などを身につけさせるようにしている。テーマ設定においてはワークショップ的な作業を行わせることによって関心とテーマの明確化やテーマに関する資料収集、調査の計画立案を効率的に立てられるよう工夫した。また個別に学生の事前の発表準備などの相談にのり、教材研究の方法に関するアドバイスなどを行っている。
教職課程科目「事前・事後指導」「教育実習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	教職課程科目「事前事後指導」は教育実習に先立って行われる演習形式の授業である。最初の段階では教育実習についての視聴覚教材を視聴させ教育実習の具体的イメージを抱かせ、かつそれに対する心構えを形成させている。続いて、各学生が取得しようとする教員免許の教科に対応した指導案の作成を指導する。また生徒の問題行動への対応、実践的な内容に焦点を絞ったディスカッションを行い実習に備えている。「事後指導」は教育実習後に行われるが、ここでは各学生の教育実習における体験の共有化を目標として、各学生から教育実習の様々な側面からの反省点を互いに議論させ、自らの実習の総括と全体への位置づけを行っている。「教育実習」においてはその一環として、他の担当教員と分担し訪問指導を例年行っている。訪問指導は原則として首都圏の受け入れ校について行っているが、可能な限り全学生を訪問できるように努力している。実習先では学生の研究授業(あるいは通常の授業)の参観を行い、また反省会にも同席するなどして、学生の指導を入念に行うよう心がけている。
大学における授業評価の結果 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価の結果	2005年4月～現在	毎年度半期ごとに行われる学生による授業評価によれば、講義内容や授業の進め方について学生から高い評価を得ている。より具体的には、説明の仕方について、身近な具体例や自分自身の体験談を交えながら説明している点や、より難解な語句や概念の説明について多くの時間を割いていること等である。非常勤講師として勤務していた国立音楽大学における学生による授業評価においても、授業内容や授業方法についてきわめて高い評価を受けていた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義での使用教材	2005年4月～現在	一般教育科目「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」、教職課程科目「教育原理」「教育制度論」の講義を主たる方法とした授業においては、毎回の授業ごとに、講義の流れとポイントを明記したB5およびA4サイズのプリントを作成し、学生に配付している。

4.その他教育活動上特記すべき事項		
関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会理工系教員養成部会における活動	2005年4月～2010年3月	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会の理工系教員養成部会に所属し、理工系教員養成のあり方についての検討および研究に参加している。2006年3月に行われた研究大会において部会の司会を務めた。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2010年度より取得している科学研究費補助金「国際結婚家庭に育つフィリピン系・タイ系ニューカマーの学校適応に関する実証研究」(基盤研究(B)、課題番号22330238、研究代表者:角替弘規)の最終年度に当り、従来どおり神奈川県大和市をはじめとする地域及び学校でフィールドワークを行った。調査研究の成果は日本教育社会学会第64回大会(於:同志社大学)及び桐蔭論叢において発表した他、その他の研究成果をとりまとめた報告書を刊行した。また、学研教育総合研究所の委託により「子どもの理科に対する意識と子育てに関する調査」(小学生白書Web版2012年7月調査)を実施した。調査結果についてはWeb上にて公開されている(http://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/201207/index.html)。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「フィリピン系ニューカマー生徒の学校適応に関する一考察」	単著	2012年6月15日	桐蔭論叢第26号	-	193-202頁
「学年別に見た東日本大震災時の下校の実態」	単著	2013年1月	子どもと教育環境に関する研究会編『「学研小学生白書」報告書2012』	-	82-97頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「フィリピン系ニューカマー家族の教育戦略―母国親族の教育意識と日本における教育戦略―」	2012年10月	日本教育社会学会第64回大会(同志社大学)	-		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
国際結婚家庭に育つフィリピン系・タイ系ニューカマーの学校適応に関する実証研究(研究代表者)	2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金(基盤研究(B))(課題番号22330238、研究代表者:角替弘規)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本比較教育学会、日本教育制度学会、筑波大学教育学会、日英教育学会、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～現在	NPO法人日本ペルー共生協会(AJAPE)会員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大和市立引地台中学校放課後教室支援員(学校ボランティア)	2011年4月～	大和市立引地台中学校
外国人児童生徒に対する学習支援ボランティア	2012年5月～	NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：学務部副部長 (2012～)
 留学：オーストラリア教育研究所(オーストラリア) (1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：東京理科大学大学院科学教育研究科
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞 (1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ることで、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書; 文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)学習教材の改訂:大気汚染対策教材のワークシート4(WS4)について実践・改訂作業を実施した。目的であるグリーンケミストリーの考え方を活用し、理由を示した記述を多く見ることができた。ただし、説明を付し説得力を持たせる点で改善の余地があった。(2)科学的態度の育成:レポートでの考察に化学知を活用する方法を用意するため、モデル化学学習の検討を進めた。炎色反応による元素の同定を題材とし、実践・改訂を行い、8月にはフィリピン師範大学の学生に対して実践した。(3)国際協働研究:大気汚染対策教材にWS4を付加し、アジア4か国で実践した。結果をフィリピンで開催した第3回国際ワークショップにおいて報告するとともに、フィリピンでの教育状況を視察し、学習方法に関する共通理解を深めた。(4)センサを用いた実験等に関する実践:空気電池式酸素センサ等を4道県の教育センターに貸し出し、活用事例の研究と研修講座や小・中・高等学校及び特別支援学校で実践してもらった。その結果、実験結果の考察など、思考力・表現力の育成につながる事が期待された。</p> <p>そのほか、気仙沼市立面瀬中学校と連携して、持続発展教育ESDにおける「文化としてのスポーツ」の実践研究についての協議を進めた。また、中・高等学校が新教育課程に移行したことにより、新しい理科の教科書と旧教科書との比較研究を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「今こそ理科の学力を問う」	共著	2012年8月11日	東洋館出版社	日本理科教育学会編	26-32頁
(学術論文)					
“How to Write Experiment Reports – Use of Report Writing Templates for Beginners –”	共著	2012年6月15日	Research Bulletin No.26	MATSUBARA Shizuo, GOTO Kenichi, NOUCHI Yorikazu and TERATANI Shousuke	pp.141-148
「新教育課程についての校種を越えた意見の交換」	単著	2012年7月20日	化学と教育、60巻7号	—	284-285頁
“Co-research into Development of Sustainable Teaching Materials”	共著	2012年12月15日	Research Bulletin No.27	MATSUBARA Shizuo, MATSUBARA Kenji, GOTO Kenichi and TERATANI Shousuke	pp.43-50
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「CSERS小学校理科教科書ワーキンググループからの報告」	2012年5月19日	教科「理科」関連学会協議会第17回シンポジウム(公益社団法人日本化学会化学会館)	松原静郎、岩間淳子、久木田健太、多田敏明、塚越健一、傳幸朝香、堀井孝彦、目黒大樹		
「化学教材・教育法」座長	2012年8月11日	日本理科教育学会第62回全国大会(鹿児島大学郡元キャンパス)	—		
小学校理科における自然体験・観察を通じた生命理解-「身近な自然の観察」「昆虫」を例に-	2012年8月11日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第10号、203頁、第62回全国大会(鹿児島大学)	岩間淳子、松原静郎、小林辰至		
「GSCの活用を含めた大気汚染対策教材の実践」	2012年8月11日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第10号、311頁、第62回全国大会(鹿児島大学)	北野賢一、松原静郎、後藤頭一、寺谷徹介		
「大気汚染対策教材の英語版での実践」	2012年8月12日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第10号、408頁、第62回全国大会(鹿児島大学)	野内頼一、後藤頭一、寺谷徹介、松原静郎		
「大気汚染対策教材でGSCを活用するワークシートの開発・改訂」	2012年8月12日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第10号、409頁、第62回全国大会(鹿児島大学)	松原静郎、野内頼一、竹山哲司、寺谷徹介		
“Revision of WS4 in Air Pollution Material Unit”	2012年8月25日	Third International Workshop on Educational Co-research of Sustainability (Quezon City, Philippines)	MATSUBARA Shizuo		
小学校理科における生物教材の分析-「人の体のつくりと運動」を例に-	2012年8月28日	日本科学教育学会年会論文集第36号、426-427頁、日本科学教育学会第36回年会(東京理科大学)	岩間淳子、松原静郎		
「USBデータロガーを使った酸素センサのマルチ計測-ロウソクの燃焼実験-」	2012年8月29日	日本科学教育学会年会論文集第36号、482-483頁、日本科学教育学会第36回年会(東京理科大学)	高橋三男、中村駿、菌部幸枝、佐藤道幸、飯田寛志、石黒光弘、近藤浩文、後藤頭一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷徹介、松原静郎		
「理科教育のための空気電池を利用した酸素センサキットの開発(2)-オクラの呼吸の実験-」	2012年12月2日	日本理科教育学会第51回関東支部大会(東京学芸大学)、研究発表要旨集、A14	高橋三男、菌部幸枝、佐藤道幸、飯田寛志、大平和之、石黒光弘、近藤浩文、後藤頭一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷徹介、松原静郎		
「初等中等教育のための酸素センサの開発とその教材開発-キノコの呼吸-」	2013年3月23日	日本化学会第93春季年会(立命館大学)	高橋三男、菌部幸枝、佐藤道幸、飯田寛志、大平和之、石黒光弘、近藤浩文、後藤頭一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷徹介、松原静郎		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「科学の有用性を意識させ科学的な態度を育成する持続発展教材の国際協働研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号23300292) 研究代表者
「化学実験レポート作成における「相互評価表」を活用した表現力育成に関する実証的研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号23501087) 研究分担者
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Third International Workshop of Science Education for Sustainable Development, Educational Co-research of Sustainabilityでの発表	2012年8月22日～26日	University of the Philipines, The National Institute for Science and Mathematics Education Development (フィリピン)ほか
(その他特記事項)		
日本化学会第93春季年会 第20回化学教育フォーラム「国際バカロレアと理科教育」企画小委員長 2013年3月		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、教科「理科」関連学会協議会委員		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2011年3月～2013年2月	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会委員長	
2013年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会 委員	
2011年3月～2013年2月	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会委員	
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員	
2012年7月～現在	日本科学教育学会 評議員	
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員	
2007年4月～現在	教科「理科」関連学会協議会 委員(日本理科教育学会代表)	
2013年7月～現在	教科「理科」関連学会協議会 議長	
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員	
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大学入試センター試験 問題作成	2010年4月～2012年3月	大学入試センター試験 問題作成委員

松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2012～)
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
改訂された学習指導要領で新たに小学校低学年で「体づくり運動」領域が設定された。これで小学校1年生から高校3年生までの全ての学齢で毎年からだづくり運動が指導されることになったわけである。その内容や指導方法についての取り組みが評価され、文部科学省が作成したデジタル教材(DVD)の体づくり運動を担当し、撮影する内容、授業をお願いする学校(2校)の選定、撮影シナリオ、撮影後の映像編集を行った。その成果は、今年になって全国の小学校に配布された。また、各県の代表を集め、各運動領域の指導について講習を行う会が文科省主催で実施されたが、その講師として「体づくり運動」を担当した。また、成果の上がる指導法についての研究成果を、日本体育科教育学会のシンポジストとして発表することができたとともに、各県・市の研究会で講師として実技指導や講演等を通して指導する機会を持つことができた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「小学校の器械運動(マット運動)の授業づくりにおける「指導と評価」の計画と具体」	単著	2013年3月25日	体育科教育学研究第29巻1号	-	6頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
日本体育科教育学会・シンポジスト	2012年6月27日	日本体育科教育学会第17回大会(広島大学)			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「体力向上指導者養成研修会」小学校「体づくり運動」講師	2012年5月23日～25日	教員研修センター主催・文部科学省後援	東日本地区(東京都)		
岩手県教育委員会主催「体力向上をめざした体づくり運動の授業づくり」での講演・実技講習	2012年6月25日～27日、7月30日	岩手県の小学校教員を対象にした、体づくり運動の授業を中核とした体力づくりに関する講演と実技指導。(宮古地区・盛岡地区・一関地区・釜石地区)			

和歌山県教育委員会主催 「保健体育授業改善夏季講習会」講師	2012年8月23日	小学校～高校の保健体育科の先生方に、主に「体づくり運動」についての講演を行った。	
第62次秋季教育研究山梨県集会・共同研究	2012年10月27日・28日	山梨県教育研究集会	2日にわたって14本の実践発表を伺い逐一コメントをする。また、優秀発表3本を選出した。
「健康・体力づくり研究協議会」講師	2012年10月30日	南足柄教育事務所主催	主に、体育授業での体力向上について講演を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2009年4月～現在	研筑波学校体育研究会会長	
2007年4月～現在	体育授業研究会理事長	
2012年4月～現在	日本スポーツ教育学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
宮崎小学校での体づくり運動の指導 1年生6学級・2年生6学級(計12時間)	2012年9月24日～10月26日	川崎市教育委員会
王禅寺中央小学校での跳び箱運動の指導 3年生3学級・4年生2学級 各2時間(計10時間)	2012年1月21日～2013年2月10日	川崎市教育委員会

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
 学内役職等：学務部副部長(2012～)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学、静岡大学人文学部
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
東京学芸大学「学生による授業アンケート」	2000年4月～現在	東京学芸大学FD委員会が、毎年前期・後期各期に学生を対象として行う授業評価アンケート。結果は教員に還元され、授業改善のために使用される。大学により指定された「授業の分かりやすさ」「シラバスとの整合性」「宿題等の指示の確かさ」など、約15項目の授業に関するアンケートである。毎年、すべての項目が5段階評価の3以上であるとともに、平均点以上の結果であった。
桐蔭横浜大学授業アンケート	2009年4月～現在	2008年度集中講義「社会科概論」における授業評価を踏まえ、学生の基礎学力、理解能力等を考慮した具体的な教材等を活用した授業を実施している。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「改訂版政治・経済」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「政治・経済」大項目(3)の課題追究学習の部分を担当し、政治と経済の理論的な学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月より～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版新現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。

「改訂版新政治・経済」(第一学習社)	2008年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。 平成16年4月～平成20年3月の改訂版である。
日本公民教育学会編「テキストブック中学校・高等学校公民教育」第一学習社	2004年3月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、テキストブックの企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。 東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法Ⅰ」「中等社会科・公民科教育法Ⅱ」、静岡大学「社会科教育法Ⅳ」において教科書として使用している。
日本公民教育学会編「公民教育事典」第一学習社	2009年6月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、事典の企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。 東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法Ⅰ」「中等社会科・公民科教育法Ⅱ」、静岡大学「社会科教育法Ⅳ」において教科書として使用している。
「小学生の社会」(日本文教出版)	2011年4月～	
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「授業力」向上と校内研修	2012年7月30日	岡山県総合教育センター 15年経験者研修講座(小中高特)授業改善推進リーダー力量向上研修
NIE初級講座	2012年8月10日	神奈川県立総合教育センター 自己研鑽講座(NIE全国センター)
「授業力」向上と校内研修	2012年8月16日	岡山県総合教育センター 15年経験者研修講座(小中高特)授業改善推進リーダー力量向上研修
「新しい学習指導要領で中学校社会科はどう変わったか」	2012年10月9日	東京都公民科・社会科教育研究会(東京都立足立工業高等学校)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
研究代表者として、以下の研究を行った。 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「主権者教育充実のための基礎的研究」 科学研究費補助金基盤研究B「指導法と教科内容を統合した養成・研修一貫プログラムによる社会科授業力育成研究」 財団法人教科書研究センター教科書等調査研究委託事業「社会科教科書改善のための調査研究」 研究分担者として、以下の研究に参加した。 科学研究費補助金基盤研究B「社会系教科における発達段階をふまえた小中高一貫有権者教育プログラムの開発研究」					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『新版社会科教育事典』 「社会化」 「ユネスコ共同学校計画」	共著	2012年6月	ぎょうせい	日本社会科教育学会	180-181頁 305頁
新たなステージ「主権者教育」へ		2012年6月	『月刊教職研修』 2012年6月号		111-115頁
学習指導要領とNIE		2012年6月	『Voters』No.8		4-5頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所		共同発表者名	
シンポジウム「NIEの新たな展開に向けて」 コーディネーター	2011年11月26日	日本NIE学会第8回研究大会 (鳴門教育大学)		-	

自由研究発表「免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラムの開発(1)－講習受講前の自己診断チェックシート－」	2012年10月21日	全国社会科教育学会第61回研究大会(岐阜大学)	渡部竜也他
自由研究発表「免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラムの開発(2)－博物館等を活用した授業設計のためのプログラム－」	2012年10月21日	全国社会科教育学会第61回研究大会(岐阜大学)	小山茂喜他
自由研究発表「小学生の税金についての認識の現状と潜在的認識能力に関する実証的研究(1)－有権者教育プログラム開発のための基礎調査として－」	2013年6月22日	第24回 日本公民教育学会全国研究大会(岡山大学)	渡部竜也他
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
主権者教育の現状と明推協の役割	2012年10月30日	横浜市明るい選挙推進リーダー研修会	ウイリング横浜
みんなの選挙	2013年2月26日	緑区せんきょフォーラム in 鴨居中学校	横浜市立鴨居中学校
社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を目指して	2013年2月27日	青葉区明るい選挙推進協議会研修会	横浜市青葉区役所
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
指導法と教科内容を統合した養成・研修一貫プログラムによる社会科授業力育成研究	2012年4月～2016年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究代表者	
主権者教育充実のための基礎的研究	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 研究代表者	
市民性諸教科における教科書及び指導・評価の一体化に関する国際比較研究	2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究分担者	
社会系教科における発達段階をふまえた小中高一貫有権者教育プログラムの開発研究	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究分担者	
社会科教科書改善のための調査研究－教科書と現実の社会を近づけるために－	2011年4月～2014年3月	財団法人教科書研究センター 平成23～25年度教科書等調査研究委託事業	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
毎年数回主に調査のために外国出張			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本国際理解教育学会、日本生活科総合的学習教育学会、日本NIE学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問
2005年3月～現在	日本NIE学会理事・常任理事
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事
2005年11月～現在	中等社会科教育学会副会長
2012年4月～現在	日本公民教育学会副会長
2012年4月～現在	日本NIE学会企画委員長

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
品川区教育研究会社会科部会年間講師	2011年4月～2016年3月	品川区教育委員会
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究(その2)」社会科部会部会長	2013～2017年度	公益財団法人教科書研究センター

相 良 憲 昭 (さがら のりあき) 特任教授



出 生 年 : 1943(昭和18)年
在 籍 : 2009(平成21)年4月～
最 終 学 歴 : 東京大学文学部仏語仏文学科卒業
学 位 : 文学士
専 門 分 野 : 国際理解教育、文化論
前 職 : 京都ノートルダム女子大学学長
留 学 : フランス国パリ大学文学部(1967.9～1968.6)
資 格 : 国家公務員試験上級職(行政職)合格
非 常 勤 講 師 : 京都ノートルダム女子大学大学院人間文化研究科

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本国際理解教育学会、日本比較教育学会、日本フランス教育学会、世界法学会、日本平和学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年10月～現在	(財)国際連合大学協力会評議員
2005年4月～現在	(財)日本高等教育評価機構評価員
2011年5月～現在	(NPO)目黒ユネスコ協会会長

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、スポーツ方法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年10月～現在	公認バスケットボール上級コーチ
2009年4月～2012年	関東大学女子バスケットボール連盟理事

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～)
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭2種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを体験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもったうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2011年度前期平均値3.84、2012年度後期3.80であった。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
これまで行ってきた教科指導法(音楽)のカリキュラムデザインをもとに夏期に行われる学会にて口頭発表を行い、学生にとってアウトリーチ活動と模擬授業がもつそれぞれの学びの特徴を明らかにした。音楽実習(ピアノ)についてはこれまでの取り組み(レベル別編曲、個人・ペア・グループによる演奏形態)から大人の初心者にとって効果的な学習方法をまとめ、紀要論文として桐蔭論叢に発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「初等教員養成における音楽科教育法のカリキュラムデザイン(3) - 体育系学生がアウトリーチ活動と模擬授業から音楽の授業構想を学ぶことができるか -」	単著	2013年3月	日本学校音楽教育実践学会紀要 2013vol. 17	-	296-297頁
「小学校教員養成におけるピアノ指導について - 初心者にとって効果的な指導内容と演奏形態 -」	単著	2013年3月	桐蔭論叢第28号	-	51-61頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)初等教員養成における音楽科教育法のカリキュラムデザイン(3) - 体育系学生がアウトリーチ活動と模擬授業から音楽の授業構想を学ぶことができるか -	2012年8月18日	第17回日本学校音楽教育実践学会 (鳴門教育大学/徳島)	-		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
東京学芸大学附属幼稚園・小学校校内研究会講師「いかんにしてGRを共有するか」	2013年2月27日	東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校	東京学芸大学附属竹早小学校

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立鉄小学校において卒業式音楽伴奏	2013年3月18日	横浜市立鉄小学校

徳田英次（とくだ ひでじ）准教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位：修士(心理学)
学位論文：覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響－主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野：臨床心理学
前職：東京成徳大学文学部講師

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

宮津 大蔵 (みやづ だいぞう) 准教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学教育学部卒業
 学位：教育学士
 専門分野：国語科教育学
 前職：東京都新宿区立余丁町小学校教諭
 非常勤講師：東京家政学院大学現代生活学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
講演「表現力の育成について」神奈川県座間市 東原小学校講演「正しい日本語の使い方」富山県 立山町教育委員会、国立立山自然少年の家	2012/8/23、 2012/8/12	
神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業 座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師		

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
「表現力の育成」(神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師)、「単元を貫く言語活動の開発」(東京都東村山市教育研究会講師他)、「読書力の育成」(東京都世田谷区立玉川小学校校内研究会年間講師)			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
平成24年度、25年度神奈川県座間市教育 委員会研究課題校座間市立東原小学校研究 会講師	2012年4月～ 2014年3月	座間市教育委員会	座間市立東原小学校

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、表象文化論学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東京都世田谷区教育委員会研究課題校世田 谷区立玉川小学校校内研究会年間講師	2012年4月～2013年3月	世田谷区教育委員会、世田谷区立玉川小学校

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師

出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年の日本における体育的身体論を射程として-(教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年度は、学術論文を2編作成し、学会発表を2回実施した。 【学術論文1】 欧米および日本における「Gボール」の研究動向(『桐蔭論叢』第27号) 欧米および日本におけるGボールの先行研究のレビューをおこない、その成果と今後の課題について明らかにした。これをもとに、2013年度以降、気仙沼市立面瀬中学校で実践中の持続発展教育に生かしていく予定である 【学術論文2】 「競争する身体」・「表現する身体」-演劇にみる身体教育の芸術的方面の可能性-(『桐蔭論叢』第28号) 現代の学校体育が「競争」に傾斜している現状を批判的に検討し、「表現」の観点から身体教育の可能性を探るため、演劇を題材として検討した 【学会発表1】 教員養成段階における模擬授業(体育)の成果と課題(神奈川県体育学会第16回大会) 教員養成段階における模擬授業(体育)について、先行研究のレビューをおこない成果を明らかにするとともに、その「模擬」性に限界があることを指摘し、今後の方向性として「大学病院モデル」を提唱した。本モデルについては、2013年度以降において、みずからが主宰している体操教室のなかで検証していく予定である 【学会発表2】 篠原助市における心身一元論を基盤とした体育理念の検討(日本スポーツ教育学会第32回大会) 昭和第二期における心身一元論を基盤とした体育理念の理論的支柱となる篠原助市の体育理念について、篠原教育学の二大理念である「自然の理性化」論ならびに「個性の歴史家」論との関連性から検討を加えた。本テーマについては、2013年度以降、同時期の体育研究者(大石峯雄、羽田隆雄ら)の体育理念の検討をしていくことで、研究を深めていく予定である					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「欧米および日本における「Gボール」の研究動向」	単著	2012年9月29日	桐蔭論叢第27号	-	21-26頁
「競争する身体」・「表現する身体」-演劇にみる身体教育の芸術的方面の可能性-	単著	2013年3月15日	桐蔭論叢第28号	-	7-15頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
教員養成段階における模擬授業(体育)の成果と課題	2012年10月21日	神奈川県体育学会第16回大会(関東学院大学関内メディアセンター/神奈川県横浜市)	-		
篠原助市における心身一元論を基盤とした体育理念の検討	2012年11月10日	日本スポーツ教育学会第32回大会(中京大学/愛知県名古屋)	-		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川県体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称:体操教室

箱崎 (李) 禧承 (はこざき(い) ひすん) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野：教育工学、教育方法学、教育学
 前職：筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 留学：筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格：中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師：釧路公立大学経済学部

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

デジタル教科書の全ての学校への導入が決定され、教育界で大いに注目を集めているが、どのような教科や授業場面においてより適するののかに関する学会レベルでの議論はそれほど見当たらない(主に、日本教材学会、日本教育メディア学会、日本教育工学会を調べた)。このような研究現状に対し、本人は博士論文から追究している教科特性と関連したメディア教材の利活用の先行研究を再考し、デジタル教科書の利活用の議論においても教科特性からの検討は不可欠であることを確認することができた。そこで、来年度には、社会科に特定した領域特殊性を整理し、社会科の学習指導におけるデジタル教科書の利活用に関する学会発表及び論文投稿の計画を立てた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本教育メディア学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会

(主な活動内容)

活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
教科書・教材のデジタル化に関する調査研究委員会委員としての韓国調査	2010年7月～現在	(財)教科書研究センター

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 資格：講道館柔道五段
 非常勤講師：國學院大學

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
2012年11月より全日本柔道男子ナショナルチームのコーチに選ばれたことから国際大会もしくは国際合宿への同行が増え、昨年度と同様諸外国の柔道の実態調査を行っている。また全日本のトップ選手の体力調査および意識調査も現在継続して実施している。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
アフリカ二か国柔道レクチャー・デモンストラーション	2012年9月1日～12日	国際交流基金	モザンビーク共和国 ボツワナ共和国
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
アフリカ二か国柔道レクチャー・デモンストラーション	2012年9月1日～12日	モザンビーク共和国 ボツワナ共和国	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
第37回全国教員柔道大会	2012年8月	講道館	優勝(神奈川県) ※本人出場

福井 元 (ふくい げん) 専任講師



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響
 －野球の技術史に関する研究の一環として－
 専門分野：スポーツ史
 前職：国士舘大学大学院 助手
 学内役職等：学務部副部長 (2012～)
 資格：中学校教諭 専修免許状(保健体育)
 高等学校教諭 専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：流通経済大学スポーツ健康科学部、日本体育大学体育学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
パワーポイント及びVTRを使用したスポーツ実技授業	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技(ソフトボール・野球等)において、実技授業での目標と獲得すべき技能についてパワーポイントで毎時学習を行い、実技の授業を展開し、学生の実際の動きをVTRに記録・放映し学習を促進してきた。
レポートによる実技学習内容の定着工夫	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技において、毎時、実技授業で学習した内容をレポートさせ、提出させ、学習内容を定着させるための工夫を行っている。
自然活動論実習	2008年7月～現在	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の学外実習(夏冬の登山指導)を担当・指導。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
2011年度に引き続き、「戦後日本における野球の技術史に関する研究－施設・用具史の視点から－」というタイトルの論文執筆に関わる資料収集及び、執筆作業を行っているが、その論文の一部を著書『スポーツ実践を読み解く』(2013年度中出版予定)の中の「高校野球における野球留学と特待生問題－甲子園大会の歴史からみえるもの－」に掲載予定である。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 2009(平成21)年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 専門分野 : アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職 : 日立横浜病院
 学内役職等 : スポーツテクノロジー学科長 (2012～)
 資格 : 日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師 : 東京有明医療大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
ロンドンオリンピックへ出場した水泳日本代表であるトップアスリートの障害・外傷調査、障害・外傷予防のための実践的コンディショニングについて調査・研究を行った。研究成果は関連団体、学会等での報告・発表と関連書籍への投稿である。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(シンポジスト) ロンドン五輪を終えて	2012年11月	2012年日本水泳トレーナー会議 秋季研修会(国立スポーツ医科学センター)	-
(シンポジスト)ロンドン夏季オリンピックー水泳競技ー	2013年1月	日本理学療法科学学会(国際医療福祉大学)	-
水泳トレーナーの基礎知識	2013年2月	2013年日本水泳トレーナー会議 基礎講習会(東京スポーツレクリエーション専門学校)	-
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
競技力向上コース事業	2010年4月～	神奈川県立体育センター	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
メディカルスタッフとして日本代表帯同	2012年4月17日～27日	ドイツ、イギリス ロンドン五輪予選(シンクロ)	
メディカルスタッフとして日本代表帯同	2012年8月17日～28日	ロンドンオリンピック(シンクロ)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎 賢三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

II 研究活動

○その他 (雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa

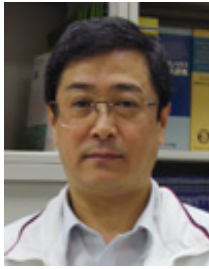
III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員	
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員	
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員	
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員	
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員	
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員	
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)	
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員	
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
第4回世界大学野球選手権大会日本代表チームドクター	2007年7月		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(7) 第34回ワールドカップ野球日本代表チームドクター	2009年		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		
第5回世界大学野球選手権大会組織委員会医事委員	2010年8月		

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学位：体育学修士(日本体育大学)、医学博士(順天堂大学)
 学位論文：Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専門分野：環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前職：日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学内役職等：学務部長 (2012～)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大気汚染と運動」	単著	2012年4月	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要16号	-	147-150頁
「日常生活における熱中症予防指針」Ver.2:日本生気象学会	共著	2012年4月	日本生気象学雑誌49巻	熱中症予防研究委員会(星 秋夫他14名)	104-118頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)大学生の熱中症に関する実態～重症度からの検討～	2012年9月15日	第67回日本体力医学会大会	坂手誠治、澤井睦美、南 和広、寄本 明、星 秋夫		
(口頭発表)ラットにおける暑熱曝露時の深部体温上昇にともなう組織熱ショックタンパク質発現および血中逸脱酵素の変化	2012年11月9日	第51回日本生気象学会	檜村修生、石橋祐理子、鈴木英悟、星 秋夫		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
暑さとスポーツ	2012年6月19日	日本スポーツ気象アドバイザー協会	財団法人日本健康スポーツ連盟セミナー会場		
気象変化と水分代謝の実践体験	2012年8月7日	日本スポーツ気象アドバイザー協会	財団法人日本健康スポーツ連盟セミナー会場		
気象変化と生体機能の実践体験	2012年9月11日	日本スポーツ気象アドバイザー協会	財団法人日本健康スポーツ連盟セミナー会場		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本学術振興会基盤研究(C)	2011年4月～2014年3月	日本学術振興会科学研究費補助金			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
暮らし欄「熱中症防ごう」	2012年6月13日	日本農業新聞			
こまめに補給しよう水分	2012年7月5日	保健教材ニュース			

熱中症を予防する	2012年7月5日	保健教材ニュース
夜間の熱中症	2012年7月15日	健生ニュース
猛暑で死なない7か条	2012年8月5日	サンデー毎日
熱中症を防ごう	2012年8月20日	毎日小学生新聞
(その他特記事項)		
2012年. 熱中症予防対策の解説(6/5、朝日テレビ モーニングバード、6/18、TBS Nスタ) 東京農業大学博士論文学外審査委員		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～現在	日本生気象学会編集委員長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2012年4月～現在	日本スポーツ気象アドバイザー協会理事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会理事

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : 入試・広報副センター長(2013～)
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
当該年度は運動方法学、スポーツ心理学を中心に研究活動を行った。 特にスポーツ心理学においては、数多くの世界トップクラススポーツ選手たち(柔道選手メダリスト)のジュニア時代から蓄積してきたUK心理データを纏め、原著論文として学会審査に申請した。過去40年以上に亘って日本のトップ選手たちのUK心理データを所蔵する競技団体は全日本柔道以外にはなく、更には数多くの五輪・世界大会等の金メダリストが含まれる貴重なデータであり、世界的にも希少な研究であると自負している。今後は、本論文を国際学会に発表するべく準備を進めるつもりである。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「競技適応の心理 ～柔道Jr.強化選手の心理的特徴と戦績との関係～」	共著	2013年3月	講道館柔道科学研究紀要 第14輯	吉鷹幸春、内村直也、横山喬之、船越正康	169-180頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員(Aライセンス)	2003年～現在	全日本柔道連盟
講道館・全日本柔道連盟 柔道ルネッサンス委員	2003年4月～現在	全日本柔道連盟
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟
全日本柔道連盟広報委員	2011年4月1日～現在	全日本柔道連盟

竹内正顯 (たけうち まさあき) 特任教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院修士課程
 学位：工学博士
 学位論文：有風時の着衣の伝熱に関する基礎研究
 専門分野：熱工学
 前職：東海大学工学部助教授

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
「熱と流れ」の各現象を端的に示すデモ装置の整備	2005年～現在	以下の現象を視覚的、体感的に感じられる装置を整えて講義を実施した・1)水位と流出量 2)流量と粘性抵抗 3)水位と負圧 4)流路面積と圧力 5)パスカル原現6)ニュートン冷却則 7)気体の圧縮、膨張の温度変化 8)真空化と製氷
2.作成した教科書、教材、参考書		
「機械計測」に表れるセンサーの整備	2005年～現在	以下のセンサーによる電気出力を確認できるように回路化し揃えた。1)熱電対 2)サーミスタ 3)白金測温体 4)ひずみゲージ 5)ポテンシオメータ6)ロータリーエンコーダ 7)フォトインタラプタ 8)磁気ピックアップ 9)焦電素子

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「無線通信による熱中症予防支援システム構築と被服環境デザインの最適化」	2011年～2014年	科学研究費補助金(分担者)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本機械学会、日本熱物性学会、繊維学会、日本伝熱学会、日本フルードパワーシステム学会、日本家政学会

箱 木 北 斗 (はこぎ ほくと) 特任教授



出 生 年 : 1949(昭和24)年
在 籍 : 1990(平成2)年4月～
最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院制御システム工学専攻博士後期課程
修了
学 位 : 工学博士
学 位 論 文 : 関節拘縮治療支援装置の開発及びその評価に関する研究
専 門 分 野 : 制御工学、ロボット工学
前 職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コンピュータと計測デモンストレーション教材実験装置の開発	2010年4月～現在	慣性センサやサーモグラフィを実演するための組み込みマイコンボードや実験装置の開発を行った。
義肢装具論デモンストレーション教材実験装置の開発	2010年4月～現在	歩行動作解析用骨格リンクモデルの制作した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学基礎実験Ⅰ(2年)マイコン基礎実験テキスト	2008年4月～現在	マイコンボードの組み立て、加速度センサ、ステッピングモータ、RCサーボ実験のテキスト作成36頁
工学基礎実験Ⅱ(2年)マイコンシーケンス制御実験テキスト	2008年9月～現在	時間制御、コンベア制御、センサ制御、コインホッパーなどのシーケンス制御用実験テキストを作成した。41頁

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
これまでに開発した、多目的超小型マイコンボードをもとに、慣性センサを人体に装着出来るようなアダプターを開発し、スポーツ競技における身体測定を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
計測自動制御学会、日本ロボット学会、バイオメカニズム学会、電気学会、ライフサポート学会、日本スポーツ健康科学学会

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
コロナ音波形解析による健康管理指標値の研究			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「コロナ音解析による健康指標値に関する検討、-腕モデルを用いた波形計測-」	2012年5月11日	第51回日本生体医工学会 福岡国際会議場	杉本恒美, 小山賢太郎, 片山富美代
「コロナ音解析による健康指標値に関する検討、-腕モデルを用いた波形計測-」	2012年5月11日	日本メディア英語学会第101回新語・語法研究分科会(中央区明石町区民館)	杉本恒美, 小山賢太郎, 片山富美代
「勤労女性の心理的ストレス反応に個と他者に対する自己観およびソーシャルスキルが及ぼす影響」	2012年7月15日	日本ヒューマン・ケア心理学会 第14回大会	片山富美代, 柴田恵子
「女性勤労者の属性による精神的健康の様相」	2012年7月15日	日本ヒューマン・ケア心理学会 第14回大会	柴田恵子, 片山富美代, 石川利江, 森和代
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
心理学から健康へのアプローチ ～ストレスにつよくなる“こころ”の持ち方～	2013年1月17日	横浜市立学校保健会青葉支部大会 講演会	青葉区公会堂
○その他			
(その他特記事項)			
用語解説 1. 知能と情報, Vol.24.No.3,p.111. 日本知能情報フレンジ学会誌「健康心理学」についての用語解説(2012年6月)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本看護研究学会、日本カウンセリング学会、日本健康心理学会、日本教育工学会、日本ヒューマン・ケア心理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2007年12月～2012年4月	日本健康心理学会広報・ニューズレター編集委員
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 1991(平成3)年4月～
 最終学歴 : 東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位 : 学術博士
 学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等 : 学生部副部長 (2012～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
サービス・ラーニング実習受け入れ先の紹介ビデオ映像の制作	2011年9月～ (継続中)	「大学生の就業力育成支援事業(文部科学省助成金)」の柱であるサービス・ラーニング実習の受け入れ先、紹介ビデオ映像の制作を行った。学生および青葉区民メディアリポーターチームの協力を受けた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
電子情報通信学会、人工知能学会、日本フジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「青葉区コラボレーションフォーラム」においてのUSTREAM Live中継を担当した	2012年2月18日	青葉区民メディアリポーターチーム

澤井 睦美 (さわい むつみ) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科
学位：体育学修士
学位論文：静的筋労作の影響と回復に関する研究
—血行動態の観察から—
専門分野：体操(からだづくり・動きづくり)、身体教育、健康科学
前職：流通経済大学社会学部非常勤講師
淑徳大学国際コミュニケーション学部非常勤講師
学内役職等：学生部副部長(2012)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

1. 「体操」の定義に関する調査研究(継続)・・・結果入力・集計・分析方法の検討と着手。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

人類働態学会、日本生気象学会、日本産業衛生学会、運動疫学研究会

任期、活動期間等

学会・機関・団体等における役職等

2009年～現在

(有)Endose Your Life 健康プログラムアドバイザー

2012年～現在

(株)サロンデイ パーソナルトレーニングプログラムアドバイザーおよびマニュアル監修

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

ハンドボールのオフenseにおける、パターンプレーの効果的な指導方法の検討をおこなった。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会

(主な活動内容)

活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～	愛媛県ハンドボール協会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ハンドボール部監督)2012年秋季リーグ戦 (男子)	2012年10月		関東1部昇格

小山桂史 (こやま けいじ) 専任講師



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
 修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：陸上競技部女子駅伝部門監督
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝
 (2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞
 (2010.9)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
人の基本動作である歩・走・跳における足関節の機能性を、足関節回りの動作や足関節を跨ぐ筋腱複合体の観点から検討してきた。さらにそれらの運動を実施する際に着用するシューズの機能が、それらに及ぼす影響についてもこれまで検証を行ってきた。今年度では、足関節の傷害予防を目的として使用するサポータやテーピングがそれらの運動時の足関節の機能に及ぼす影響を検証した。その結果、足関節にそれらを施すことによって、反動を使用した垂直跳び時の地面反力が低下し、跳躍高も低下することから、サポータやテーピングを使用する際にはそれらのことを考慮して使用する必要があることが示唆された。現在は、足関節の機能を、さらに詳細に検討するために、足関節を関節と足部に分類して、それぞれの役割について足趾把持筋力の観点から検討する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“EFFECTS OF UNSTABLE SHOES ON ENERGY COST DURING TREADMILL WALKING AT VARIOUS SPEEDS”	共著	2012年7月	Journal of Sports Science and Medicine, 11	Keiji Koyama, Hisashi Nait, Hayao Ozaki, Toshio Yanagiya	pp.632-637
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「シューズの相違が競歩のキネマティクスに及ぼす影響」	2012年8月	第63回 日本体育学会大会, ポスター発表	柳谷 登志雄, 上田 勝也, 渡辺 圭佑, 小山 桂史		
「Unstable shoesの着用が種々速度の歩行における酸素摂取量に及ぼす影響」	2012年9月	第26回 日本靴医学会学術集会, 口頭発表	小山 桂史, 内藤 久士		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「一貫した動作で障害を越え体力消費を軽減」	2012年10月13日	陸上競技マガジン			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
運動に関するアドバイザー	2011年4月～現在	西武池袋本店
日本陸上競技選手権大会の測定員 マルチサポートの事業員として参加	2012年6月	国立スポーツ科学センター
全国高等学校総合体育大会の陸上競技測定員	2012年8月	日本陸上競技連盟科学委員会

廣瀬立朗（ひろせ たつろう）専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2009(平成21)年4月～
最終学歴：東京大学大学院
学位：博士(学術)
学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
専門分野：運動生理学、運動生化学
前職：日本体育大学 助教
非常勤講師：上智大学

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

骨格筋肥大時における神経栄養因子の与える影響について。以前の研究からラットに尾部懸垂を施しヒラメ筋を萎縮させた後、ヒラメ筋と脊髄(L5)を摘出した。神経栄養因子であるNGF,BDNF,NT-3とそれらの受容体であるTrkA,TrkB,TrkC,p75のタンパク発現量を検討した。これらのタンパク量は筋萎縮に伴い減少した。これは筋活動量にともない神経栄養因子は発現量を増減させることが示唆された。近年神経栄養因子が心筋細胞を肥大させることが報告されている。骨格筋のサイズにも神経栄養因子が影響を与える可能性が考えられる。これを確かめるため、骨格筋細胞に神経栄養因子を添加し細胞の振る舞いを検討中である。

○その他

(補助金・助成金等)

事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金分担金(23500788)	2011年4月～2013年3月	日本学術振興会

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体力医学会 physiology

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 助手



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール、コーチング
 前職：宮城県石巻市立稲井中学校臨時的教員(保健体育科)
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 財団法人日本体育協会上級コーチ資格
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
「スポーツと暴力」、「バレーボール」に関するテーマを設定し、研究活動に取り組んでいる。「スポーツと暴力」に関する研究では、指導者による暴力問題、教育現場における体罰問題について論考した。「バレーボール」に関する研究では、日本バレーボール界をリードしてきた松平康孝に着目した研究およびグローバルスタンダードでのバレーボール戦術について研究した。 今後もこれらに関連する研究をそれぞれ継続していくものとする。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「運動部活動の指導場面における暴力の生起に関する一考察」	単著	2012年9月29日	桐蔭論叢第27号	-	27-32頁
「運動部活動の指導場面における暴力の生起に関する研究－人間の本性に着目して－」	単著	2013年3月15日	桐蔭論叢第28号	-	119-125頁
「バレーボールのアタック戦術におけるシンクロ攻撃」	単著	2013年3月15日	桐蔭論叢第28号	-	17-22頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
〈一般研究発表〉我が国におけるバレーボールの発展に関する研究－松平康孝の功績に着目して－	2013年2月23日	日本バレーボール学会第18回大会	佐藤重芳、内田和寿		
〈一般研究発表〉THE 1ST HONG KONG, ASIA VOLLEYBALL CLUB TOURNAMENT からみた香港のバレーボール事情－クラブチームの現状と課題－	2013年2月23日	日本バレーボール学会第18回大会	佐藤重芳、内田和寿		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本オリンピックアカデミー

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(バレーボール部部長兼監督) ・2012年度春季関東大学バレーボールリーグ戦男子9部、女子8部 ・2012年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦男子2部、女子1部 ・2012年度東日本バレーボール大学選手権大会女子 ・天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会神奈川県予選会女子 ・2012年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦男子8部、女子7部 ・2012年度神奈川トーナメント(男子)(女子) ・2012年度全日本バレーボール大学選手権大会(男子)(女子)	・2012年4月～5月 ・2012年6月 ・2012年6月 ・2012年7月 ・2012年9月 ・2012年11月 ・2012年12月	・麗澤大学、目白大学他 ・神奈川大学 ・北海道体育館他 ・神奈川県立弥栄高等学校 ・朝鮮大学校、神田外語大学他 ・神奈川大学 ・東京武道館、川崎市体育館他	・男子5勝1敗(1位/8部昇格)、女子4勝1敗(1位/7部昇格) ・男子2勝2敗(3位)、女子3勝2敗(3位) ・トーナメント2回戦敗退 ・トーナメント1回戦敗退 男子6勝(1位/6部昇格)、女子5勝1敗(2位/6部昇格) 男子:4位、女子:準決勝敗退 男子:グループ戦敗退 女子:グループ戦敗退

清水 麗 (しみず うらら) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程国際政治経済学研究科 単位取得満期退学
 学位：修士(地域研究)、修士(学術)、博士(国際政治経済学)
 学位論文：「戦後日中台関係とその政治力学-台湾をめぐる国際関係-」(博士論文)
 専門分野：日台関係、東アジアの国際関係論、地域研究、日中台関係
 前職：国土舘大学21世紀アジア学部教授
 非常勤講師：愛知大学大学院

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年度は、日中国交正常化及び断交後の日台40周年に当たり、これにかかわるシンポジウム、研究会などに参加する一方、戦後の日台関係における台湾側の対日工作についての研究を進めた。台湾が日本に対して、どのように日本の台湾の関心を高め、理解をつくり出していく工作をしていたのか、その過程で蒋介石や李登輝という象徴的存在が作り出され、日本が台湾に親近感をもつようになるよう工作が展開されていたことを明らかにした。また、台湾におけるスポーツとナショナリズムの関わりについても研究を進め、論文発表を行った。科研「20世紀中国の政策決定過程と『世論』」要因の分析」では、主に分析枠組みをめぐる研究会を重ね、資料収集を進め、2013年度も継続して研究活動が続けられている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
日中関係史 1972-2012 社会文化編	共著	2012年9月	東京大学出版会	園田茂人編	201-230頁
(学術論文)					
〔報告論文〕「日治時期與戒嚴令時期的台灣媒體管制之比較」	単著	2012年6月21日	中央研究院「第四回国際漢学会議」	-	
「蔣経国・李登輝時期の日台関係の変容-日華・日台の二重構造の遺産-」	単著	2012年9月	『問題と研究』41巻	-	1-31頁
「台湾におけるスポーツとナショナリズム」	単著	2012年11月	『現代スポーツ評論』	-	75-84頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「四十年来の台日経済産業関係と今後の展望」	2012年5月2日	台日関係四十周年国際シンポジウム			
学会学術大会第6分科会(コメンテーター)	2012年5月26日	日本台湾学会第14回学術大会			
(口頭発表)「日治時期與戒嚴令時期的台灣媒體管制之比較」	2012年6月21日	中央研究院「第四回国際漢学会」			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
20世紀中国の政策決定過程における「世論」要因の分析 (研究分担者)	2012年度～2014年度	科研〔基盤研究(B)〕			

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
シンポジウムでの発表	2012年5月1日～4日	国賓飯店(台湾)
第四屆國際漢學會議での発表	2012年6月20日～23日	中央研究院(台湾)
研究調査	2013年3月11日～3月17日	台湾

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アジア政経学会、日本国際政治学会、日本台湾学会

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸と
 して(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
モーリス・ベジャールについての個人研究を続行。また、表象文化論とプロダクト批評の界面での研究を行なう。起用論文2編を発表。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「バレエ言説における仏米間の相違 -『ル・モンド』と『ニューヨーク・タイムズ』のM.ベジャール観」	単著	2012年12月	桐蔭論叢第27号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
ジュネーブ「国際高級時計展」	2013年2月6日(夕刊)	読売新聞			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
表象文化論学会、日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会

田村 和 寿 (たむら かずひさ) 特任教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 早稲田大学第一政治経済学部経済学科
 学 位 : 経済学士
 学 位 論 文 : 「生活高次化に伴う消費関数の研究…デューゼンバリー論の検証」
 専 門 分 野 : 理論経済学、都市・地域研究、まちづくり論、文化政策論、地域計画論、都市経営論
 前 職 : (株)都市計画連合アトリエ代表取締役
 亜細亜大学 学長補佐・地域産学公連携推進室コーディネーター
 早稲田大学 芸術学校 都市デザインコース講師
 受 賞 ・ 表 彰 : 武蔵野市行政功労者等

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義での専門テーマ性に加えての基礎的教養や社会的常識の重視。 (主対象は2, 3年次生)		講義テーマは主に‘まちづくり’、‘地域文化’そして‘地域スポーツ’であり、豊富な事例、トピックス、周辺関連事項を引き、語彙や概念についての理解を促すよう努めている。講義は各回ごとのレジュメと講話を軸に充実に努めている。
ゼミナール運営ではゼミ生各個人の自立性向上と良き社会人への成長を念頭に、テーマ学習と議論、プロセス重視の卒研・卒論指導そして地域参加等の活動に力を注いでいる。 (主対象は3, 4年次生)		ゼミの2年間を実社会進出への準備段階と位置付け、その有効化のため広い視野からの‘マイ・プロジェクト’を決めてもらい、ゼミ内での懇親も含め多面にわたるその自主的展開へのサポートを心掛けている。
‘まちづくり’や‘地域研究’と言ったテーマ性からも、出来る限り実際の街や地域との触れ合いと双方向コミュニケーションによる理解、認識の促進機会を設ける。 (ゼミ生プラスその他希望者)		実際には2012年度本学に近い桜台地区の住民組織との協働により地域懇談会での議論やまちづくり提案作成に参加の機会を得るに至った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
授業での講義レジュメ作成への注力。		担当科目の講義全回に当たって、豊富な参考事例に富んだオリジナリティ重視のレジュメ作成に努めている。講義のテーマ、内容から状況の経年的変化も激しく、こうした動向のフォローは自らの調査や研究にも不可欠となっている。
講義に於いてはレジュメ自体が入門書の役割を担っているが、事例集なども含め膨大な参考文献・メディア資料等の存在も事実であり、これらについてはレジュメに載せ、或いは実物を見せ出来るだけ多くを紹介することにしている。ゼミではその他に図書館や大型書店に学生と同道し、実物を見つつ説明し、評価や判断の手助けをしている。		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
講演「大学生の生き方と大学教育のポイント」 (NPO法人 国際ボランティア学生協会)	2009年6月	今日の大学生の学習・生活環境の特色とオルタナティブ・ライブ選択の可能性について。
講演「桐蔭横浜大学におけるサービス・ラーニングの展開」(日本ボランティア学習協会・秋季大会)	2009年11月	本学でのサービス・ラーニング実施の経緯・全体像と展開・実状について。
講演「スポーツ教育とウェルネスの考え方」(日本ウェルネス学会・秋季大会)	2010年10月	ウェルネスの発想・ポイントとスポーツ教育での導入の可能性について。
‘3・11東日本大震災復旧における大学生ボランティア活動の支援’ (NPO法人シャンティ)	2012年7月～	宮城県気仙沼南部地域災害復旧への多数大学参加による活動の支援協力。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
研究活動の基調は前年同様であったが、'3・11東日本大震災'の及ぼした影響は極めて大きく、'街づくり論'に関わって'被災地復旧・復興'や'ふるさと活性化'等の課題がクローズアップされ、これらを巡っての多角的、総合的な議論と調査・研究を宮城県気仙沼市をモデルに進める機会を得ることになった。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(シンポジウム総合コーディネーター)「地域再生・これまでの20年、これからの20年」	2012年7月	早稲田大学まちづくりシンポジウム・メイヤーズ会議(早稲田大学井深記念ホール)	-
(基調講演)「気仙沼市階上地区・まちづくりフォーラムinみなみネット」	2012年10月	気仙沼みなみネット主催(階上中学校体育館)	
(総合コーディネーター)「住み続けられるふるさと・その地方政策を問う」	2012年11月	ふるさと再生・行動する首長会議	
(コーディネーター)「日英二国間セミナー'衝撃的被災と長期的減退への計画対応」	2013年3月	早稲田大学・パーミンガム大学連携(早稲田大学22号館)	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
(討論)「これからの建築…ソーシャル・デザインとしての意味づけ」	2012年5月	建築設計者有志の会	
(コメント・取材)「桜台地区のポテンシャルと将来の姿」	2012年9月	地区住民有+朝日新聞横浜支局+タウン誌'タウンニュース'	
(討論)「気仙沼・周辺地域の復旧・復興のありかたについて」	2012年9月	地元住民組織	
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「台の街から・青葉台 2…住民たちこそ宝の山」	2013年2月14日(朝刊)	朝日新聞(神奈川版)29面	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
早稲田大学都市計画フォーラム、市民と議会の条例づくり交流会議、社団法人知識資源機構	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年4月～2013年4月	(財)武蔵野市開発公社 理事(非常勤)
1990年4月～現在	武蔵野市自転車等駐車対策協議会 委員長
1996年～現在	早稲田大学都市計画フォーラム 運営委員
2007年～現在	市民と議会の条例づくり交流会議 会員
2010年5月～現在	(社)知識資源機構 理事
2012年10月～2013年3月	内閣府の'地域づくり支援事業による専門家'として委嘱

中 林 伸 浩 (なかばやし のぶひろ) 特任教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
在 籍 : 2007(平成19)年4月～
最 終 学 歴 : 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程
単位修得退学
学 位 : 博士(人間科学)(大阪大学)
学 位 論 文 : 「国家を生きる社会・・・西ケニア・イスハの氏族」
専 門 分 野 : 文化人類学
前 職 : 金沢大学文学部人間学科教授
留 学 : 英国ケンブリッジ大学(1969.9～1971.3)

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 准教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『明治時代史辞典』(第二卷)	共著	2012年7月	吉川弘文館	宮地正人、佐藤能丸、櫻井良樹 編集	「坂元雪鳥」項目執筆
『明治時代史辞典』(第三卷)	共著	2013年2月	吉川弘文館	宮地正人、佐藤能丸、櫻井良樹 編集	「丸岡桂」「山崎楽堂」項目執筆
(学術論文)					
「謡曲における仏僧 ―僧ワキの宗教的機能についての覚書―」	単著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	-	203-211頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「謡曲における告白:その類型と機能について」	2012年9月9日	日本宗教学会 第71回学術大会(第12部会)、皇學館大学(三重県伊勢市)	-		
○その他					
(その他特記事項)					
(発表要旨)「幽霊能における告白:その類型と機能について」日本宗教学会 第71回学術大会(第12部会)、宗教研究86(4)、2013年3月					
(曲目解説)「〈阿古屋松〉について」國學院大學主催 第15回 狂言の会(平成24年10月17日・18日開催) リーフレット(制作・國學院大學文学部資料室、編集・徳江元正)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

大野 哲也 (おおの てつや) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 指導認定退学
 学位：博士(人間・環境学)、修士(社会学)、修士(人間・環境学)
 学位論文：書き換えられる記憶, 定型化する物語—日系アルゼンチン移民の過去の再構成の試みから—(修士論文:社会学)
 『自分探し』の旅という神話を超えて—アジアにおける日本人バックパッカーの調査から—(修士論文:人間・環境学)
 冒険的な旅から冒険的な生き方へ—アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から(博士論文:人間・環境学)
 専門分野：文化人類学、社会学、環境人間学
 前職：京都大学GCOE短時間研究員
 資格：中学校教諭1級普通免許(保健体育)
 高等学校教諭2級普通免許(保健体育)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
アジアにおける観光研究 三重県東紀州地域における地域研究 ケニアにおけるスポーツ研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『旅を生きる人々 バックパッカーの人類学』	単著	2012年7月	世界思想社		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「バックパッキングと社会 メディアがつくる旅の面白さとその帰結」	2012年4月21日	人文地理学会例会(奈良女子大学/奈良県奈良市)	大野哲也		
「危険」を消費する—アジアを旅する日本人バックパッカーの経験から—	2012年6月24日	日本文化人類学会(広島大学/広島県東広島市)	大野哲也		
“Japanese Backpackers Trabeling around Asia -Commercialized wonder and tranformed identity”	2012年11月24日	Kyoto international seminar 2012 Re-creating communities in a globalized setting	大野哲也		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「観光と社会 バックパッカーが旅で経験する自己成長に関する一考察」	2012年9月29日	東京海外旅行研究会	国立オリンピック記念青少年総合センター		
「旅と自分史 「やりたいこと」が社会を映す」	2012年11月22日	高知市教育委員会	須崎市市民文化会館		
「旅を生きいる人びと バックパッカーの人類学」	2013年3月30日	国立市教育委員会	国立市公民館		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「大野さん 人類学者に転身」	2012年7月19日(夕刊)	高知新聞			
「バックパッカーを研究する元冒険家」	2012年7月27日(朝刊)	朝日新聞			
「時流自流 日本社会を問い直す」	2012年9月29日	神奈川新聞			

(その他特記事項)

FMヨコハマ「FUTURESCAPE」

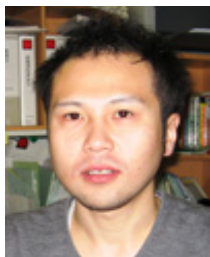
BAYFM「NEC presents THE FLINTSTONE」

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本社会学会、日本文化人類学会、日本南アジア学会、日本環境社会学会、社会学研究会、観光学術学会

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
単位取得後退学
学位：修士(体育科学)
学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

乗松 優 (のりまつ すぐる) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2012(平成24年)～
 最終学歴：九州大学大学院比較社会文化学府日本社会文化専攻博士後期課程修了
 学位：博士(比較社会文化)
 学位論文：国際労働力としてのフィリピン人ボクサーに関する一考察—サスキア・サッセンの議論から(修士論文)
 プロボクシング東洋選手権とは何だったのか(博士論文)
 専門分野：スポーツ社会学、文化社会学、社会史
 前職：九州大学大学院特別研究者
 資格：プロボクシングプロテスト合格(C級)
 NAUIスクーバダイビングライセンス取得
 非常勤講師：関東学院大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
「多文化共生論」における課外講義	2012年5月31日、6月7日	アフガニスタンで医療や農業支援を行っているペシャワール会・中村哲氏の講演会へ学生を引率した。
「社会調査実習報告会」	2012年7月17日	「公園は誰のもの 宮下区宮下公園の事例から」において、司会を務めた。
「多文化共生論」における課外講義	2012年7月27日	日本におけるモスリムの生活を知るために、ラマダン期に東京ジャーミー(イスラム寺院)へ学生を引率した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
松田京子、2007、『帝国の視線』、吉川弘文館。	2012年前期に使用	1903年開催の第五回内国勲業博覧会が、帝国日本の植民地政策と結んでいた関係について考察している著作。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
尊皇主義や国粹主義への再興が、ナショナリストとスポーツ界の結び付きを生み出したことを論証した。この成果は、『現代スポーツ評論』で「ボクシング界の振興と背景としての政治イデオロギー」として発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ボクシング界の振興と背景としての政治イデオロギー」	単著	2012年11月	『現代スポーツ評論』(創文企画)第27巻	-	109-117頁
○その他					
(その他特記事項)					
関東学院大学との現地日本人旅行者(バックパッカー)へのインタビュー及び、アンケート調査(2012年8月7日から8月19日まで、タイ・バンコクで調査を行う)(日産財団研究助成社会学分野助成金)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本スポーツ社会学会、日本社会学会、東南アジア学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2012年4月～2012年9月	『スポーツ社会学研究』編集委員会専門委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
岩手県・野田村での復興支援	2012年3月～現在(不定期)	受け入れ先:野田村役場

(2013年度 新任教員)

田中 暢子 (たなか のぶこ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability” (ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 留学：ラフバラ大学
 資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、マスター上級介護予防運動スペシャリスト
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
		文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著:), 田中暢子(2012)障がい者とスポーツ, 川西正志と野川春夫(編), 一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)他
4.その他教育活動上特記すべき事項		
		科研研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・コーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
一般社団法人日本パラリンピアンズ協会「第2回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査」の調査計画・分析・報告書執筆, 国立スポーツ科学センター2012インテリジェンスプログラム「ロンドンパラリンピック競技大会における競技性の高い障害者スポーツの国際競技力現状分析」、筑波大学菊幸一科研費「スポーツ政策の公共性に関する国際比較研究」において「障害者はなぜスポーツにおける公共性を求めるのか～英国の政策事例から学ぶ『Sport for All』の実現に向けた比較研究」など、2012年のロンドンパラリンピックを機にパラリンピックに関する研究を進めた。中でも、パラリンピック選手の競技環境に関する調査は、新聞主要紙、テレビなどの多くのメディアに取り上げられ、また厚生労働省、文部科学省にも報告され、パラリンピック選手の深刻な競技環境について多くの反響を得た。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「障がい者スポーツ」	共著	2012年9月	生涯スポーツ実践論第3版, 市村出版	川西正志と野川春夫編著: 田中暢子(第10章執筆分担)	128-137頁
(総説・論説)					
「スポーツ振興(健常者・障害者)の一元化推進策に関する国際比較研究」	共著	2012年4月	2011年度笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書, 笹川スポーツ財団	野川春夫, 佐々木朋子, 田中暢子, 佐々木由夫, 李性皎, Paul De Knop.	40-49頁
「第2回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査」	共著	2012年8月	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会	田中暢子, 一般社団法人日本パラリンピアンズ協会	全51頁
「男子車椅子バスケットボール日本代表への心理検査の意義と課題」	共著	2012年8月	スポーツ精神医学, 第9号, A40.	渋谷英雄, 田中暢子, 加藤千恵子, 土田健省, 内田桃人	40-49頁
“International Perspectives for the Global Development of Sport of People with Mental Health Problems”	単著	2013年2月	第6回世界精神医学会アンチスティグマ分科会国際会議プログラム抄録集, こころのバリアフリー研究会・公益財団法人精神・神経学振興財団	-	p.63
「障害者はなぜスポーツにおける公共性を求めるのか」	単著	2013年3月	「スポーツ政策の公共性に関する国際比較研究」平成22-24年度科学研究費基盤研究B(22300216)研究成果報告書 研究代表者: 菊幸一	-	44-50頁
「戦後日本における障害者のスポーツの発展-1949年から1970年代に着目して」	単著	2013年3月	中央大学保健体育研究所, 体育研究第47号	-	
(学術論文)					
「脳性麻痺/脳血管障害を持つサッカー選手のクラス分けに関する研究」(査読付)	共著	2012年6月	中央大学保健体育研究所紀要, 30	田中暢子, 高橋雅足, 柴田昌和	149-160頁
「2009年ホームレスワールドカップ日本チームに関する調査報告」(査読付)	共著	2012年6月	神奈川県立保健福祉大学誌, 9(1)	岩永理恵, 田中暢子	99-107頁
「イタリアにおける精神障害者サッカーの潮流と課題~サッカー支援の背景にある精神保健法と精神保健システム~ローマ市を事例として」(査読付)	共著	2012年8月	スポーツ精神医学, 第9巻, 日本スポーツ精神医学会	田中暢子, 井上誠士郎	44-53頁
「ソーシャルフットボール Calciosociale」(査読付)	共著	2012年8月	スポーツ精神医学, 第9巻, 日本スポーツ精神医学会	井上誠士郎, 田中暢子	27-30頁
「国際比較から見る障害者のスポーツの統合類型に関する考察~英国, オーストラリア, シンガポール, 韓国の比較研究」(査読付)	単著	2012年8月	日本体育学会第63回大会体育社会学専門領域発表論文集第20号	-	116-121頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(学会) 「男子車椅子バスケットボール日本代表への 心理検査の意義と課題」	2012年9月	スポーツ精神医学第11回大 会, (開催会場:早稲田大学)	田中暢子, 加藤千恵子, 渋谷英 雄, 土田健省, 内田桃人
「デンマークにおける精神障害者スポーツの 動向」	2012年9月	スポーツ精神医学第11回大 会, (開催会場:早稲田大学)	-
(シンポジウム) 「精神障害者スポーツの今とこれから」(パネリ スト)	2012年9月	日本スポーツ精神医学会第 10回大会記念シンポジウム	
「精神障害者スポーツの国際化に向けて」(パ ネリスト)	2012年11月	大阪医科大学(開催会場:大 阪医大)	
「アダプテッドエアロビク ナショナルフェスタ よこはま」シンポジウム(コーディネーター)	2012年12月	日本エアロビク連盟(開催会 場:障害者スポーツ文化セン ター横浜ラポール)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、 日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビク連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(現在に至る)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年1月～2013年4月	2020東京オリンピック・パラリンピック私的懇談会委員
2013年2月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(現在に至る)

大学院

工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
 大学院アドミッション委員(2012～)
 環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
 資格 : 第一種情報処理技術者
 受賞・表彰 : 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999-2013)
 Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
Scilabプログラミング基礎	2010年6月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。3年セミナーで使用。
CAD演習I	2010年9月～	機械製図の基礎とSolidworksの入門
工学基礎実験II	2010年9月～	工学基礎実験II用の学内テキスト
CAD演習II	2011年4月～	Solidworksの応用
デジタル信号処理	2011年4月～	Scilabを用いてさらに応用信号処理として、最大エントロピー法、短時間フーリエ変換、ウェーブレット変換、ケプストラム解析およびヒルベルト変換を実行する方法について解説

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
・農工融合計測 1. 超節水精密農業技術の開発(JST CREST 分担研究者 3年目) 2. 音波による土壌水分分布に関する研究(科研費 挑戦萌芽研究 3年目) ・地中計測 1. 遺跡遺構の探査のための地中探査ソナーの研究 2. 空中放射音波を用いた非接触音響探査(国土交通省委託研究 本研究2年目) ・医用計測 1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(科研費 基盤研究(C) 分担研究者 2年目)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Non contact long distance exploration method for concrete using SLDV and LRAD”	共著	2012年4月24日	J. Acoust. Soc. Am. 2012 Apr;131(4)	Tsuneyoshi Sugimoto, Ryo Akamatsu, Noriyuki Utagawa, Syuuichi Tsujino	pp.3462-3468

“Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis, -A comparison with the Waveform Acquired from an Arm Model- ”	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	Kentaro Koyama and Tsuneyoshi Sugimoto and Fumiyo Katayama	pp.15-20
“Underground Imaging Using Shear Waves, -Comparison of the Under ground Image by the Two Different Size Vibrators”	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	Takahiro Kitazawa and Tsuneyoshi Sugimoto	pp.21-26
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査、-非接触欠陥検出法としての実用可能性に関する検討-」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	赤松亮, 杉本恒美	27-32頁
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-地中刺突型音波伝播システムの構築-」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	白川貴志, 杉本恒美 , 中川裕, 佐野元昭(桐蔭横浜・工), 大幅元吉, 澁澤栄(農工大・農)	37-42頁
「土壌中の水分分布計測に関する基礎研究、-音波振動と土壌水分センサを用いた計測に関する検討-」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第26号	中川裕, 杉本恒美	51-56頁
「長距離音響発生装置を用いた非接触欠陥検出法の検討」	共著	2012年8月9日	コンクリート構造物の非破壊検査, Vol.4	赤松 亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 辻野修一	31-36頁
“Non Contact Acoustic Contour Imaging Method using Phase Difference in Extremely Shallow Underground”	共著	2012年12月31日	J. Energy and Power Engineering, Vol.6 (2012)	T.Sugimoto , T.Abe	pp.2010-2017
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Non contact acoustic exploration method for concrete using SLDV and LRAD”	2012年4月24日	Acoustics 2012 Nantes Nantes, France	T.Sugimoto , R.Akamatsu, N.Utagawa, S.Tsujino		
“Water distribution measurement in sand using sound vibration and SLDV”	2012年4月25日	Acoustics 2012 Nantes Nantes, France	T.Sugimoto , Y.Nakagawa , T.Shirakawa , M.Sano, M.Ohaba , S.Shibusawa		
「コロコフ音解析による健康指標値に関する検討、-腕モデルを用いた波形計測-」	2012年5月11日	第51回日本生体医工学会福岡国際会議場	杉本恒美 , 小山賢太郎, 片山富美代		
“Non contact long distance exploration method for concrete using SLDV and LRAD”	2012年5月17日	Acoustics 2012 Hong Kong 香港會議展覽中心(Hong Kong Convention and Exhibition Centre)	T.Sugimoto , R.Akamatsu, N.Utagawa, S.Tsujino		
「水熱処理によるメロシアン含有LB膜の光学特性の改質-超構造生成を伴う-」-会合体の再編-」	2012年5月18日	日本化学会第92春季年会(2012) 慶應義塾大学日吉キャンパス・矢上キャンパス	三浦康弘, 佐野元昭, 杉本恒美		
「SLDVと空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する研究」	2012年5月22日	日本非破壊検査協会平成24年度春季講演大会 アルカディア市ヶ谷	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 辻野修一		
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究、-遠距離からのコンクリート浅層内部欠陥検出に関する検討-」	2012年5月29日	物理探査学会第126回学術講演会 早稲田大学国際会議場	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義		
“Structural Control of Dye LB Films by Hydrothermal Treatment”	2012年6月30日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2012	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto		
“Study on water distribution measurement in sand using sound vibration”	2012年7月17日	11th International Conference on Precision Agriculture, (Indianapolis Hyatt Regency hotel, Concept room)	T.Sugimoto , Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba and S.Shibusawa		

「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発、-打音法との比較-」	2012年9月6日	土木学会第67回年次講演会 (名古屋大学)	歌川紀之, 片倉景義, 赤松亮, 杉本恒美
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発、-遠距離からの探査能力に関する基礎検討-」	2012年9月6日	土木学会第67回年次講演会 (名古屋大学)	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「コトコフ音解析による健康指標値に関する検討、-各年代および腕モデルを用いた波形比較-」	2012年9月7日	生体医工学シンポジウム2012 (大阪大学 豊中キャンパス)	小山賢太郎, 杉本恒美 , 片山富美代, 池田遼, 波多野悠
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する検討、-伝搬音速値の推定精度向上に関する検討-」	2012年9月19日	音響学会秋季研究発表会 (信州大学工学部)	中川裕, 杉本恒美 , 白川貴志, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響映像法に関する研究、-振動速度スペクトルを用いた欠陥検出法の基礎的検討-」	2012年9月20日	音響学会秋季研究発表会 (信州大学工学部)	赤松 亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using SLDV, -Real Time Imaging of the Vertical Water Distribution-”	2012年10月8日	IEEE International Ultrasonic Symposium 2012 (Dresden, Germany)	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Non Contact Acoustic Imaging Method for Concrete Defect Detection, - Study on the Defect Defection using the Realistic Crack Model and the Angle Dependence-”	2012年10月8日	IEEE International Ultrasonic Symposium 2012 (Dresden, Germany)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Study on Noise Control of the Non-Contact Acoustic Exploration Method using the Phase Reversed Sound Wave”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomonori Watanabe, Tsuneyoshi Sugimoto
“Development of handheld soil-water sensor for agriculture purposes”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis -Comparison with the waveform obtained from arm model and each age-”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
“Study on the Non-destructive Inspection Method for Concrete Structures by using Air-coupled Sound Wave -Examination of Crack Defect Detection by using Cracked Concrete Test Piece-”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil -Acoustic Imaging of Water Distribution in the Sand”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Improvement of the Estimated Accuracy of the Sound Propagation Time in the Soil”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Takashi Shirakawa, Motoaki Sano, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Water Distribution Imaging in the Soil using Propagation Velocity of Sound, - The Horizontal and the Vertical Water Distribution Imaging-”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Tsuneyoshi Sugimoto , Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Basic Study on the soil water distribution measurement using stick type sound source and sensors”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa

“Non-contact Inspection Method for Concrete Structure by using LRAD 􀌆Study on Angular Dependence and Crack Model Detection”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Basic Study on the Water Stress of the Plant using the Vibration Measurement of the Leaf”	2012年11月15日	Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2012) (千葉大学 けやきホール)	Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto , Hiroshi Hosoya, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート表層部の欠陥映像化に関する研究 ― 剥離欠陥検出の検討―」	2013年2月19日	アコースティックイメージング研究会、超音波研究会 (機械振興会館)	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -伝搬音速の推定精度と植物栽培中の土壌水分測定に関する検討-」	2013年2月19日	アコースティックイメージング研究会、超音波研究会 (機械振興会館)	杉本恒美 , 中川裕, 白川貴志, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「葉の振動計測による植物給水ニーズ推定に関する基礎検討」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	佐野元昭, 佐野紘和, 杉原敏昭, 杉本恒美 , 大幅元吉, 澁澤栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究, -地中縦挿し型送受信器を用いた植物根圏土壌水分分布の計測-」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	白川貴志, 杉本恒美 , 中川裕, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響映像法に関する研究, -入射音波の角度依存性に関する検討-」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する検討, -植物の吸水による土壌水分の変化検出に関する検討-」	2013年3月14日	音響学会春季研究発表会 東京工科大学(八王子)	中川裕, 杉本恒美 , 白川貴志, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「音波振動を用いた土壌水分計測」	2012年7月6日	平成24年度 生存科学セミナー(最終回) 技術紹介	東京農工大府中キャンパス
「音波振動による土壌中の水分分布および植物体のストレス応答計測」	2012年12月14日	第2回 農学分野合同ワークショップ「農学から発信する水問題最前線」	高知大学農学部 大会議室
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「非接触音響検査装置および非接触音響検査方法」	2012年11月27日	特願2012-258888号	学校法人桐蔭学園、片倉景義、佐藤工業(株) (杉本恒美 , 片倉景義, 歌川紀之)
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
新進賞	2012年5月22日	日本非破壊検査協会平成24年度春季講演大会 オーガナイズドセッション「鉄筋コンクリート構造物の検査のための非破壊試験方法(1)」	赤松亮, 杉本恒美
“Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012 Poster Session Award”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
“Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012 Poster Session Award”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering	Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
政策領域8「道路資産の保全」 「非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発」	2010年度～2013年度	国土交通省「道路政策の質の向上に資する技術開発研究」 政策領域8「道路資産の保全」 研究代表者: 杉本恒美	

研究領域名「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」 研究課題名「超節水精密農業技術の開発」	2010年度～2014年度	JST(独)科学技術振興機構 CREST(戦略的創造研究推進事業) 研究代表者:東京農工大 濫澤栄教授 総事業費約2億円(5年間)
挑戦的萌芽研究「音波による土壌水分分布計測に関する研究」	2010年度～2012年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本恒美
基盤研究(C)「コロナ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年度～2013年度	文部科学省科研費、研究代表者:片山富美代、分担研究者:杉本恒美
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Acoustics 2012 Nantes 出席・発表	2012年4月17日～24日	International Convention Center, (Nantes, France)
Acoustics 2012 Hong Kong 出席・発表	2012年5月14日～21日	Hong Kong Convention and Exhibition Centre, (Hong Kong)
11th International Conference on Precision Agriculture (ICPA) 出席・発表	2012年7月17日～24日	Indianapolis Hyatt Regency hotel, Concept room, (Indianapolis, Indiana, USA)
超音波研究会 出席	2012年8月26日～29日	釜慶大学大淵キャンパス (釜山、韓国)
IEEE International Ultrasonic Symposium 2012出席・発表	2012年10月04日～11日	International Congress Center Dresden (Dresden, Germany)
10th Congress of Asian Federation of Societies for Ultrasound in Medicine and Biology (AFSUMB) 出席	2012年11月06日～10日	Discovery Kartika Plaza Hotel (Bali, Indonesia)
(その他特記事項)		
「電子情報通信学会 常任査読委員」(2012年5月28日)		
「第33回超音波シンポジウム運営委員」(2012年6月1日)		
「国土交通省委託研究「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」採択」(2012年6月20日)		
「日本音響学会秋季研究発表会 座長(アコースティックイメージング部門)」(2012年9月20日)		
「日本超音波医学会査読委員」(社)日本超音波医学会 査読委員及び論文賞審査委員(平成24年-平成25年)(2012年9月14日)		
「日本音響学会春季研究発表会 座長(アコースティックイメージング部門)」(2013年3月14日)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、日本文化財科学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員

宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー科学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究推進部長(2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トアリビエール校生物物理学科(1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞
 2013年 日本学術振興会175委員会 イノベティブPV賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディアとして、ビデオ等を使った最新技術の紹介	2005年度～2012年度	「環境エネルギー工学」ならびに「環境工学概論」の授業において、地球環境にやさしいエネルギー生産技術(バイオ燃料、太陽電池等)の導入を行っている国内・海外の社会情勢を取材した内容を、PowerPointの映像とビデオで紹介した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
環境エネルギー工学に関するテキスト	2005年度～2012年度	「環境エネルギー工学」ならびに「環境工学概論」の授業において、環境工学とエネルギー工学を学ぶために必要な論理と技術のトピックスをまとめたオリジナルテキストを作成し、配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学外の専門家(企業人、大学教授)を招いた講演会を開催し、授業を履修する学生にも聴講させた。	2008年度～2012年度	エネルギー生産や環境科学に携わる企業ならびに大学研究機関(国内ならびに海外)から専門の研究者を呼んで、学内の教室で講演会と自由討論会を行った。講演会が授業内容に関連している場合は、授業を履修する学生に授業の一環として聴講させ、社会への環境貢献に向けたアンケートを提出させ、学生の環境・エネルギーの改善に向けた価値観を啓発した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
海外の大学から大学院学生の短期研修の受け入れ	2009年～2012年度	カナダ、中国、台湾などの国立大学で学ぶ大学院生(修士課程、博士課程)を、学生交換の支援団体(交流協会等)を通じて、本学における短期研修のために研究室で受け入れ、実験研究を指導するとともに海外の大学との研究協力につなげる機会を設けた。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」において新しくスタートした研究テーマ「有機無機ハイブリッド太陽電池の研究」が順調に進み、特許出願を行うとともに、2012年10月には、Oxford大学との共同研究の成果としてSicence誌に世界最高効率のハイブリッド太陽電池を論文発表した。この発表は新聞にも報道されて、いくつかの企業との共同研究が新たにスタートした。一方で経済産業省NEDOによる次世代高性能光発電プロジェクトで、プラスチック色素増感太陽電池に関して山形大学とグンゼ㈱との共同研究が進み、関連の重要な論文を発表した。海外では台湾との研究交流と大学院学生の本学での研修への受入れ、イタリアの国立研究機関との共同実験を実施し、これらも論文発表につながった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
“Trends in Advanced Sensitized and organic Solar Cells” (総説・論説)	監修	2012年10月22日	CMC International, Tokyo	宮坂 力	全289頁
「蓄電のできる太陽電池“光キャパシタ”の開発」	単著	2012年9月	光アライアンス、21	宮坂 力	57-60頁
「プリンタブルなプラスチック色素増感太陽電池とポリマー材料技術」	単著	2012年9月	Polyfile、49	宮坂 力	30-36頁
「有機・無機ハイブリッド太陽電池の開発(Development of organic-inorganic hybrid solar cells)」	共著	2012年10月	太陽エネルギー、38	石井あゆみ、宮坂 力	39-46頁
(学術論文)					
“Highly Luminescent Lead Bromide Perovskite Nanoparticles Synthesized with Porous Alumina Media”	共著	2012年5月10日	Chem. Lett., 41	A Kojima, Masashi Ikegami, Kenjiro Teshima, Tsutomu Miyasaka	pp.397-399
“Study on counter electrode for dye-sensitized solar cells using carbon materials”	共著	2012年7月10日	Hitz Technical Review, Vol.73	Takuro Okumura, Takeshi Sugiyo, Tetsuya Inoue, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka	pp.21-27
“A high voltage organic-inorganic hybrid photovoltaic cell sensitized with metal-ligand interfacial complexes”	共著	2012年8月20日	Chem. Commun., 48	Ayumi Ishii and Tsutomu Miyasaka	pp.9900-9002
“Efficient hybrid solar cells based on meso-superstructured organometal halide perovskites”	共著	2012年10月4日	Science, 338	Michael M. Lee, Joel Teuscher, Tsutomu Miyasaka , Takuro N. Murakami, and Henry J. Snaith	pp.643-647
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Quantum conversion and power generation with dye-sensitized and hybrid semiconductor photovoltaic cells”	2012年6月24日～29日	The 3rd International Symposium on Molecular Photonics (国際学会) The Baltiets Hotel, St.	-		
「蓄積型色素増感代用電池“光キャパシタ”の高性能化」	2012年7月12日	CREST有機太陽電池シンポジウム(京都大学宇治キャンパス、きはだホール(京都市))	-		
“Efficiency enhancement for organic dye-sensitized plastic solar cell with thin printed TiO ₂ films”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Tsutomu Miyasaka , Saori Morita, Wei Tzu-Chien, Masashi Ikegami		

“Organic-inorganic hybrid thin film photovoltaic cell with high open-circuit voltage”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
“Nano-platinum coating for low cost, high efficiency counter electrode in dye-sensitized solar cell”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Tzi-Chien Wei, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka
“Extremely thin photoanodes consisting of TiO ₂ nanosheets for flexible solid state dye-sensitized solar cells”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Xin Li , Ayumi Ishii , Tsutomu Miyasaka
“Solid-state dye-sensitized solar cells composed of titanium-dioxide-hybridized porous zinc oxide films and organic whole conductors”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Nobuya Sakai, Tsutomu Miyasaka
“Solar energy conversion and storage with dye-sensitized mesoporous semiconductors prepared by printing technologies”	2012年8月21日～22日	First International Workshop on Nano Materials for Energy Conversion & Fuel Cell (NMEC-1)(国際学会)	Tsutomu Miyasaka
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「配位積層構造を有する有機-無機ハイブリッド薄膜太陽電池の開発」	2012年4月21日	第1回有機太陽電池ワークショップ	山形大学工学部百周年記念会館(山形県米沢市)
「色素増感メソポーラス半導体を用いる塗布型光電変換素子の開発」	2012年5月29日～30日	日本写真学会年次大会	千葉大学けやき会館(千葉市)
“Photoelectrochemistry and advanced engineering for solar conversion and storage”	2012年8月23日	First International Workshop on Nano Materials for Energy Conversion & Fuel Cell (NMEC-1)	University of Science Ho Chi Minh City, Vietnam
「薄膜プラスチック色素増感太陽電池の高効率化開発」	2012年9月4日	光電気化学研究懇談会	九州工業大学若松キャンパス(北九州市)
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
有機無機積層構造からなる光電変換素子とその製造方法	2012年6月28日	特願2012-145021	発明者: 宮坂 力 、二瓶あゆみ 出願人: 学校法人桐蔭学園
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本写真学会 学術賞	2012年5月29日	日本写真学会	宮坂 力
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
太陽電池用機能性フィルムの開発	2012年4月～2013年3月	帝人デュボンフィルム株式会社	
色素増感太陽電池の新規技術の開発	2012年4月～2013年4月	日立造船株式会社	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」	2010年4月～2013年3月	世界最先端研究支援強化プログラム、(総額28億円) リーダー:東京大学瀬川教授、サブテームリーダー:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)、本学の受託研究費、1億円
「有機無機ハイブリッド太陽電池の開発」	2010年4月～2014年3月	最先端研究開発支援プログラム(FIRST) リーダー:東京大学瀬川教授、サブテームリーダー:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「光キャパシター高性能化:電極に酸化ルテニウム粒子混合」	2012年5月3日	日刊工業新聞
「改革に挑む-大学 この人に聞く」	2012年7月20日	日刊工業新聞
「色素増感太陽電池 フィルム型を実証」	2012年8月20日	日刊工業新聞

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS(Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテームリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員

大塚 雅人 (おおつか まさと) 准教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：岡山大学医学部
 学位：医学博士
 学位論文：Otsuka M, Itagane H, Haze K : "Clinical significance of improved persistent defect by thallium-201 reinjection imaging in the subacute phase of myocardial infarction." J Cardiol 33; 67-74, 1999
 専門分野：循環器病学、心血管カテーテルインターベンション、血管内イメージング、冠動脈CT
 前職：大阪市立総合医療センター循環器内科医長
 留学：Erasmus Medical Center, Rotterdam (2005.11-2007.3)
 資格：医師免許、日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医、日本心血管インターベンション治療学会専門医
 非常勤講師：横浜総合病院ハートセンター循環器科部長(兼任)
 受賞・表彰：日本冠疾患学会賞(1999)
 日本心臓病学会Cardiovascular Imaging Award (2003)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
高分解能CTによる冠動脈疾患診断の有効性評価と適正使用に関する研究と実践					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「エビデンス循環器病学 第3版」	共著	2012年7月8日	ライフサイエンス出版	(日本語版監修)道下一朗, 足利貴志, 菅野晃靖, 福井和樹・(翻訳)大井正也, 大塚雅人 , 鶴見由起夫, 中島 孝, 他	283-289頁
(学術論文)					
“Impact of Coronary Calcium Score as Gatekeeper on Coronary CT Angiography”	共著	2013年3月	Circulation Journal 77 (Suppl.I)	Masato Otsuka , Ichiro Kokura, Takashi Nakashima, Takahiro Gunji, Hiroyuki Ozaki, So Takenaka, Mitsuchika Nakamura, Yukio Tsurumi	pp. I-995
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“A case of stent deformation of Zotarolimus-eluting stent after post-dilatation”	2012年7月13日	第21回日本心血管インターベンション治療学会学術集会(新潟)	Hiroyuki Ozaki, Takashi Nakashima, Sou Takenaka, Mitsuchika Nakamura, Masato Otsuka , Yukio Tsurumi		
“Experimental investigations on effectiveness of fractional flow reserve (FFR) using stenosis models”	2012年11月10日	7th Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Masato Otsuka , Yukio Tsurumi		
「冠動脈狭窄モデルを用いた狭窄状態の違いがFFRに与える影響に関する実験的検討」	2012年11月8日	平成24年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	春原冨香, 扇谷至, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 大塚雅人 , 鶴見由起夫, 木原昭		

「肺静脈隔離術後1年8ヶ月経過し,上大静脈からの細動興奮で再発した発作性心房細動の1例」	2013年2月9日	第227回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京)	郡司尚玲, 竹中創, 中島孝, 尾崎弘幸, 中村光哉, 大塚雅人 , 鶴見由起夫
“Reverse Left Atrial Remodeling and Strain after Radiofrequency Catheter Ablation in Patients with Fixed Atrial Fibrillation”	2013年3月16日	第77回日本循環器学会総会・学術集会(横浜)	Takahiro Gunji, Sou Takenaka, Takashi Nakashima, Hiroyuki Ozaki, Mitsuchika Nakamura, Masato Ohtsuka , Yukio Tsurumi
“Reverse Left Atrial Remodeling and Strain after Radiofrequency Catheter Ablation in Patients with Fixed Atrial Fibrillation”	2013年3月16日	第77回日本循環器学会総会・学術集会(横浜)	Sou Takenaka, Takashi Nakashima, Takahiro Gunji, Hiroyuki Ozaki, Mitsuchika Nakamura, Masato Ohtsuka , Yukio Tsurumi
“The Influence on the Atrial Function after the Left Atrial Linear Ablation in Patients with Fixed Atrial Fibrillation”	2013年3月16日	第77回日本循環器学会総会・学術集会(横浜)	Sou Takenaka, Takashi Nakashima, Takahiro Gunji, Hiroyuki Ozaki, Mitsuchika Nakamura, Masato Ohtsuka , Yukio Tsurumi
“Impact of Coronary Calcium Score as Gatekeeper on Coronary CT Angiography”	2013年3月16日	第77回日本循環器学会総会・学術集会(横浜)	Masato Ohtsuka , Ichiro Kokura, Takashi Nakashima, Takahiro Gunji, Hiroyuki Ozaki, Sou Takenaka, Mitsuchika Nakamura, Yukio Tsurumi
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「ハンズオンセミナー【実技】IVUSスタックへの対処」	2012年10月19日	Tokyo Live Demonstration 2012/第41回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京
「心筋梗塞と狭心症」	2013年2月23日	横浜総合病院 第78回生活習慣病教室	横浜
「腎動脈狭窄症の臨床とカテーテルインターベンション」	2013年3月6日	第31回超音波診断レクチャー	東京
○その他			
(その他特記事項)			
「第21回日本心血管インターベンション治療学会学術集会,メディカル一般演題・CT/MRI2 座長」(2012年7月12日)			
「第23回日本心血管画像動態学会・座長」(2013年1月25日)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本内科学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 日本心血管画像動態学会, 日本冠疾患学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年～現在	日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会運営委員
2004年～現在	日本心血管画像動態学会評議員
2004年～現在	関東甲信越IVUS研究会世話人

三浦康弘 (みうら やすひろ) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1996(平成8)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程
 学位：博士(理学)
 学位論文：Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)₂
 専門分野：物理学、分子エレクトロニクス
 前職：University of Houston, Department of Chemistry
 Postdoctoral Research Fellow, State Employee of Texas
 留学：University of Houston(米国)(1994年7月～1996年3月)
 非常勤講師：埼玉大学工学部非常勤講師(2011～現在)
 明治大学理工学部 電気電子生命学科 非常勤講師(2012～現在)
 受賞・表彰：東京理科大学理事長賞(1992)
 1998年、2002年材料技術研究会討論会ポスター賞
 Award of Excellence, Oral Session Award, Toin International Symposium on Biomedical Engineering, “Fabrication of Highly Conductive Patterns in Molecular Thin Films”
 財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成 受賞(2007)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

科学研究費補助金 基盤研究(C) (2010年度～2012年度、研究代表者 三浦康弘、課題名: 分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索)で採択された研究課題を中心に研究を進めた。英文のReview Paperを1報出版し、本人登壇による国内学会における発表を4件(一般口頭講演)、本人登壇による国際学会におけるポスター発表を3件、本人登壇による国際学会における招待講演を1件行った。当該年度内に圧力誘起超伝導相を見出すことはできなかったが、分子超薄膜の電気抵抗の圧力依存性を測定し、柔軟性の高い高分子基板に分子膜を積層した場合と、硬い基板(例: 石英板)に分子膜を積層した場合に圧力効果が顕著に異なることを見出した。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Development of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films - From Metallic toward Superconducting Properties -”	共著	2012年6月	Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. 37(2012) No. 2	Yasuhiro F. Miura, Masaaki Kitao, Hideki Matsui, Ryo Watanabe, Shin-ichi Morita	pp.107-110

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“Tuning of Optical Properties of Merocyanine-Dye Containing LB Films by Hydrothermal Treatment”	2012年7月16日	International Conference on Organised Molecular Films (LB14), University of Paris, Paris, France	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano and Tsuneyoshi Sugimoto
「メロシアン色素LB膜における光学特性の改質(VIII) - 超構造生成を伴うJ-会合体の再編 -」	2012年9月11日	2012年秋季 第73回 応用物理学会学術講演会(愛媛大学・松山大学)	三浦康弘、佐野元昭、杉本恒美
「水熱処理を用いたメロシアン色素LB膜のJ-会合体形成制御」	2012年11月10日	第53回高圧討論会(大阪大学豊中キャンパス)	三浦康弘、佐野元昭、杉本恒美
「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩に基づく導電性LB膜の高圧下の電気抵抗」	2012年11月10日	第53回高圧討論会(大阪大学豊中キャンパス)	三浦康弘、杉本直樹、秋山弘成、松林和幸、上床美也

“Tuning of Optical Properties of Merocyanine-Dye Containing LB Films by Hydrothermal Treatment”	2012年12月13日	10th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME 2012), Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji, Hyogo, Japan	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano and Tsuneyoshi Sugimoto
“Pressure Effect on Resistance in Alkylammonium-Au(dmit) ₂ LB films”	2012年12月13日	10th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME 2012), Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji, Hyogo, Japan	Yasuhiro F. Miura, Naoki Sugimoto, Hironari Akiyama, Hiroyuki Hasegawa, Kazuyuki Matsubayashi and Yoshiya Uwatoko
「アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩に基づく導電性LB膜の高圧下の電気抵抗」	2013年3月29日	2013年春季第60回応用物理学関係連合講演会(神奈川県工科大学)	三浦康弘、井上杏子、星野純一、小林聡一郎、杉道夫
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名 開催場所	共同発表者名
“Structural Control of Dye LB Films by Hydrothermal Treatment” (国際会議 招待講演)	2012年6月30日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2012 Seol Palace Hotel, Seoul, South Korea	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano and Tsuneyoshi Sugimoto、(登壇者に下線)
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索」	2012年4月～2013年3月	平成23年度科学研究費補助金(基盤研究C) 平成23年度交付額:1,170,000円(内間接経費270,000円)	
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電氣的性質」	2012年4月～2012年9月	東京大学物性研究所 平成24年度(前期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)	
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電氣的性質」	2012年10月～2013年3月	東京大学物性研究所 平成24年度(後期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2012に出席し、本人登壇による講演(招待講演)を行い、さらに、Scientific Program Committeeの一人として、会議の運営に携わるため。	2012年6月24～6月30日	Seoul Palace Hotel, Seoul (韓国)	
14th International Conference on Organized Molecular Films (ICOMF14-LB14)に出席し、研究発表(ポスター発表)を行うため。	2012年7月10～15日	パリ第5大学(パリ大学医学部), Paris (フランス)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1997年4月1日～現在	材料技術研究協会 『材料技術』誌 編集委員
2005年～現在	Transaction of Materials Research Society of Japan誌 特別編集委員
2007年4月1日～現在	東京都狛江市水泳協会 監事
2012年4月1日～現在	材料技術研究協会 理事
2013年1月15日～現在	公益社団法人 応用物理学会・プログラム編集委員
2013年6月	国際会議, Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2012, Scientific Program Committee Member

池上 和志 (いけがみ まさし) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修士
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ベクセル・テクノロジーズ(株)研究開発部博士研究員
 資格：甲種危険物取扱者
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
<p>色素増感太陽電池の実用化にむけて、新規の材料の開発を進めた。特に、p型半導体材料である酸化ニッケルNiOとカーボン材料を組み合わせた、白金代替となるヨウ素の還元触媒の開発を進めた。従来、カーボン材料を用いた触媒では、白金に近い性能を引き出すためには、触媒層の厚みが約10μmと厚くする必要があり、電極の安定性などの面で問題があった。酸化ニッケルNiOは、それ単独では触媒性能は低い、カーボン電極に担持することによって、カーボン電極の触媒性能を高めることができることを見出した。その結果、従来のカーボン膜の半分～1/3の膜厚にて、白金触媒に匹敵する性能をもつカーボン-酸化ニッケル複合電極を作製することができた。</p> <p>昨年度に引き続き、色素増感太陽電池の酸化チタン電極の低温成膜法に関連して、新規のペースト調整法とスプレー成膜法の研究開発を進めた。本手法を用いて、神奈川県ロゴマークなどをデザインした太陽電池を作製できるようになり、展示会等などでも発表を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「2012 色素増感太陽電池の全貌★徹底解説」	単著	2012年10月3日	電子ジャーナル	-	150頁
(総説・論説)					
「プラスチック色素増感太陽電池の開発状況」	共著	2012年6月28日	月刊ディスプレイ 2012年6月号	池上和志、手島健次郎	36-39頁
“Flexible plastic dye-sensitized solar cell modules and their unique performance”	単著	2012年10月22日	Trends in Advanced Sensitized and Organic Solar Cells、シーエムシー出版	-	pp.272-281
(学術論文)					
“Highly Luminescent Lead Bromide Perovskite Nanoparticles Synthesized with Porous Alumina Media”	共著	2012年5月10日	Chem. Lett., 41	Akihiro Kojima, Masashi Ikegami, Kenjiro Teshima, Tsutomu Miyasaka	pp.397-399

「建築への太陽電池の最適な設置方法に関する研究」	共著	2012年6月15日	桐蔭論叢、第26号	佐藤克芳、宮坂 力、池上 和志	63-38頁
“Study on counter electrode for dye-sensitized solar cells using carbon materials”	共著	2012年7月10日	Hitz Technical Review, Vol.73	Takuro Okumura, Takeshi Sugiyo, Tetsuya Inoue, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	pp.21-27
“Nickel oxide hybridized carbon film as an efficient mesoscopic cathode for dye-sensitized solar cells”	共著	2013年1月4日	J. Electrochem. Soc., 160	Takuro Okumura, Takeshi Sugiyo, Tetsuya Inoue, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	H155-H159
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
“Efficiency enhancement for organic dye-sensitized plastic solar cell with thin printed TiO2 films”		2012年7月29日～ 8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際 学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Tsutomu Miyasaka, Saori Morita, Wei Tzu-Chien, Masashi Ikegami	
“Nano-platinum coating for low cost, high efficiency counter electrode in dye-sensitized solar cell”		2012年7月29日～ 8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際 学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Tzi-Chien Wei, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	
“Synergistic Effect of Ultra Thin MgO and TiO2 Compact Underlayer for Dye-sensitized Solar Cells”		2012年11月25日 ～30日	2012 Material Research Society Fall Meeting	Nobuya Sakai, Masashi Ikegami and Tsutomu Miyasaka	
「プラスチックフィルム色素増感太陽電池の開発状況」		2013年3月24日	日本化学会第93春季年会 (2013)、立命館大学	池上和志	
「スプレー法による酸化チタンの高速低温成膜と色素増感特性」		2013年3月29日 (金)～31日(日)	電気化学会第80回大会(創立 80周年記念大会)	青山孝介, 池上和志, 宮坂力	
「延伸安定性を有するフレキシブル色素増感太陽電池の作製」		2013年3月29日 (金)～31日(日)	電気化学会第80回大会(創立 80周年記念大会)	梶田直人, 池上和志, 宮坂力	
「インドリン色素の共増感酸化チタン電極における吸着制御の検討」		2013年3月29日 (金)～31日(日)	電気化学会第80回大会(創立 80周年記念大会)	森田紗織, 池上和志, 宮坂力	
「酸化マグネシウム/酸化チタン緻密層を用いた高効率全固体色素増感太陽電池」		2013年3月29日 (金)～31日(日)	電気化学会第80回大会(創立 80周年記念大会)	酒井誠弥, 池上和志, 宮坂力	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
「色素増感太陽電池の作製と評価」		2012年8月16日	新島学園高校SSH	産総研つくば	
「色素増感太陽電池実験」		2012年8月19日	親子工作教室	千葉県科学館	
「色素増感太陽電池の性能評価」		2012年8月30日	電気化学セミナー3	慶応大学	
「プラスチック色素増感太陽電池の材料開発と実用化研究」		2012年8月31日	相模材料セミナー	公益財団法人 相模中央化学研究所	
「2012 色素増感太陽電池の全貌★徹底解説」		2012年9月12日	Electronic Journal 第1388回 Technical Seminar	連合会館(旧名称:総評会館)(東京・御茶ノ水)	
○その他					
(特許申請等)					
特許名		年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)	
「色素増感型太陽電池作製キット」		2013年1月11日	特許第5172166号	学校法人 桐蔭学園、ペクセル・ テクノロジーズ株式会社 宮坂 力、池上和志	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」	2010年4月～2013年3月	世界最先端研究支援強化プログラム、(総額28億円) リーダー:東京大学瀬川教授、サブテーマリーダー:桐蔭 横浜大学(担当:宮坂力)、本学の受託研究費、1億円 (NEDOが経費管理を担当)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2013年1月1日～12月13日	2013年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

石井 あゆみ (いしい あゆみ) 助教



出生年：1981(昭和56)年
 在籍：2011(平成23)年2月～
 最終学歴：青山学院大学大学院理工学研究科機能物質創成コース博士後期課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：「フェナントロリンを配位子とするPr(III)錯体の配位子-金属間のエネルギー移動に関する研究」(修士論文)
 「発光性ランタノイド錯体の構造制御と機能に関する研究」(博士論文)
 専門分野：分子分光学、有機光エレクトロニクス、錯体化学
 前職：ソニー(株)先端マテリア研究所研究員
 受賞・表彰：第1回SPring-8萌芽的研究アワード 優秀賞 (2008年)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」においては、有機無機ハイブリッド太陽電池の研究が順調に進み、特許出願を行うとともに、2012年8月には、ハイブリッド系として高い出力電圧を特長とする太陽電池作製技術を英国科学雑誌Chemical Communicationsに発表した。この成果は新聞にも報道され、太陽エネルギー学会からは総説の執筆依頼を受けてレビューを出版した。また、矢崎科学技術振興記念財団の助成による個人研究もスタートした。2011年度に増して、学会での講演を活発に行うとともに、日本化学会の有機系太陽電池シンポジウムのプログラム編集等をふくめた学協会の業務も依頼されて担当した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「有機・無機ハイブリッド太陽電池の開発(Development of organic-inorganic hybrid solar cells)」	共著	2012年10月	太陽エネルギー、38	石井あゆみ、宮坂 力	39-46頁
(学術論文)					
“A high voltage organic-inorganic hybrid photovoltaic cell sensitized with metal-ligand interfacial complexes”	共著	2012年8月20日	Chem. Commun., 48	Ayumi Ishii and Tsutomu Miyasaka	pp.9900-9002
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)配位積層構造を有する有機-無機ハイブリッド薄膜太陽電池の開発	2012年4月21日	第一回有機太陽電池ワークショップ(山形大学工学部)	石井あゆみ、宮坂力		
(口頭発表)“Organic-Inorganic Hybrid Thin Film Photovoltaic Cell with High Open-Circuit Voltage”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka		
“Extremely thin photoanodes consisting of TiO ₂ nanosheets for flexible solid state dye-sensitized solar cells”	2012年7月29日～8月3日	International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)(国際学会) California Institute of Technology, Pasadena, California, U.S.A.(国際学会)	Xin Li, Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka		
(口頭発表)「界面チタン錯体を用いた有機-無機ハイブリッド太陽電池の構築と積層構造制御」	2012年8月6日	第24回配位化合物の光化学討論会(東京大学リサーチキャンパス)	石井あゆみ、宮坂力		

(口頭発表)“Development of Hybrid Photovoltaic Cells with Organic-Inorganic Coordination Compounds”	2012年9月11日	40 International Conference on Coordination Chemistry (ICCC40) (Valencia, Spain)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
(口頭発表)“Development of Organic-Inorganic Hybrid Photovoltaic Cells with Metallocene Molecular Complexes”	2012年10月10日	PRiME 2012 (第6回日米合同大会) (Honolulu, Hawaii)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
(口頭発表)“Development of Thin-Film Photovoltaic Cells with Organic-Inorganic Hybrid Structures”	2012年10月20日	日中知能材料学会 (成都、中国)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
(口頭発表)“Control of Molecular Arrangement for High Voltage Organic-Inorganic Hybrid Photovoltaic Cells”	2012年10月28日	The 7th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (National Taiwan Univ., Taiwan)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「配位積層構造を有する有機-無機ハイブリッド薄膜太陽電池の開発」	2012年4月21日	第1回有機太陽電池ワークショップ	山形大学工学部百周年記念会館 (山形県米沢市)
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
有機無機積層構造からなる光電変換素子とその製造方法	2012年6月28日	特願2012-145021	発明者:宮坂 力、二瓶あゆみ 出願人:学校法人桐蔭学園
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
公益財団法人矢崎科学技術振興記念財団	2012年4月～2013年3月	2011 (H23) 年度『研究助成』	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
19th International Conference on the Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-19)での発表	2012年7月29日～8月4日	California Institute of Technology (CA, USA)	
PRiME 2012 (第6回日米合同大会)での発表	2012年7月29日～8月4日	Honolulu (Hawaii)	
日中知能材料学会での発表	2012年10月19日～22日	成都 (中国)	
The 7th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cellsでの発表	2012年10月26日～29日	National Taiwan Univ. (Taiwan)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「新型太陽電池の開発」	2012年7月31日	日刊工業新聞	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、光化学協会、電気化学会、錯体化学会、複合系の光機能研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～現在	電気化学会関東支部幹事

法科大学院 (Law School)

井口 寛二 (いぐち かんじ) 教授



出生年 : 1945(昭和20)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴 : 東京教育大学
 専門分野 : 労働法
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会所属)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
受講生に授業に積極的に参加させること	2005年以降	講義方式の講義において、3分の1の時間だけ1人または2人の院生にメモを作成させて、自ら講義させた。そして疑問点、問題点を教員が質問して、担当院生、受講者に答えさせた。これは、院生の授業参加のほか、受講者に講義に興味を抱かせた。更に、院生に発表させることによって、院生一般が理解出来ないところ、共通の弱点が明らかになった。
受講生に数多く起案させること	2006年以降	ゼミ方式の講義において、可能な限り毎回課題を出して、講義前までに起案として提出させる。講義前に添削して院生に返した。講義において院生は戻された起案を参考にして講義を聴くこと、また講義内容は主として起案において、理解不足であること、重要な論点であることに説明の時間を割いた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
労働法講義		論点、考え方が判るように作成
労働法主要判例綴り(3部)		事実関係、論点が判るように判例を編集

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1975年4月～	第二東京弁護士会所属弁護士
1998年4月～	警察大学校講師
2003年4月～	財団法人トステム建材産業振興財団評議員
2003年4月～	財団法人日弁連法務研究財団所属評価委員
2006年4月～	財団法人労災年金福祉協会理事
2006年4月～	日本弁護士連合会 法科大学院センター委員
2006年4月～	財団法人労災保険情報センター理事
2007年6月～	財団法人民事法務協会理事

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
専門分野：商法、金融商品取引法
前職：平成国際大学法学部助教授
学内役職等：法科大学院 教務委員長
留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
非常勤講師：大宮法科大学院大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2012年度	商法、会社法等の法制度の細部のみにとらわれるのではなく、常に各法における制度の位置づけ、趣旨、論理を重視し、制度を根本から理解させることに努める。試験等においても導き出された結果ではなくむしろ「なぜそうなるか」という論理性を重視する。また、実例を用いながら、これらの法が現実社会でいかに運用されているかという実務的側面からのアプローチも行うことで、理解を深める試みを行っている。教室では講義形式を基本として、双方向の対話形式を用いながら授業を進めている。また Syllabusnet(学習支援システム)を利用しながら、教室外における学生との双方向の対話を行うよう努めている。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略
平成17年会社法の施行後に明らかとなった理論的問題点および条文間の齟齬について検討を行うとともに、以前より継続しているフランスの公開買付事例についての研究も継続して行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 学内役職等：ミディエイション・交渉研究所センター長 (2012～)
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

岡田 泰亮 (おかだ やすあき) 教授



出生年 : 1945(昭和20)年
在籍 : 2004(平成16)年4月～
最終学歴 : 早稲田大学法学部
専門分野 : 取引法、民事法
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
弁護士法5条研修講師		
司法書士の簡裁代理権付与の能力担保研修講師		

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2012～)
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
現役弁護士であることを活かした、実務に直結する授業を実施するように心がけた。特に、ネットビジネスにおける最新の情報を、新聞記事等のメディア情報にとどまらず、ネット上のブログ情報も含めて、随時、学生に提供し、また、当該情報をそのまま、学生が勤務先等の実務で利用できるように、詳細なレジュメ、解説資料、官公庁のガイドライン等を配布したが、その目論見は、概要欄にそのまま引用した、直近の授業アンケート(2009年7月)の内容を見る限り、成功したと思われる。	2009年7月	アンケートから抜粋 ・実務家の経験を十分に生かした授業だったと思う。 ・学者教員の細かい議論とはちがう、大雑把のようだが生の迫力にみちた講義でした。 ・楽しく、ためになる授業でした、ありがとうございました。 ・「電子商取引と法」は、初めは全く期待しないで受けたものの、実務の話や試験の話聞いて大変楽しかった。授業については、特に個人情報の分野について何となく知っていた・・・というものが、興味を持って勉強できたように感じます。 ・レジュメが分かりやすく、分量も適切であり、後々まで役立つ内容のもので良かった。今まで受講した講義の中で、最も仕事に直結した内容でした、ありがとうございました。
2.作成した教科書、教材、参考書		
新・第三世代ネットビジネス(文芸社刊)	2005年11月	電子商取引を巡る諸問題について解説した書籍であり、一般に販売されているが、元々は、本学における「電子商取引と法」の授業用に書き起こした書籍となっている。
おとなのIT法律事件簿(インプレスR&D)	2013年3月	2011年8月より読売オンライン上で連載している法律コラムを書籍化したものであり、現実社会とIT法務の密接な関連を説明する際の副教材として利用している。
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
講演:「ネット上の広告・キャンペーン規制について」	2012年7月12日	株式会社電通 主催
研修:「コンプライアンスの基礎知識、景品表示法～近時消費者庁が発表した表示・懸賞に関する重要な文書について」	2012年7月20日	株式会社爽快ドラッグ 主催
講演:「企業におけるソーシャルメディアの活用とリスク管理について～具体的なケースを概観しながら～」	2012年7月23日	東日本旅客鉄道株式会社 主催
研修:「下請法について～PB商品における注意点、個人情報保護法全般について」	2012年8月17日	株式会社爽快ドラッグ 主催
研修:「薬事法について(リスクを事前に回避するために何を知っていれば良いか)」	2012年11月16日	株式会社爽快ドラッグ 主催
研修:「スマートフォンからの個人情報流出について」	2013年1月24日	ジー・プラン株式会社 主催
研修:「企業におけるソーシャルメディアのリスクについて」	2013年2月26日	株式会社キュービタス
研修:「労働時間・休日休憩に係わる労務リスク、企業とメンタルヘルス、労働契約法等について」	2013年2月27日	株式会社サイバー・コミュニケーションズ 主催
研修:「多発するSNS不祥事、授業員や企業はどう対応していくべきか～具体的な事件を概観しながら」	2013年3月12日	独立行政法人都市再生機構

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
おとなのIT法律事件簿(インプレスR&D)	単著	2013年3月	インプレスR&D	蒲俊郎	
(学術論文)					
「企業のTwitter・Facebook利用における問題点と対応策」	単著	2012年10月	みずほ総合研究所「BUSINESS TOPICS」	-	1-23頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員

小林 幸夫 (こばやし ゆきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年6月7日
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学法学部法律学科卒業
 学位：法学士
 専門分野：知的財産権法, 特に特許法, 著作権法, 商標法
 資格：弁理士(1979年登録), 弁護士(1995年登録, 小林・弓削田法律事務所)
 受賞・表彰：2011年日本弁理士会会務貢献にて表彰

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2004年～	知的財産権法を教えるに際して、実際の訴訟となった商品を持参すること、著作権侵害訴訟において対象となった書籍、写真、映像を実際にロースクール生にみせるなどして、授業への興味が沸くような工夫をしている。特に、特許などは抽象的な概念であることからわかりやすいような授業になるよう工夫している。よって、当方の研究室には様々な商品がおいてある。また、見学実習として、2年次には特許庁、3年次の夏期特別講義では、東京地方裁判所の知的財産権部の事件傍聴、担当部長の講話をお願いして実施している。知財高裁への見学も行っている。これらの見学により、合格後の仕事に対するイメージとモチベーションを高めることになれればと考えている。 エクスターンシップの事務所として平成17年に1人より、毎年年に1人を受け入れ、指導をしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジメや独自の教材を作成		レジメや独自の教材を作成しているが、教科書はまだ出版していない。教材としては、授業の終了のたびに行う小テストとその講評をするのが当方の授業の特徴である。これにより、あやふやな知識を地についた知識として身につけさせるようにしている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会、司法アクセス法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2008年～	日本知的財産仲裁センター仲裁人候補者
2012年4月～	独立行政法人 工業所有権情報・研修館 契約監視委員

鈴木 純 (すずき じゅん) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部
 専門分野：一般民事事件
 資格：弁護士

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2005年4月～	<p>小職が担当する主要な科目は民事法総合演習Ⅰである。</p> <p>本学では、仕事を持ちながら新司法試験受験を目指す学生の教育に力を入れており、小職が担当するクラスの学生も大半が、仕事を持ちながら、勉学に励む学生達であった。</p> <p>民事法総合演習Ⅰにおいては、現実が生じる具体的なケースを設問化した課題(全30問)を素材として、1年次に習得した民法・商法・民訴法の基礎理論を、いかに適用し、妥当な結論を導くか、そのための思考訓練を繰り返した。換言すれば、民事法総合演習Ⅰの目的は①民法・商法・民訴法の基礎理論を徹底的に身に付けさせ、体得させること、②応用能力の鍛錬にある。</p> <p>民事法総合演習Ⅰにおいて使用した課題の多くは、判例を素材とするものである。</p> <p>学生は、課題を読めれば、その課題が、どの判決を素材としたものか、おおよその見当が付く。従って、学生は、当該判決を検索し、当該判決の判決理由に即して、意見を述べる(後記するとおり、小職は事前配布された課題について、予め簡単なレポートを提出させ、事前提出されたレポートを基礎に授業を進めた)。</p> <p>しかしながら、多くの学生は、当該判決の判決理由を知ることをもって、「事足れり」とし、当該判決の判決理由が民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのか、その過程についてまで突きつめて考えていない。</p> <p>従って、小職の授業においては、「当該判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論と、どのように関連するのか」、「基礎理論からどのような思考経路を辿って、そのような判決理由に至ったのか」を考えさせることに力点を置いた。そのための具体的方法は下記のとおりである。</p> <p>ア 民事法総合演習Ⅰについては、4人の教師が4つのクラスを分担する関係上、各教師間の共通見解を形成する必要があるため、各課題について、ティーチャーズ・マニュアルが作成されている。しかしながら、各課題について作成されたティーチャーズ・マニュアルは優れたものが多いものの、各教師間の共通見解を示すという性格上、最大公約数的なものになりがちである。</p> <p>特に小職が担当したクラスの学生は大半が職業を持ちながら、勉学に励む方であったため、必ずしも十分に民法・商法・民訴法の基礎理論が身に付いていない学生も少なくなかった。このため、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルどおりに授業を進めたのでは、単に知識を伝えるだけに終始し、「基礎理論から考える」という最も重要な要素が欠落してしまう危険があった。</p> <p>そのような難点を克服するため、各課題すべてについて、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルを基礎としつつ、小職独自の授業マニュアルを作成した。小職独自の授業マニュアル作成にあたって、最も留意した要素は、「民法・商法・民訴法の基礎理論から考える」という点である。</p>

		<p>イ 各課題について、学生に事前にレポートを提出させた。前記したとおり、小職が担当したクラスの学生の大半は職業を持っているため、レポートの内容は、各課題の素材になっている判決の判決理由をそのまま引用した簡潔なものが多かった。それでも、事前に各課題の素材となった判決に目を通してもらうという意味では、メリットがあったと思う。</p> <p>ウ 現実の授業においては、各課題の素材となった判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのかについて、徹底的に議論した。議論の方法は、所謂「ソクラテス・メソッド」(対話方式)である。このやり方により、学生は、当該判決の判決理由がどのような基礎理論に基づくものなのかを理解するとともに、民法・商法・民訴法の基礎理論それ自体を体得することができたのではないかと自負している。</p> <p>エ 民事法総合演習Ⅰにおいて用いられている課題は、各々かなり複雑な事案を内容としている。各課題が、かなり複雑な事案を内容としているだけに、各課題に即して授業を進めると、民法・商法・民訴法の基本原則が看過されてしまうおそれがある(たとえば、不法行為に関する課題について言えば、事例解析に相当のエネルギーを要し、「契約法と不法行為法の相異」という不法行為法の基本問題への考察が抜け落ちてしまう危険がある)。</p> <p>このため、必要と思われる課題については、小職独自に基本問題を作成し、これも小職独自の基本問題に関するマニュアルを作成した。この方法により、学生は、どんな複雑な事案であっても、基本原則に立ち帰って考えるならば、適切な結論が導き出せるということを体得できたのではないかと考えている。</p>
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書、参考書は作成していない。作成した教材の概要は右記のとおりである。	2005年4月～	<p>(1)1記載のとおり、30課題すべてについて小職独自の授業マニュアルを作成した(学生には配布していないので、厳密な意味では教材とは言えないかもしれない)。</p> <p>(2)各課題の素材となっている判決の判決理由を、より深く理解してもらうため、判例解説(最高裁判所判例解説を用いることが多かった)、関連する論文等を教材として配布した。</p> <p>(3)1記載のとおり、課題によっては、小職独自に基本問題を作成し、学生に配布し、基本問題ごとに小職独自の授業マニュアルを作成し、学生に解説した。</p> <p>(4)課題によっては、当該課題に関連する関連問題を作成し、学生に配布し、学生に解説した。</p>
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2005年4月～	<p>教育方法・教育実践に関する発表、講演は特段に行っていない。ただし、平成17年4月1日以降平成18年3月31日までは、毎月1日開催される教員研修会において、民事法総合演習Ⅰ及びⅢに関する課題の作成、ティーチャーズ・マニュアルの作成等に当たってきた(平成18年4月1日以降平成19年3月31日までは、後記するとおり、小職が第二東京弁護士会副会長の職にあったため、教員研修会には参加できなかった)。</p> <p>平成18年4月1日以降は、民事法総合演習Ⅰについて新規の課題を作成するため、随時、担当教員と合議を重ね、新規の課題及びティーチャーズ・マニュアルを作成してきた。</p> <p>また、平成21年3月以降は民法の基礎理論を体得させるべく、任意参加のゼミを開催している。</p>

5.その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年4月～	<p>(1)1ないし3においては、民事法総合演習Ⅰについて述べたので、本項においては小職が担当するもう一つの課目であるエクスターンシップについて述べる。</p> <p>(2-1)小職はエクスターンシップにおいては民事手続、刑事手続の概要を体得してもらうことに主眼を置いている。民事訴訟法、刑事訴訟法の教課書を読み、また授業を受けるだけでは、民事訴訟手続、刑事訴訟手続を完全に理解することは困難だからである。</p> <p>(2-2)このため、小職はエクスターンシップにおいては学生に実際の民事法廷、刑事法廷を必ず傍聴させるようにしている。民事法廷、刑事法廷を傍聴することにより、教課書を読むだけでは理解できなかった訴訟手続を簡単に理解することが可能になるからである。また、特に刑事法廷の傍聴については、刑事手続の理解に資するだけでなく、実際に発生した刑事事件に触れることにより、事件それ自体に対する興味を抱かそう、実務家法曹への意欲をかきたてる効果も期待できるからである。</p> <p>(3)エクスターンシップにおいては、法廷傍聴以外に、小職の事務所において、係属中の事件、既済の事件について記録(ほとんどが民事事件の記録)を読んでもらうことが多い。訴状、答弁書、準備書面等の書き方を学んでもらうとともに、実際に発生した民事事件の姿に触れていただき、紛争解決のため、弁護士、裁判所がどのような努力をしているのかを知っていただくためである。</p> <p>(4)その他、数は多くはないが、法律相談への立ち会い、簡単な文書(たとえば内容証明郵便)の起案などをしていただくこともある。</p> <p>(5)いずれにせよ、エクスターンシップにおいては、実務家法曹の仕事に興味を抱いていただくことを主眼に行っている。</p>

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2002年1月～	東京地方裁判所鑑定委員

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
在 籍 : 2007(平成19)年4月～
最 終 学 歴 : 東京大学法学部
専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
前 職 : 東京高等裁判所判事

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験審査委員(商法)	
	全農福岡パルライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

Ⅳ 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

行方美彦 (なめかた よしひこ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2010(平成22)年4月～
最終学歴：中央大学法学部
専門分野：民法(特に不動産取引法)
前職：いちょう坂法律事務所
資格：弁護士(第二東京弁護士会)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	東京簡易裁判所民事調停委員
2008年～現在	(財)全国中小企業取引振興協会下請適正取引推進センター調停人候補者
2009年～現在	災害復興まちづくり支援機構代表委員

西本 靖宏 (にしもと やすひろ) 教授



出生年：1968(昭和43)年
 在籍：2003(平成15)年4月～
 最終学歴：明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 Master of Legal Institutions (University of Wisconsin)
 学位論文：会社合併の法的構造と課税理論
 専門分野：租税法、行政法
 前職：大分大学経済学部 助教授
 留学：University of Wisconsin Law School(97～99年)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
租税特別措置法35条1項に定める居住用財産の特別控除の適用が認められるかどうか争われた東京高裁平成22年7月15日判決について研究を行い、論文を執筆し、判例時報に収録された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「同一建物に居住しその敷地を共有する者の中で、土地建物を分割し、一方が分割取得した建物部分を取り壊し、その敷地部分を第三者に譲渡した場合において、租税特別措置法35条1項(平成18年法律10号による改正前のもの)の適用が認められた事例」	単著	2013年1月	判例時報2166号		152-156頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」 専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2012年7月	財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所	全国市町村国際文化研修所(大津市)		
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」 専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2012年8月	財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所	市町村職員中央研修所(千葉市)		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
租税法学会、公法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年8月～現在	一般社団法人アコード租税総合研究所研究顧問
2012年10月～現在	租税法学会理事

廣江 健司 (ひろえ けんし) 教授



出生年：1948(昭和23)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：早稲田大学大学院法学研究科修士課程
 学位：法学修士
 学位論文：植物新品種の国際的保護
 専門分野：国際私法、国際取引法、国際民事手続法
 前職：東京大学助手、九州国際大学法経学部助教授
 資格：弁護士(第一東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義において、レジュメを事前に配布し、双方向の授業形式により、学生の知的好奇心を喚起しつつ、議論の深化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの作成		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義用に、毎回、1200字詰め約20枚の参考文献を列举しつつ、図示するなどの工夫を施したレジュメを作成し、これを事前に配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
FD		学内のFDにおいて、積極的に意見交換をした。
4.法律実務教育に関する特記事項		
その他		実定法上の解釈論について学説上の論争の概要を講義し、判例の原文を読解し、そのうえで、判例が学説に対してどのように応説しているかを検討の中心的課題とした。

福井康佐（ふくい こうすけ）教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2012(平成24)年4月～
最終学歴：学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位：博士(法学)
学位論文：「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野：直接民主制・憲法訴訟
前職：大宮法科大学院教授
学内役職等：法務研究科法務専攻長(2012～)
非常勤講師：大宮法科大学院大学

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
憲法訴訟の研究を引き続き行う。本年度は、文面審査における明確性の原則を、判例を中心に分析し、その成果は、大宮ローレビュー第9号に発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「法令の明確性に係る三段階の審査」	単著	2013年2月10日	大宮ローレビュー第9号		101-131頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
憲法理論研究会、比較憲法学会

宮島里史 (みやじま さとし) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院博士後期課程
 学位：法学修士(中央大学)
 Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
 学位論文：弁護権の意味と機能(中央大学)
 Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
 Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
 専門分野：憲法、刑事訴訟法、少年法
 留学：Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
アメリカ合衆国における公設辩护人制度の研究(未発表)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「刑事訴訟法基本判例解説」	共著	2012年11月	信山社	渥美東洋、椎橋隆幸 宮島里史	第72、166、169、170、180判例

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年2月～現在	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2003(平成15)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：フランス第5共和制における「違憲審査制」
専門分野：憲法
前職：青森中央学院大学経営法学部専任講師
学内役職等：学務部副部長 (2012～)
留学：ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略

2011年度に引き続き、憲法裁判制度の研究を行った

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会

吉田 宣之 (よしだ のぶゆき) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学位：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程修了
 学位論文：違法性の本質と行為無価値
 専門分野：刑法
 前職：武蔵野短期大学国際教養学科 専任教授
 留学：ルードウィッヒ・マクシミリアン大学法学部刑事法研究所、
 レーゲンスブルク大学法学部刑事法研究室、ヴェリツブルク
 大学ヒルゲンドルフ研究室
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学問と実務の融合 既修者と未修者の知識差の克服		ロースクールの講義には、左記のような克服されるべき諸問題がある。これを克服するために、種々工夫、例えば、講義の前半を基礎、後半を応用と区分する等試みている。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「論文の書き方」について	2013年1月12日講演	かながわ自由民主党政治大学校にて、清水幾太郎著「論文の書き方」を批判的に検討しながら、理想の論文の作成にしかたについて話した。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
オフィスアワーの活用 論文特別指導		我校には未修者(完全な意味での)が多いので、日頃の問題点については、オフィスアワーを利用して、又、特別の時間を作り、論文作成について直接指導している。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2010年度以来の研究成果と、弁護士としての実務経験とを融合して、「刑法総論」の体系書を執筆中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
クラウス・ロクシン 著「刑法総論第一巻(第3版)二十」	単著	2013年3月	桐蔭法学 第19巻2号	-	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
法の精神	2012年12月1日	かながわ自由民主党政治大学校	かながわ自由民主党県連本部会議室		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日本生命倫理学会、東京大学刑事判例研究会、中央大学刑事判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	神奈川県学生柔道連盟会長
2009年4月～現在	自由民主党かながわ政治大学校校長
1975年～現在	財務省税関研修所講師

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2012年3月～2013年4月	東京地方裁判所立川支部原告訴訟代理人(民事系)
2012年3月～2012年8月	秋田家庭裁判所本荘支部調停代理人(家事系)
2012年10月～2012年11月	川崎簡易裁判所原告訴訟代理人(民事系)

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年 : 1972(昭和47)年
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
専門分野 : 刑事法、労働法、会社商事関係全般等
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
司法修習委員会		指導全般(模擬裁判立会い等)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター検討部会委員
2006年4月～現在	司法修習委員会委員
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 理事
2006年6月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2007年8月～現在	メディアステック(株) 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 常務理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 東京大学法学部
専門分野 : 会社法・商法
前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上ノタメの議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年：1974(昭和49)年1月9日
在籍：2010(平成22)年4月～
最終学歴：明治大学法学部
学位：法学士
専門分野：知的財産法, 企業法務, 広告規制法
資格：弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐える自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
社外監査役	2007年6月～現在	株式会社ゼンリン

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年2月～現在	日本弁理士会 能力担保研修講師

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
学位 : 法務博士
学内役職等 : 法科大学院教育助手
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)

(2013年度 新任教員)

早川 和宏 (はやかわ かずひろ) 教授



出生年：1971(昭和46)年
在籍：2013(平成25)年4月～
最終学歴：成城大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学
学位：修士(法学)
学位論文：社会裁判制度—ドイツにおける成立と発展—
専門分野：行政法、情報公開法、公文書管理法
前職：大宮法科大学院大学准教授
学内役職等：研究推進部副部長(2013～)
資格：弁護士(法律事務所フロンティア・ロー)
非常勤講師：大宮法科大学院大学、学習院大学大学院人文科学研究科

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		講義を主体とする科目については、受講生に対して質問をすることにより、双方向となるよう心掛けている。 質問については、①予習をすれば答えられるもの、②テキスト等を予習するだけでは対応できず、法的思考を要するもの、③既に学習済みであり復習が必要なもの等を織り交ぜるようにしている。 授業評価に対しては、コメントを返すようにしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		講義を主体とする科目については、1週間前までにレジュメを作成・提示している。 レジュメには、「Q」を付し、講義で答えられるようにしておくことを要求している。 本年度から担当している公法総合演習1については、判例を中心に取り上げるものであり、事前にレジュメを配布するとレジュメしか読まない(判例集等を読んでこない)受講生が出てくる可能性が有ることから、レジュメの事前配布をやめ、事後的に復習用の資料を提示するようにしている。

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
2012年度は、公文書管理法に関する研究を継続するとともに、行政法学・憲法学に関する論考を執筆した。 公文書管理法に関する研究については、国文学研究資料館、全国市町村国際文化研修所、佐賀県、三豊市、藤沢市、湘南九市文書実務研究会、相模原市において講演を行った。 行政法学に関する論考としては、「原子力損害と国家賠償」を大宮ローレビュー9号に、「非公開情報の単位」を行政判例百選(6版)に、それぞれ公表した。また、日本評論社から刊行予定の『新基本法コンメンタール情報公開法・個人情報保護法・公文書管理法(仮)』において、公文書管理法の11～13条、23～27条を、法律文化社から刊行予定の『現代教育法の争点(仮)』において「親の教育情報請求権の存否」を、それぞれ執筆した。 憲法学に関する論考としては、第一法規から刊行された『論点体系判例憲法』において、23条、26条を担当した。 今後も、「実務に還元できる理論の構築」を、公文書管理法、行政法学等の分野で追及していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
行政判例百選 I [第6版]	共著	2012年10月20日	有斐閣	宇賀克也、交告尚文、山本隆司	88-89頁
(学術論文)					
原子力損害と国家賠償	単著	2013年2月	大宮ローレビュー9号		61-83頁

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「アーカイブズと法概念」	2012年7月19日	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 平成24年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)	国文学研究資料館
「公文書管理条例の意義と策定上の留意点」 「自治体公文書管理の今後の展開と課題」	2012年7月16日・17日	全国市町村国際文化研修所 平成24年度政策実務系研修「自治体公文書管理」	全国市町村国際文化研修所
「過去の記録(歴史的文書)を未来へ伝えるー佐賀県公文書館の役割ー」	2012年8月17日	佐賀県・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 平成24年度公文書館機能普及セミナーin佐賀「つなぐ力:公文書(いま)から歴史的な文書(みらい)へ」	ホテルグランドはがくれ
「公文書管理法と文書館～行政法の立場から～」	2012年9月7日	三豊市文書館 三豊市職員一般研修(アーカイブズ研修)・三豊市文書館講演会	三豊市高瀬町農村環境改善センター
「公文書管理法の趣旨と公文書管理条例の必要性及び藤沢市における公文書管理の課題について」	2012年11月30日	藤沢市文書館 藤沢市職員研修	藤沢市労働会館ホール
「地方公共団体における文書管理と歴史公文書等の取扱い」	2013年2月12日	湘南九市文書事務研究会 平成24年度湘南九市文書事務研究会第2回定例研究会(会員市:小田原市、平塚市、茅ヶ崎市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、三浦市、南足柄市、横須賀市)	横須賀市職員厚生会館4階第3研修室
「できる課長の公文書管理～今求められる地方自治体の公文書管理の在り方～」	2013年2月15日	相模原市 相模原市公文書管理所属長研修	相模原市職員研修所大研修室
「個人情報保護制度をめぐる最近の動向」	2013年3月26日	川口市 川口市個人情報保護制度に関する研修会	川口市役所本庁舎5階大会議室

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本公法学会、日本財政法学会、日本自治学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
平成21年4月～平成25年3月	埼玉県情報公開審査会委員	
平成21年4月～平成25年3月	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会調査・研究委員会委員	
平成22年4月～現在	草加市情報公開・個人情報保護審査会委員	
平成22年4月～現在	高エネルギー加速器研究機構史料委員会委員	
平成22年4月～現在	地方公共団体公文書管理条例研究会座長	
平成24年4月～現在	日本アーカイブズ学会委員	
平成24年5月～現在	相模原市情報公開・個人情報保護・公文書管理審議会委員	
平成24年11月～現在	川口市情報公開・個人情報保護運営審議会委員(副会長)	
平成25年4月～現在	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会役員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
公益財団法人日弁連法務研究財団 法科大学院認証評価事業評価員	2012年10月1日～2014年9月30日	公益財団法人日弁連法務研究財団

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
平成22年2月～現在	弁護士(第二東京弁護士会)

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井 理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位：博士(薬学)
 学位論文：ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専門分野：分子生物学、細胞生物学
 前職：慶応義塾大学医学部助手
 留学：St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資格：薬剤師免許

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
2012年度は、マウス髄芽腫細胞株をヌードマウスの皮下に移植し、PARP阻害剤投与によりサイズが縮小した腫瘍を用いて、TaqManアッセイによるmicroRNA発現解析を行った。384穴プレート24枚を解析し、PARP阻害剤によって発現が上昇するmicroRNAを絞り込んだ。現在、このmicroRNAのターゲットタンパク質の同定を試みている。本研究により、PARP阻害剤が抗腫瘍効果を示すメカニズムを明らかにできると考えている。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(ポスター発表) “NBS1 participates in the regulation of translesion DNA synthesis through Rad18 and WRN”	2012年8月	Gordon Research Conference “Mutagenesis” Newport (USA)	Junya Kobayashi, Hiromi Yanagihara, Akihiro Kato, Kenshi Komatsu.
(口頭発表・座長) “Role of MRE11 complex in regulation of ATM activation”	2012年11月	京大放生研放医研国際シンポジウム (京都)	Junya Kobayashi, Hiroko Fujimoto, Takeo Kato, Shinya Matsuura, Kenshi Komatsu
(口頭発表) 「ATMファミリーキナーゼの多様な制御機構と組織・動物種特異的な役割」	2012年12月	第35回日本分子生物学会年会ワークショップ (福岡)	小林純也、藤本浩子、加藤竹雄、松浦伸也、小松賢志
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
第26回基礎医学医療研究補助金 髄芽腫におけるPARP阻害剤の抗腫瘍効果と薬剤耐性に関与するmicroRNAの発現解析	2011年10月～2012年9月	財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	
基盤研究(B) nucleolinによるクロマチンリモデリングを介したゲノム安定性維持機構の解明	2012年4月～2015年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
(その他特記事項)			
京都大学放射線生物研究センター重点領域研究(平成23～26年度) マウス脳腫瘍におけるDNA修復経路と効果的化学療法剤の検討			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

吉田 薫 (よしだ かおる) 専任講師



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略			
<p>受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユウレイボヤ精子誘引物質の受容体同定候補の同定、機能解析を行い、またマウス精嚢分泌タンパク質の機能に関しては因子のノックアウトマウス作成に成功し表現系解析が終了し、現在論文投稿中である。精子無力症の基礎研究に関しては臨床検体の免疫染色による検査症例を200検体取得した。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、雄性不妊の原因が精子形成不全であり、そのメカニズムについて検討し、論文投稿中である。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
「マウス受精能獲得抑制因子SVS2の精子膜コレステロール維持作用」	2012年9月13日	日本動物学会第83回大会(大阪大学)	荒木直也、河野菜摘子、吉田 薫、宮戸健二、吉田 学
“Apigenin Inhibits Tumor Formation of Human Breast Cancer Cells: Nude Mouse Xenograft Tumor Assay”	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Tatsuya YAMADA, Keitaro HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
“Effects of Polyphenols on Adipogenesis”	2012年11月10日	7th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2012, Toin University of Yokohama	Shunsuke IIZUKA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
“SVS2 inhibits sperm capacitation by regulating the efflux of cholesterol from sperm plasma membrane”	2012年11月13日	The International Symposium on the Mechanisms of Sexual Reproduction in Animals and Plants(Nagoya)	Araki, N., Yoshida, K. , Kawano, N., Miyado, K., Yoshida, M.
“Testicular Zinc Finger Transcription Factor Zfp318 Deficiency Results in Defective Spermiogenesis in Mice”	2012年12月14日	The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Fukuoka)	Kaoru YOSHIDA , Norihisa SAKO, Masamichi ISHIZUKA, Eri OHTSUKA, Atsuto INOUE, Mirei ODAKA, Hirotaka OHSHIMA, Norihisa TAMURA, Tadashi BABA, Hiromi HAGIWARA
“The Effects of Polyphenols on Adipogenesis Depends on the Structure of Them”	2012年12月11日	The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Fukuoka)	Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA, Kaoru YOSHIDA
「カタユウレイボヤ精子誘引物質SAAFの卵からの放出にかかわる分子の解析」	2013年3月16日	日本動物学会第65回関東支部会(東京工業大学大岡山キャンパス)	坂本 恵香、吉田 薫、吉田 学
「精子機能調節における精子特異的Ca ²⁺ チャンネルCatSperの働き」	2013年3月23日	第7回 鞭毛・ダイニン機能研究会(東大本郷キャンパス・理学部2号館)	小野千紘、坂本恵香、丸山虎輔、吉田 薫、吉田 学

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金	2010年度～2013年度	若手研究(B)、精囊分泌タンパク質による精子膜構造の制御を介した受精能抑制機構の解明22791502、研究代表者
科学研究費補助金	2011年度～2013年度	基盤研究(C)、ARTにおける適切な治療方針決定のための新しい精液検査法に関する研究23592383、研究分担者
科学研究費補助金	2012年度～2014年度	萌芽研究、ホヤ精子誘引物質の合成・分泌経路からみた誘引物質の種特異的分化機構の解明24651240、研究分担者

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本プロテオーム学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年9月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2012年10月～2013年10月	男女共同参画学協会連絡会運営委員

2012年度 退職教員

(医用工学部・臨床工学科)

飯田 行 恭 (いいた ゆきやす)



出 生 年 : 1949(昭和24)年
在 籍 : 2002(平成14)年4月～2013(平成25)年3月
最 終 学 歴 : 九州大学工学研究科応用物理課程修了
学 位 : 医学博士
学 位 論 文 : 一般化回帰分析を用いた検査値予知モデル
専 門 分 野 : 医療情報学
前 職 : NTTサイバースペース研究所画像情報処理研究グループ
主幹研究員
非 常 勤 講 師 : 東京医療保健大学
受 賞 ・ 表 彰 : 逋信医学優秀論文発表者賞(1995)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)講義では、パワーポイント等のプレゼンテーションソフトを使い、アニメーション機能を多用して、直感的な理解できるよう工夫した。	2005年4月～	情報処理やシステム工学の授業では、処理の流れを理解させるのが難しい。そこでアニメーション機能を使って、ステップ毎に処理結果がどのように変わるかを示すことにした。子試みは、学生が直感的に処理の流れを把握するのに役立っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)上記の教育を行うため、教材は、受講者が各自Webのサイトから電子ファイルとしてダウンロードさせることにした。このことで紙資源の節約にも効果があった。	2005年4月～	教材のダウンロードは当初は、教員自身が自宅に立ち上げたサーバーで行うことにしたが、メンテ等に時間がかかるため、途中からMicrosoftが無料で提供するWeb上のストレージサービスSkydriveを利用した。このサービスより、各学生は、パスワードを入力することにより簡単に教材をダウンロードできる。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)MicrosoftやGoogleが提供しているネットサービスは教育に有用なツールとなることがわかったので、その利用方法について2010年6月発行の桐蔭論叢に投稿した。	2007年4月～	巨大なネットセンターをネットで結び、データセンターに設置しているコンピュータの利用を行う、クラウドコンピューティングは、これからの教育に測り知れない影響力を持っている。今期間の検討では、クラウドサービスの1つであるWebストレージを教育に利用した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)臨床工学科学学生の大半は、臨床工学技士の国家試験を受験するので、学生の受験をサポートするための、研究室でe-Learningシステム上の開発を行った。	2006年4月～2009年3月	開発には2年間を費やし、臨床工学技士国家試験、ME(Medical Engineer)実力検定それぞれ10年分の過去問を含むシステムであったが、評価試験では、医学系の暗記問題の学習には適するが、電気・電子・情報関連の計算問題には適さず、本格的導入には至らなかった。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
電子情報通信学会、医療情報学会、産業衛生学会、公衆衛生学会

黒澤美緒 (くろさわ みお) 助教



出生年 : 1983(昭和58)年
在籍 : 2010(平成22)年8月～2012(平成24)年12月
最終学歴 : 藤田保健衛生大学短期大学専攻科
学位 : 保健衛生学士(学位認定授与機構にて取得)
専門分野 : 生体機能代行装置学、臨床工学
前職 : 石心会 さいわい鹿島田クリニック
資格 : 国家資格;臨床工学技士、臨床検査技師
認定資格;ME2種

II 研究活動

○2010年度の研究活動概略

血液透析用ハルーン付DLC再循環率と流れ解析、人工心肺回路内発生条件に関する基礎検討

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

体外循環技術医学会、人工臓器学会、日本透析医学会、医工学治療学会、日本臨床工学技士会

(工学部・電子情報工学科)

高橋宗雄 (たかはし むねお) 教授



出生年 : 1944(昭和19)年
在籍 : 1991(平成3)年10月～2013(平成25)年3月
最終学歴 : 千葉大学工学部電気工学科
学位 : 工学博士
学位論文 : ソフトウェアの信頼性評価法に関する研究
専門分野 : ソフトウェア工学、情報システム学、コンピュータ科学
前職 : 日本電信電話(株)ソフトウェア研究所主幹研究員
学内役職等 : 情報・機械工学専攻長、電子情報工学科長 (2012～)
非常勤講師 : 鳥取大学工学部(1995)
徳島大学工学部(1997)
受賞・表彰 : 情報処理学会論文賞(1984)
日経品質管理文献賞(1991)
精密測定技術振興財団品質工学賞(論文賞)(1997)
ISO/IEC JTC1/SC7 Achievement Award(1999)
情報処理学会標準化貢献賞(2000)
プロジェクトマネジメント学会論文賞(2006)

吉田 清 範 (よしだ きよのり) 准教授



出生年：1949(昭和24)年
在籍：1989(平成元)年4月～2013(平成25)年3月
最終学歴：東京大学大学院修士課程
学位：工学博士
学位論文：初等的図形の交差判定法—計算量及び計算精度の立場から—
専門分野：量子光エレクトロニクス
前職：山梨大学助手

II 研究活動

○2012年度の研究活動概略					
金属ナノ粒子の表面プラズモンは金属薄膜のと同じものと誤解していた事に気づいてKittelの教科書を読み始めたが、金属ナノ粒子のは縦波($E=-\text{grad } U$, 瞬間伝達波, 近接波), 金属薄膜のは横波($\text{div } E=0$, 遅延波, 遠方波)と全く異なるものであった. 真空中(電荷電流は存在)の電磁波は縦波と横波の重ね合わせで(磁場は $\text{div } B=0$ で横波のみ), 横波が光子として量子化され, 光子の交換で縦波の影響のVan Der Waals力(電気双極子間力)が説明される. 物質(双極子)中の電磁波の量子化には異論が多く, 近接場光学(ナノ構造物質中の光学で表面プラズモンも対象)では光子の概念が混乱している. NFC(近距離無線通信)や無接触給電では, 表面プラズモンと同じく, 電磁場を準静的に扱い, 遅延は適当(恣意的)に導入されるので, 見通しのよい理論が望まれている.					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「一変数非平衡定常状態の揺動散逸定理」	単著	2012年6月15日	桐蔭論叢 第25号		165-167頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
応用物理学会

山口大輔 (やまぐち だいすけ) 助教



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 2013(平成25)年4月～桐蔭学園中学部へ異動
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：Study on Autonomous Learning System Based on Intelligent Multiagent Techniques and its Applications
 専門分野：知能情報学、ソフトウェア工学
 学内役職等：工学系AO副委員長
 資格：高等学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(技術)
 高等学校教諭専種免許状(数学)、中学校教諭専種免許状(数学)、初級システムアドミニストレーター
 受賞・表彰：IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER Incentive Award

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
「ペア・プログラミングを用いた演習課題の自己プロセス改善管理」	2012年8月10日	私立大学情報教育協会「平成24年度ICT利用による教育改善研究発表会」(東京理科大学)	-
「Android 携帯端末を用いるための個人プロセス改善演習調査」	2012年9月12日～14日	フuzzyシステムシンポジウム2012 (名古屋工業大学)	山口大輔, 片山富美代, 新美礼彦
“The PSP Practice Support System used on The Android Personal Digital Assistant aim to improvement of XP”	2012年11月20日	The 6th International Conference on Software Computing and Intelligent Systems and 13th International Symposium on Advanced Intelligent Systems Kobe International Conference Center	山口大輔, 新美礼彦
“Research on XP approach using The Personal Software Process Practice”	2013年1月30日～2月1日	The Eighteenth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2013 (AROB 18th '13)	-
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「共同作業の伝達理解～ペア・プログラミングから見る役割分担～」	2012年8月13日	公立はこだて未来大学	公立はこだて未来大学 R791
○その他			
(その他特記事項)			
「平成24年度夏休み期間中の大学施設利用希望者の受け入れ」(2012年8月10日～15日)			
「フuzzyシステムシンポジウムマルチコア3:WF3座長」(2012年9月12日)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
人工知能学会、日本知能情報フuzzy学会、IEEE、IEEE SMC、IEEE Computer、ソフトコンピューティング研究会SENSE勉強会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2008年12月～現在	ソフトコンピューティング研究会SENSE勉強会東京版 幹事
2011年4月～現在	日本知能情報フuzzy学会学会誌編集委員

(スポーツ健康政策学部・スポーツ健康政策学科)

岡本真佐子 (おかもと まさこ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
在籍 : 2007(平成19)年4月～2013(平成25)年3月
最終学歴 : 大阪大学人間科学研究科博士後期課程単位取得退学
学位 : 修士(人間科学)
専門分野 : 文化人類学、文化政策、国際文化交流
前職 : 国士舘大学21世紀アジア学部 教授
留学 : トルコ・ボアヂチ大学歴史学部 客員研究員
英・オックスフォード大学東洋研究所 客員研究員

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実践を取り入れた授業展開 (文化プログラム、文化プログラムマネジメント)	2008年9月～	「文化プログラム」および「文化プログラムマネジメント」授業において、学外の専門家と共同して身体運動を伴う実践や、ジャーナリスト体験等を取り入れた授業を実施。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年12月～現在	国土交通省 交通政策審議会委員

時 本 識 資 (ときもと つねつぐ) 教授



出 生 年 : 1959(昭和34)年
在 籍 籍 : 2006(平成18)年4月～2013(平成25)年3月
最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科 修了
学 位 位 : 修士(体育学)、博士(政治学)
学 位 論 文 : 戦後日本におけるスポーツ行政構造と政策に関する研究
専 門 分 野 : スポーツ政策論
資 格 : 国会議員政策秘書資格

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事
2007年4月～現在	(在) 日本スポーツクラブ協会専門委員
2008年4月～現在	(独) 大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員

高橋 茉生 (たかはし まお) 助手



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2012(平成24)年4月～2012(平成24)年12月
最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ科学専攻修士課程修了
学位：体育学修士
学位論文：ラフミラーの非行少年キャンプにおける治療的要因に関する研究～援助の構造と内容から～
専門分野：野外教育
前職：明治学院大学教養教育センター健康・スポーツ科学研究室教学補佐
資格：四級小型船舶操縦士免許
サーフライフセービング オーストラリアリミテッド ブロンズメダル (Bronze Medallion)
日本ライフセービング協会 C級審判員
日本ライフセービング協会 ベーシックサーフライフセーバー
日本赤十字社 救急法救助員
日本ライフセービング協会 アドバンスサーフライフセーバー
中学校第一種教員免許(保健体育)
高校第一種教員免許(保健体育)
中学校専修教員免許(保健体育)
高校専修教員免許(保健体育)
四級アマチュア無線技士
財団法人全日本スキー連盟 スキー検定1級
コンフィダレーション モンディオール デス アクティビティーズ サブアクウォーターズ (CMAS) スクーバダイビング
オープンウォーターライセンス (1STAR DRIVER)
日本ライフセービング協会 CPR
日本赤十字社 水上安全法救助員
全日本スキー連盟 スキー準指導員
非常勤講師：尚美学園大学
受賞・表彰：第13回全日本室内ライフセービング選手権大会
女子200M自由形障害物レース2位 (2000)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本野外教育学会

(法務研究科)

清水 宏 (しみず ひろし) 教授



出生年 : 1969(昭和44)年
在籍 : 1999(平成11)年4月～2013(平成25)年3月
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位 : 法学修士
学位論文 : 懲罰的損害賠償を命じる外国判決および外国仲裁裁判の承認・執行
専門分野 : 民事手続法

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本民事訴訟法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、日本交渉学会、情報ネットワーク法学会

早坂 禎子 (はやさか とみこ) 教授



出生年：1944(昭和19)年
在籍：1998(平成10)年4月～2013(平成25)年3月
最終学歴：東北大学大学院法学研究科修士課程
学位：法学修士
専門分野：行政法
前職：東京大学法学部助手

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 教育内容・方法の工夫	2008年4月～	3年次選択科目として、行政手続と法を開講し、基本科目で習得した行政法の知識を展開させ、実務能力の養成にあてている。具体的問題の解決方法をさぐる実践訓練をこころがけている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
毎回自作した教材を配布	2004年4月～ 2008年4月～	憲法、行政法 行政法
とりあげる判例の調査官による雑誌掲載解説コピーを毎回配布	2004年4月～	公法総合演習用
事例演習問題のためのレジュメを毎回配布	2008年4月～	行政手続と法演習用

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、国際憲法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	会計検査院情報公開・個人情報保護審査会委員
2006年8月～現在	神奈川県医療審議会委員
2001年8月～現在	神奈川県国民健康保険審査会会長
2001年4月～現在	横浜市情報公開・個人情報保護審査会委員
2002年6月～現在	東京都中央区情報公開審査会々長

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(特別企画)

木嶋佳苗の研究

日時: 2012年9月22日(土)14:00~15:30

場所: メモリアルアカデミウム・ポロニアホール(地下2階)

講師: 北原みのり(ラブピースクラブ取締役)

河合幹雄(桐蔭横浜大学教授)

概要: 裁判傍聴記「毒婦」著者、北原みのり氏と犯罪学者である河合幹夫教授が語る。交際相手の三人の男性を殺害したとして起訴された木嶋佳苗の裁判員裁判を傍聴し、木嶋佳苗自身と、それをめぐる「騒動」も対象として「毒婦」を表した北原みのり氏の話聞く。聞き役は河合幹雄教授。犯罪学者、法社会学者として、手始めに、結婚詐欺師、連続殺人者という観点で、木嶋を見る。また、真実追求ということと、裁判員裁判のあり方についても問う。そして、最も厄介な問題でもあり、興味のある問題でもある性の問題について問う。

大学院って何だろう?

日時: 2012年9月22日(土)13:00~15:30

2012年9月23日(日)13:00~14:30

場所:

The Day1

- ・「色素と光のちからで電力を生み出す次世代型太陽電池の研究」
村上拓郎 先生(2005年 博士後期課程修了)
独立行政法人 産業技術総合研究所 太陽光発電工学研究センター
- ・「酵素センサー開発から実用化までのストーリー～沢山の難題がありました。それを解決するのが研究者の仕事ですし醍醐味です!～」
伊藤徹二 先生(2001年 博士後期課程修了)
独立行政法人 産業技術総合研究所主任研究員
東北大学大学院理学研究科 准教授
- ・パネルディスカッション

The Day2

- ・「大学院って何だろう?」
マッキン ケネスジェームス 先生(2001年 博士後期課程修了)
東京情報大学総合情報学部情報システム学科 准教授
- ・パネルディスカッション

(公開講座)

桐蔭横浜大学 医用工学部 ジュニア公開講座 -TOIN OPEN COLLEGE 2012-

日時: 2012年9月29日～11月24日(全3回) 各回14:00～16:00

場所: 桐蔭横浜大学先端医用工学センター棟2階 カンファレンスルーム

概要: 本学の専門教員が中心に、現代医療に用いられているさまざまな理工学技術について高等学校などで学ぶ物理学、化学、生物学などと結びつけながら、わかりやすく紹介する。

(第1回・9月29日)講師:医用工学部 助手 山内 忍

テーマ:「医療を支える工学技術」

(第2回・10月13日)講師:医用工学部 助手 蓮沼 裕也

テーマ:「微生物とヒトの世界」

(第3回・11月24日)講師:医用工学部 専任講師 大辻 希樹

テーマ:「からだを守る免疫の不思議な世界」

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2012(第7回)

The 7th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012

日時:2012年11月10日(土)9:15~17:45

場所:桐蔭メモリアルアカデミウム

Program Over View

1) Oral presentation

Presentation 1 : Mr. Ryo AKAMATSU, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Mr. Hideki ISHIGAKI, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Yoichi MARUSHITA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Ms. Saori MORITA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Mr. Michihisa SHIIBA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Mr. Yoshinori SUGIYAMA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Mr. Yohsuke UCHIDA, Faculty of Biomedical Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Ms. Akiko WATANABE, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

2) Plenary session —invited speakers—

Session1:“Soft Tissue Regeneration: From the Wound Environment to Functional Tissues”

Dr. Peter S. McFetridge

Assistant Professor, Department of Biomedical Engineering, University of Florida

Session2:“Design of Cell-recognizable Nano-biomaterials for ES/iPS Cell Proliferation and
Differentiation—Cadherin-based “Cell-Cooking Plate”—”

Dr. Toshihiro Akaike

Professor, Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology

Session3:“Tunisian Natural Bioresources in Pharmaceutical and Biomedical Uses: New
Opportunities”

Dr. El Akrem Hayouni

Associate Professor, Laboratory of Bioactive Compounds

Center of Biotechnology at Borj-Cedria Ecopark

Session4:“Integrated High Frequency Ultrasound/OCT system for IVUS Imaging Application”

Dr. Qifa Zhou

Professor, Department of Biomedical Engineering

University of Southern California

3) Oral presentation

Presentation 9 : Dr. Chihiro TSUTSUI, Research Scientist, Advanced Research Laboratories,
Tokyo City University

Presentation 10 : Dr. Yoshinori HAYAKAWA, Lecturer, TOIN University of Yokohama

Presentation 11 : Dr. Mutsuo ISHIKAWA, Lecturer, Faculty of Biomedical Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 12 : Dr. Shinobu YAMAUCHI, Assistant, Faculty of Biomedical Engineering,
TOIN University of Yokohama

4) Authors Present at Poster

BIOMEDICAL ENGINEERING — 23 posters

GENETIC ENGINEERING — 8 posters

LIFE and ENVIRONMENTAL SCIENCE — 6 posters

INFORMATICS and MECHANICAL ENGINEERING — 11 posters

(イベント/学内)

第14回おもしろ理科教室

日時： 2012年8月22日(水)10:00～16:00

場所： 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象： 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「さわれない黒いかべ！偏光って何だ？」

「未来の裁判」

「葉っぱの笛を鳴らしてみよう」

「壺の笛を鳴らしてみよう」

「生物の「光」をつくってみよう」

「サボテンのふしぎ発見」

「電気のでコインを飛ばそう」

「あなたのバランスは！？」

「あなたの動きをとらえる目の速さは？」

「なりきり裁判官」

「礼儀作法」

「車いすダンス&社交ダンス」

「体育館遊園地化計画」

「心臓の代わりをしてみよう」

「血液中の酸素の点数は何点？」

「ミクロの世界を探検しよう」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

特別授業「太陽の光で何で電気が作れるの？」

特別授業「気象キャスターによる身近な天気や環境のおはなし」

就活生を持つ親としての的確なアドバイスとは？

日時： 2012年11月17日(土)13:00～14:30

場所： 桐蔭横浜大学法学部棟301

講師： 福島直樹(採用コンサルタント)

概要： ①データから分析する、最新の2013年～2014年の就職活動の傾向と対策

②今どきの採用選考の実態について(体験ワーク有)

③就職指導の現場で見えてきた「苦戦する学生」4つの傾向と対策

④親だからこそできる、家庭での就職支援とは？

⑤桐蔭横浜大学での就職支援の取り組みについて

生活習慣改善プロジェクト

日時： 2012年12月3日(月)16:30～18:30

場所： メモリアルアカデミウム・ポロニアホール(地下2階)

講師： 小澤治夫(東海大学教授)

概要： 小澤教授がこれまで取り組んできた研究の成果を基に、学園の活性化と健康で元気な学生の育成を目指す。

(イベント/学外)

「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」

日時： 2012年7月14日(土)10:00～17:30

場所： 新都市ホール(そごう横浜店9階)

主催： かながわ発・中高生のための大学セミナー実行委員会

(神奈川県、神奈川県教育委員会、青山学院大学、神奈川大学、神奈川工科大学、
関東学院大学、慶應義塾大学、湘南工科大学、桐蔭横浜大学、東海大学、東京工芸大学
明治大学、横浜国立大学、横浜市立大学、(財)神奈川科学技術アカデミー)

内容： 医療技術体験(1)カラダを調べる

糖やアルコール代謝の仕組みを通して生命の不思議を考える。アルコールパッチテスト
では遺伝的な個性の違いを体験。

医療技術体験(2)カラダを治す

手術で使用される電気メスで模擬手術体験。他にも実際に使われている医療機器につ
いて学ぶ。

「サイエンスフェスタ」

日時： 2012年8月10日(金)、11日(土)9:30～15:30

場所： 東芝科学館

主催： 神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、川崎市幸区役所、
神奈川県青少年科学体験活動推進協議会、財団法人神奈川科学技術アカデミー

内容： 生物の光を作ってみよう

ルミノール、ヘミンを使った発光の体験。

ヘミン溶液で半紙に絵や字を書いて、暗箱の中でルミノールをかけると・・・？

「ヨコハマ大学まつり2012」

日時： 2012年9月29日(土)、30日(日)11:00～18:00

場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア横浜周辺

主催： 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

内容： ドイツ語でシューベルトの「魔王」を聴く

「幸せの国ブータンの魅力 ～小国のアイデンティティから学ぶもの～」

日時： 2012年10月6日・13日(土)13:00～16:10

場所： カリタス女子短期大学

講師： ペマ・ギャルポ(桐蔭横浜大学教授/ブータン王国首相顧問)

石田孝夫(カリタス女子短期大学図書館司書/日本ブータン友好協会幹事)

概要： 今話題の「幸せの国」ブータン王国。ブータン国王ご夫妻の通訳を務めたペマ教授が国王
ご夫妻ご訪日時の様子も交えてブータンの魅力を語ります。また、美しい民族衣装や食文
化の体験、ブータン人留学生との交流を通して、真の豊かさを考えましょう。

協力： 日本ブータン友好協会/ブータン人留学生

「かながわソーラーフェア」

日時： 2013年1月26日(土)、27日(日)

場所： 横浜赤レンガ倉庫イベント広場

主催： 神奈川県、かながわソーラーセンター

内容： 太陽光発電に関する一般的な周知を行い、県内における太陽光発電設備の設置に係る新たなニーズの創出を図ることを目的とし、「次世代のフィルム太陽電池」を紹介。

2012年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月26日(木) ～7月5日(木)	10:40～ 12:10	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月26日(木) ～7月5日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
03	知と愛のことども -恋としての哲学-	兒球 光弘 (元桐蔭横浜大学教授)	5月7日(月) ～6月4日(木)	10:40～ 12:10	5	10,000
04	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	4月24日(火) ～6月26日(火)	13:15～ 14:45	8	16,000
05	続日本紀を読む(10)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	6月1日(金) ～7月6日(金)	10:40～ 12:10	9	18,000
06	基礎スペイン語講座① -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月9日(水) ～6月27日(水)	10:40～ 12:10	8	16,000
07	スペイン語会話	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月9日(水) ～6月27日(水)	13:00～ 14:30	8	16,000
08	初級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学講師)	4月24日(火) ～7月3日(火)	14:40～ 16:10	10	20,000
09	プルーアの 『失われた時を求めて』を読む	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	4月24日(火) ～7月3日(火)	13:00～ 14:30	9	18,000
10	ちょっと文乙なドイツ語	鹿兒嶋 繁雄 (桐蔭横浜大学教授)	5月上旬 ～7月下旬		8	16,000
11	はじめよう! 中国語会話 -四声、ピンインから学ぶ-	曾 雪 (中国語講師)	4月25日(水)	10:00～ 15:30	1	6,000
12	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月2日(水) ～7月4日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000
13	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月2日(水) ～7月4日(水)	15:00～ 16:30	10	20,000
14	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月2日(水) ～7月4日(水)	10:15～ 11:45	10	20,000
15	簡単だけれど、お洒落な英語の読み 書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	5月1日(火) ～6月12日(火)	13:00～ 14:30	6	12,000
16	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月27日(金) ～7月6日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
17	学びなおす英語 -上級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月27日(金) ～7月6日(金)	14:40～ 16:10	10	20,000
18	English is fun! -初級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	5月10日(木) ～7月12日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
19	You Can Do it in English! -中級英会話-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	4月下旬 ～7月上旬		10	20,000
20	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	5月10日(木) ～7月12日(木)	10:40～ 12:10	10	20,000
21	行列のできる翻訳者になろう! -特許翻訳・基礎講座-	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	4月24日(火) ～7月3日(火)	10:40～ 12:10	10	20,000
22	何故だと思ふことによって科学に親しもう	川久保 達之 (元桐蔭横浜大学教授)	6月1日(金) ～6月29日(金)	10:40～ 12:10	5	10,000
23	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月10日(木) ～7月12日(木)	10:40～ 12:10	10	25,000
24	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月10日(木) ～7月12日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
25	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	4月24日(火) ～7月10日(火)	10:40～ 12:10	10	25,000
26	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	4月24日(火) ～7月10日(火)	13:00～ 14:30	10	25,000
27	作って楽しむ万華鏡	照木 公子 (万華鏡楽会代表)	7月14日(土) ～8月25日(土)	13:00～ 14:30	6	12,000
28	美とデザイン① -マイ・カラー/マイ・ブランドをつくる-	合原 勝之 (デザインディレクター)	5月7日(月) ～7月9日(月)	13:00～ 14:30	10	20,000

2012年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
29	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月27日(金) ～7月13日(金)	13:15～ 14:45	10	25,000
30	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月27日(金) ～7月13日(金)	10:15～ 11:45	10	25,000
31	歴史上の人物を演じてみよう！ -表現を豊にするワークショップ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月11日(金) ～7月13日(金)	15:15～ 16:45	10	20,000
32	ちょこっとSALSA！！	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月11日(金) ～7月13日(金)	18:00～ 19:30	10	20,000
33	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月11日(金) ～7月13日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
34	身近な脳科学 -脳を知って健康な生活を-	須藤 昭一 (桐蔭横浜大学教授)	5月14日(月) ～6月11日(月)	13:00～ 14:30	5	10,000
35	第一級アマチュア無線技士 -国家試験受験のための無線工学-	吉村 和昭 (元桐蔭横浜大学准教授)	5月8日(火) ～6月26日(火)	10:40～ 12:10	8	16,000
36	「外国人に対する日本語教育」の準備 のための基本講座	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 蟹江 備子(元東海大学留学生教育センター講師)	4月25日(水) ～7月4日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000

2012年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月27日(木) ～11月29日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月27日(木) ～11月29日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	9月25日(火) ～11月13日(火)	13:15～ 14:45	8	16,000
04	続日本紀を読む(11)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	9月13日(木) 14日(金)、18日(火)	10:30～ 14:30	6	12,000
05	基礎スペイン語講座② -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	9月26日(水) ～11月28日(水)	10:30～ 12:00	10	20,000
06	スペイン語会話	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	9月26日(水) ～11月28日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000
07	初級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学講師)	10月2日(火) ～12月11日(火)	14:40～ 16:10	10	20,000
08	ブルースの 『失われた時を求めて』を読む②	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	10月2日(火) ～12月11日(火)	13:00～ 14:30	10	20,000
09	ちょっと文乙なドイツ語(後期)	鹿兒嶋 繁雄 (桐蔭横浜大学教授)	10月12日(金) ～12月7日(金)	10:40～ 12:10	8	16,000
10	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月26日(水) ～12月5日(水)	13:00～ 14:30	11	22,000
11	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月26日(水) ～12月5日(水)	14:50～ 16:20	11	22,000
12	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月26日(水) ～12月5日(水)	10:15～ 11:45	11	22,000
13	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月2日(火) ～11月10日(火)	13:00～ 14:30	8	16,000
14	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月21日(金) ～12月14日(金)	13:00～ 14:30	12	24,000
15	学びなおす英語 -上級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月21日(金) ～12月14日(金)	15:00～ 16:30	12	24,000
16	English is fun! -初級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月27日(木) ～11月29日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
17	You Can Do it in English! -中級英会話-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月24日(月) ～12月3日(月)	10:40～ 12:10	10	20,000
18	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月27日(木) ～11月29日(木)	10:40～ 12:10	10	20,000
19	特許翻訳講座 -作業のムダを減らすための考え方とテクニック(午前クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	9月25日(火) ～12月11日(火)	10:40～ 12:10	9	18,000
20	特許翻訳講座 -作業のムダを減らすための考え方とテクニック(午後クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	9月25日(火) ～12月11日(火)	13:30～ 15:00	9	18,000
21	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月27日(木) ～11月29日(木)	10:30～ 12:00	10	25,000
22	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月27日(木) ～11月29日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
23	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	9月25日(火) ～12月11日(火)	10:30～ 12:00	11	27,500
24	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	9月25日(火) ～12月11日(火)	13:00～ 14:30	11	27,500
25	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月28日(金) ～12月14日(金)	13:15～ 14:45	10	25,000
26	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月28日(金) ～12月14日(金)	10:15～ 11:45	10	25,000
27	古美術に親しむ ～仏像や仏画を中心に～	小栗 淑之 (日本美術書編集者)	9月26日(水) ～11月14日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000

2012年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	歴史上の人物を演じてみよう！ -表現を豊にするワークショップ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月28日(金) ～12月7日(金)	15:15～ 16:45	10	20,000
29	ちょこっとSALSA！！	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月28日(金) ～12月7日(金)	18:00～ 19:30	10	20,000
30	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月28日(金) ～12月7日(金)	13:15～ 14:15	10	20,000
31	身近な脳科学② -脳を知って健康な生活を-	須藤 昭一 (桐蔭横浜大学教授)	11月5日(月) ～12月3日(月)	13:00～ 14:30	5	10,000
32	健康の心理学 -病気ハンザイって言うてみよう?!-	片山 富美代 (桐蔭横浜大学准教授)	10月1日(月) ～11月12日(月)	10:30～ 12:00	6	12,000
33	知って得する無線のしくみ-スカイツーと無線、携帯電話、電波時計、GPSに共通するものは何?-	吉村 和昭 (元桐蔭横浜大学准教授)	9月25日(火)、10月2日(火)、9日(火)	10:30～ 12:00	3	6,000

2012年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月17日(木) ～3月14日(木)	10:30～ 12:00	7	14,000
02	パウロと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月17日(木) ～3月14日(木)	13:00～ 14:30	7	14,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	1月22日(火) ～3月5日(火)	13:15～ 14:45	5	10,000
04	続日本紀を読む(12)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	2月20日(木)、22日(金)、 27日(水)、3月1日(金)	10:30～ 14:30	8	16,000
05	なぜフータンは世界一幸せな国なのか -ヒマヤの小国から私たちが学ぶもの-	ペマ・ギャルポ (桐蔭横浜大学教授)	1月16日(水) ～1月30日(水)	13:00～ 14:30	3	6,000
06	基礎スペイン語講座③ -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月16日(水) ～3月6日(水)	10:30～ 12:00	7	14,000
07	スペイン語会話	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月16日(水) ～3月6日(水)	13:00～ 14:30	7	14,000
08	初級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学講師)	1月15日(火) ～2月26日(火)	14:40～ 16:10	6	12,000
09	プルーストの 『失われた時を求めて』を読む③	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	1月15日(火) ～2月26日(火)	13:00～ 14:30	6	12,000
10	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月16日(水) ～3月6日(水)	13:00～ 14:30	11	22,000
11	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月16日(水) ～3月6日(水)	14:50～ 16:20	11	22,000
12	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月16日(水) ～3月6日(水)	10:15～ 11:45	11	22,000
13	簡単だけれど、お洒落な英語の読み 書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月15日(火) ～3月5日(火)	13:00～ 14:30	7	14,000
14	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	2月15日(金) ～3月22日(金)	13:00～ 14:30	6	12,000
15	学びなおす英語 -上級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	2月15日(金) ～3月22日(金)	14:50～ 16:20	6	12,000
16	English is fun! -初級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月10日(木) ～3月7日(木)	13:00～ 14:30	7	14,000
17	You Can Do it in English! -中級英会話-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月21日(月) ～3月4日(月)	10:40～ 12:10	6	12,000
18	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月10日(木) ～3月7日(木)	10:40～ 12:10	7	14,000
19	特許翻訳講座 -作業のムダを減らすための 考え方とテクニック(午前クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	1月15日(火) ～3月12日(火)	10:40～ 12:10	7	14,000
20	特許翻訳講座 -作業のムダを減らすための 考え方とテクニック(午後クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	1月15日(火) ～3月12日(火)	13:30～ 15:00	7	14,000
21	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月17日(木) ～3月21日(木)	10:30～ 12:00	8	16,000
22	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月17日(木) ～3月21日(木)	13:00～ 14:30	8	16,000
23	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	1月15日(火) ～3月12日(火)	10:30～ 12:00	7	17,500
24	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	1月15日(火) ～3月12日(火)	13:00～ 14:30	7	17,500
25	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	2月15日(金) ～3月22日(金)	13:30～ 15:30	6	20,000
26	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	2月15日(金) ～3月22日(金)	10:30～ 12:30	6	20,000
27	歴史上の人物を演じてみよう! -表現を豊にするワークショップ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月25日(金) ～3月29日(金)	15:15～ 16:45	8	16,000

2012年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	ちょこっとSALSA！！	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月25日(金) ～3月29日(金)	18:00～ 19:30	8	16,000
29	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月25日(金) ～3月29日(金)	13:15～ 14:45	8	16,000
30	おもしろ健康づくり座談会 -話す！見つける！変わる(若返る?)！-	片山 富美代 (桐蔭横浜大学准教授)	1月23日(水) ～3月6日(水)	10:30～ 12:00	6	12,000

桐蔭横浜大学学術交流レポート2012

2014年1月発行

発行人：小島武司

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 大学事務局

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://www.toin.ac.jp/univ/>
